

14.21  
87



始



大正七年度

千葉縣水產試驗場報告

1426-87

七年度正千葉縣水產試驗場報告

目次

漁撈部

一、鮭漁場調查

趣旨……………一

漁況……………一

漁業日誌……………四

漁場圖……………九

鮭初漁對照表……………〇

二、秋刀魚漁場調查

趣旨……………四

漁況……………五

目次……………一

大正 9.7 寄贈

寄贈本

漁業日誌 ..... 一八

秋刀魚初漁對照表 ..... 二二

三、鮪漁場調查 ..... 二七

趣旨 ..... 二七

經過概況 ..... 二七

漁況 ..... 二七

漁業日誌 ..... 三〇

漁場圖 ..... 三六

四、深海漁業試驗 ..... 三六

試驗經過概要 ..... 三六

漁具構造 ..... 三七

五、造船術傳習 ..... 四〇

六、石油發動機運用法傳習 ..... 四〇

製造部

一、煮乾鹽乾燥機試驗 ..... 四一

要旨 ..... 四一

試驗經過及成績 ..... 四一

二、海苔乾燥機委託試驗 ..... 四五

要旨 ..... 四五

試驗經過及成績 ..... 四五

乾燥機圖面 ..... 四六

築設費 ..... 五〇

三、雜試驗 ..... 五二

鱈油漬罐詰製造試驗 ..... 五六

要旨 ..... 五六

試驗方法 ..... 五六

試驗成績 ..... 五七

四、鯉節製造傳習 ..... 五八



五、罐詰製造傳習

五九

六、和布製造傳習

六〇

養殖部

一、海苔養殖試驗

六一

海苔施肥試驗

六一

要旨

六一

試驗方法及經過

六一

試驗成績

六四

海苔換材料試驗

六六

要旨

六六

試驗方法及經過

六六

試驗成績

六八

五井浦海苔作柄概況

六九

五井浦觀測表

七二

二、牡蠣養殖試驗

八一

要旨

八一

試驗經過及成績

八一

三、かぢめ成長試驗

八六

要旨

八六

試驗經過及成績

八七

四、鮑蕃殖委託試驗

九一

要旨

九一

試驗經過及成績

九一

五、鳥介(淡介)移殖試驗

九四

趣旨

九五

移殖方法

九五

試驗成績

九七

六、雜試驗

九九

目次

目次  
 蝶螺ノ産卵時期調査……………九九

調査部

一、海洋調査……………一〇五  
 二、沿岸漁場観測並に漁況……………一一八

目次終

大正七年 千葉縣水産試驗場報告

漁撈部

一、鯉漁場調査

趣旨

前年度ニ繼續シ主トシテ房總沖合ヨリ、伊豆七島、並ニ鹿島灘、附近ノ鯉漁場ヲ探檢シ、漁場ト水温比重潮流等トノ關係ヲ調査シ、其ノ調査事實ハ掲旗信號ニ依リ沖合出漁船ハ勿論、本船航過附近ノ漁村ヘ周知セシメ、一面電報通信ニ依リ關係漁村ヘ速報シ、以テ斯業開發ノ資ニ供シタリ。

漁況

五月、本月二日、上總太東岬沖約八哩ニ於テ一貫匁約百四十尾ヲ釣獲セシヲ以テ、縣下沖合ニ於ケル初漁トシ、以後四五日間ハ同方面ニ於テ、びんなが交リ一航海七、八十尾ノ漁獲アリシモ、爾後殆ント鯉群ノ來游ナク縣下外海方面ハ全ク閑散ニ終レリ。然レドモ、伊豆三宅島附近ノ漁場ハ前月ニ引續キ、魚群ノ來游多ク同方面ニ出漁セシ漁船ハ、全月ヲ通シ、相當漁獲アリ、最良船一航海五、六百尾、乃至千五、六百尾ノ漁獲アリ潮色良好ニシテ北東流速ク表面水温二十度、以上二十一度二分、ヲ示セリ。此ノ外、神津島、及錢洲、黒潮、附近漁場ニ於テモ相當漁獲アリ、魚體ハ一尾大二貫匁ヨリ、小五、六百匁ノモノアリシモ、一貫匁内外ノモノ最モ多シ、價格ハ一貫匁一圓三十錢、乃至一

一、鯉漁場調査

圓四、五十錢ニシテ、多ク京濱市場ニ生賣セラレタリ。餌料鯉ハ上旬ニ於テハ、館山灣ニ少許ノ漁獲ヲ見シ外、一般頗ル不況ニシテ、多數漁船ノ需用ヲ充タス能ハズ、中下旬ニ至リテハ、多クハ相州浦賀方面ヨリ購入セシモ、各地其ノ餌料鯉拂底ノ爲、價格高騰シ、一籠八、九圓、乃至十圓以上ノ高價ヲ唱へ、下旬ニ在リテハ、該方面ノ餌料全ク缺乏セシヲ以テ、遂ニ休漁ノ止ムナキニ至レリ。

六月、本月ニ於ケル縣下外房夷隅沖合漁場ハ、依然鯉ノ來游少ク、稀レニ距岸七、八哩乃至十五哩、内外ニ四、五百尾ノ漁獲アリシ以外、一般ニ閑散ナリ、然ルニ銚子方面ニアリテハ、十二日犬吠岬東方二十哩内外(表水溫十九度)ノ漁場ニ於テ、一隻千五、六百尾ノ初漁アリテヨリ、引續キ月末ニ亘リ、同沖合ヨリ鹿島灘沖合ニ、魚群ノ來游多ク、最良船ハ一航海八百尾、乃至三千五、六百尾ノ漁獲アリテ、大イニ活氣ヲ呈スルニ至リシヲ以テ、縣下漁船ノ多クハ同方面ニ出漁セリ、又三宅島及三本嶽附近ノ漁場モ、前月ニ引續キ相當魚群ノ來游アリテ、普通二百尾乃至五、六百尾ノ漁獲アリ、稀ニ二千尾内外ノ好漁アリシモ群大ナルニ比シ餌付良好ナラズ、漁場表水溫ハ二十二度八分、乃至二十三度二分ヲ示シ、真潮(北東流)普通ナリ、魚體ハ銚子方面漁場ニ於テハ、七、八百尾、乃至一貫二百尾平均九百尾位ニシテ、價格ハ一貫六、七十錢ナリ、主トシテ、節ニ製造セラレシモ、三宅島附近漁場ノモノハ、四、五百尾ヨリ、一貫五、六百尾普通六、七百尾ノモノ多ク、價格ハ一貫一圓、乃至一圓十錢内外ニシテ、主トシテ京濱市場ニ生賣セラレタリ、餌料鯉ハ、上旬館山灣ニ於テ相當漁獲アリシモ、魚體大ニ過ギ、餌料ニ適セズ、相州浦賀及伊豆方面ヨリ購入セリ、然レドモ、一般ニ不漁ナリシ爲、價格暴騰シ一籠十三圓以上十六圓ヲ呼ビタリ。

七月、前月中旬ヨリ殷賑ナリシ銚子沖合漁場ハ、其後魚群漸次沖合ニ移動シ、本月ニ入りテハ、距岸百哩以上百六十哩ニ亘リ、一航海八百尾乃至千尾ノ漁獲ヲナスモノアリシモ、餌料不良ノ爲、好漁ヲ告ケルニ至ラズ、中旬ニアリテ

ハ、荒天多ク出漁日數ヲ減ジ、甚不振ニ終レリ、下旬ニ至リ、魚群稍沿岸ニ來游シ、六十哩乃至百哩内外ニ於テ、最良船一航海四百尾乃至千三百尾ノ漁獲アリシモ、餌料不足ノ爲メ、一般ニ漁獲ヲ揚グルニ至ラズ、月末ニ至リ、魚群益々陸岸ニ接近シ、二三十哩ノ沖合ニテ、最良船ハ千四百尾ノ好漁ヲナセリ、然レモ外房夷隅沖合ハ依然魚群ノ來游ナク、不漁ニ終レリ、又伊豆七島方面ノ漁場モ魚群ノ來游減シ思ハシキ漁獲ヲ收ムルコト不能、僅カニ三宅島附近ニテ十七、八日頃五、六百尾乃至千尾ノ漁獲アリシモ、爾後魚群稀薄トナリ、餌付不良ニシテ遂ニ不漁トナレリ、魚體ハ銚子沖合ノモノハ、七、八百尾乃至一貫五、八十錢三宅島附近漁場ノモノハ五、六百尾乃至一貫二、三百尾ニシテ五、六百尾ノモノ多ク、價格ハ一貫一圓十錢内外ニ賣買セラレタリ、漁場水溫ハ銚子沖合ハ、二十哩附近迄十九度五分乃至二十度ニシテ東流緩ナレモ、其以上ノ沖合ハ二十三度乃至二十四度ヲ示シ、東流頗ル急ナリ、而シテ鹿島沖合ニ至ルニ從ヒ潮色良好トナルモ、水溫低下シ、六十哩ニテ十九度ヲ示セリ、外房夷隅沖合ハ距岸一、二哩ニシテ、二十二度、二十哩ニシテ二十五度、五十哩ニシテ二十四度五分ヲ示シ、北東流急ニシテ潮色良好ナリ、七島方面ノ漁場ハ、表水溫二十六度以上二十八度ノ高度ヲ示セリ、餌料鯉ハ各地共一般ニ拂底ニシテ、價格モ從テ高ク、一籠十三圓内外ヲ唱へ多數漁船ノ需用ヲ充タヌヲ得ズ、鯉ノ漁獲ニ大影響ヲ及ボセリ。

漁獲表

月日	天候	漁場	漁具	漁具	表面	比重	比重	潮流	餌料	漁獲	種類	數量	平均	尾ノ	價	物
五、二六	B	イ	午後二時 三時半	同	三〇、〇	一八、五	三、八	東急北	い	表面	を	一三	一、〇	一、〇	一、〇	類

日	時	船名	場所	風向	風速	天候	雲	波	魚	魚種	魚数	重量
五、五	午後六時	ハロ	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	100	250
五、二六	午後六時	ニ	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	101	250
六、一五	午後一時半	ホ	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	101	250
六、二二	午後三時	ヘ	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	101	250
六、二四	午後三時	ト	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	101	250
七、二二	午前九時半	リ	那古	北	急	晴	少	小	鯉	北	101	250

漁業日誌

五月十二日 出漁準備ノ爲、淡水ノ積込ヲナシ、那古へ廻船ノ上漁具及氷ヲ積入ル。  
 同 十三日 餌料鯉ヲ積込ミ出漁、魚群ヲ搜索シツ、沖合ニ向ヒシガ西強風トナリ、三宅島釜ノ尻ニ假泊ス。  
 同 十四日 同地出帆、三宅島阿古ヨリ坪田沖ニテ鯉群ニ、三ヲ認メシモあまこ付ニテ餌料ニ付カズ、西強風トナリテ赤羽毛碇泊。  
 同 十五日 出帆、御倉島附近ヨリ黒潮ヲ搜索シ、鯉ノ小群ニ出會セシモ、餌付悪シク夜間八丈島北方五哩ニテ漂流ス。  
 同 十六日 (イ)漁場ニ於テ釣獲ニ從事ス、餌付良好ナリ、釣獲後歸航。  
 同 十七日 船形歸港、漁獲物陸揚後館山廻船碇泊。

同 十八日 炭水ノ積込ヲナシ船形へ廻船、夜間館山灣内ニ於テ篝火器ヲ使用シ、餌料鯉焚入試験ヲナスモ集魚ナシ。  
 同 十九日 引續キ篝火器試験ヲナスモ集魚ナク、投網ニ至ラズ、船形歸港、午後降雨ノ爲碇泊。  
 同 二十日 南強風トナリ、天候險惡ノ爲館山廻船碇泊。  
 同 廿一日 南西強風ノ爲碇泊、夜間風力衰ヘタルヲ以テ篝火器試験準備ヲナス。  
 同 廿二日 館山灣内ニ於テ篝火器試験ヲナスモ鯉ノ集合ヲ見ズ、那古歸港、日没後再ビ試験ヲナス、遂ニ集魚ヲ見ズ。  
 同 廿三日 引續キ篝火器試験ヲナスモ集魚ナシ、鯉購入ノ爲浦賀ニ至ル、浦賀碇泊。  
 同 廿四日 浦賀ニテ鯉ヲ積込ミ三宅島沖合ニ向フ、途上鳥影多キモ魚群ヲ見ズ、三宅島伊ヶ谷着漁況照會後餌料鯉ノ活キ悪シキ爲、三本嶽附近ニ漂流ス。  
 同 廿五日 三本嶽漁場ハ、鮪交リニテ餌付不良ナリシヲ以テ阿古沖ニ至リ釣獲ス、餌付良好三宅島伊ヶ谷着後漁獲物ヲ陸揚、碇泊。  
 同 廿六日 (ニ)漁場ニ於テ從漁後般形歸港、漁獲物陸揚館山ニ廻般碇泊。  
 同 廿七日 館山碇泊炭水ノ積込ヲナス。  
 同 廿八日 餌料鯉ヲ浦賀ニ照會スルモナシ、午後降雨トナル碇泊。  
 同 廿九日 北強風天候不良ノ爲碇泊。  
 同 卅日 淡水ノ補給ヲナシ、那古廻船碇泊。

一、鯉漁場調査



一、鯉漁場調査

同 卅一日 餌料ナキ爲メ碇泊、午後ニ至リ天候險惡トナリ館山ニ廻船碇泊。  
 六月一日 天候不良ノ爲碇泊。  
 同 二日 同上。  
 同 三日 同上。  
 同 四日 同上。  
 同 五日 同上。  
 同 六日 海洋觀測ノ爲出帆、沖合ニ向フ。  
 同 七日 白濱燈臺沖合ヨリ正東百渾ノ橫斷觀測施行。  
 同 八日 那古歸港、館山廻船碇泊。  
 同 九日 炭水ノ補給ヲナス。  
 同 十日 東南東風強ク出漁不可能碇泊。  
 同 十一日 皇太子殿下、御召艦御碇泊ノ爲、漁船警戒ノ任ニ就ク。  
 同 十二日 皇太子殿下、奉送後夜間館山港ニテ篝火器試驗ヲナス。  
 同 十三日 那古ニ廻船ス。  
 同 十四日 餌料鱈ヲ積込ミ出漁、外房夷隅沖合鯉漁場調査ヲナスモ魚影ヲ認メズ鳥山沖ニ漂流ス。  
 同 十五日 (ホ) 漁場ニ於テ鯉群二、三ヲ認ムルモ何レモ餌付惡シク、目楳木一尾銛突漁獲ス、銚子歸港漁獲物ヲ陸揚碇泊。

同 十六日 同地出帆、銚子沖合ヨリ九十九里沖合ヲ搜索セシモ魚影ヲ見ズ、勝浦ニ入港セシモ餌料鱈活力衰ヘタルヲ以テ沖合ニ漂流ス。  
 同 十七日 外房沖合ニ於テ鯉群二、三ヲ認メシモ何レモ餌ニ付カズ、船形歸港碇泊。  
 同 十八日 炭水ノ積込ヲナス。  
 同 十九日 降雨ノ爲碇泊。  
 同 二十日 餌料鱈購入ノ爲、浦賀ニ向フ碇泊。  
 同 廿一日 北強風雨ノ爲碇泊。  
 同 廿二日 同地出帆外房沖合ヲ搜索セシモ魚影ヲ認メズ、七島方面ニ向フ、途中鯉群二、三ヲ認メシモ餌ニ付カズ大島波浮ニ入港碇泊。  
 同 廿三日 (ハ) 漁場ニ於テ釣獲セシモ群大ナル割合ニ餌付不良ナリ、從漁後三宅島伊ヶ谷ニ碇泊。  
 同 廿四日 降雨ニシテ南強風ノ爲釜尻ニ避難、午後稍風力衰ヘタルヲ以テ(ト) 漁場ニ出漁從漁後歸航ス。  
 同 廿五日 那古歸港後館山ニ轉碇泊。  
 同 廿六日 南西強風ノ爲碇泊。  
 同 廿七日 天候不良ノ爲碇泊。  
 同 廿八日 炭水ノ積込ミヲナス。  
 同 廿九日 諸具ノ乾燥ヲナス、南西強風ノ爲碇泊。  
 同 卅日 南西強風ノ爲碇泊。

一、鯉漁場調査

一、鯉漁場調査

七月一日 同上。  
 二日 同上。  
 三日 那古へ廻船食料品ノ積込ミヲナス、午後南強風トナリ館山ニ轉錨碇泊。  
 四日 南強風ノ爲碇泊。  
 五日 引船ノ爲出帆乙濱ニ向フ。  
 六日 第三房總丸引船館山歸港。  
 七日 南西強風ノ爲碇泊。  
 八日 船形へ廻船、餌料積込ミノ上出帆、白濱沖ヨリ横斷觀測施行セシモ途中採水器流失ノ爲觀測中止、銚子沖合ニ向フ。  
 九日 銚子沖合ヲ搜索シタルモ海上寂寞魚影ヲ認メズ、銚子ニ向フ。  
 十日 銚子沖合ヲ搜索、魚影ヲ認メザル爲外房沖合ニ航ス。  
 十一日 夷隅外房沖合ヲ搜索スルモ途ニ魚影ヲ見ズ、那古歸港。  
 十二日 南強風ノ爲碇泊。  
 十三日 雨霽ル、諸具ノ乾燥ヲナス。  
 十四日 南風強ク碇泊。  
 十五日 炭水積込ヲナス。  
 十六日 降雨ノ爲碇泊。

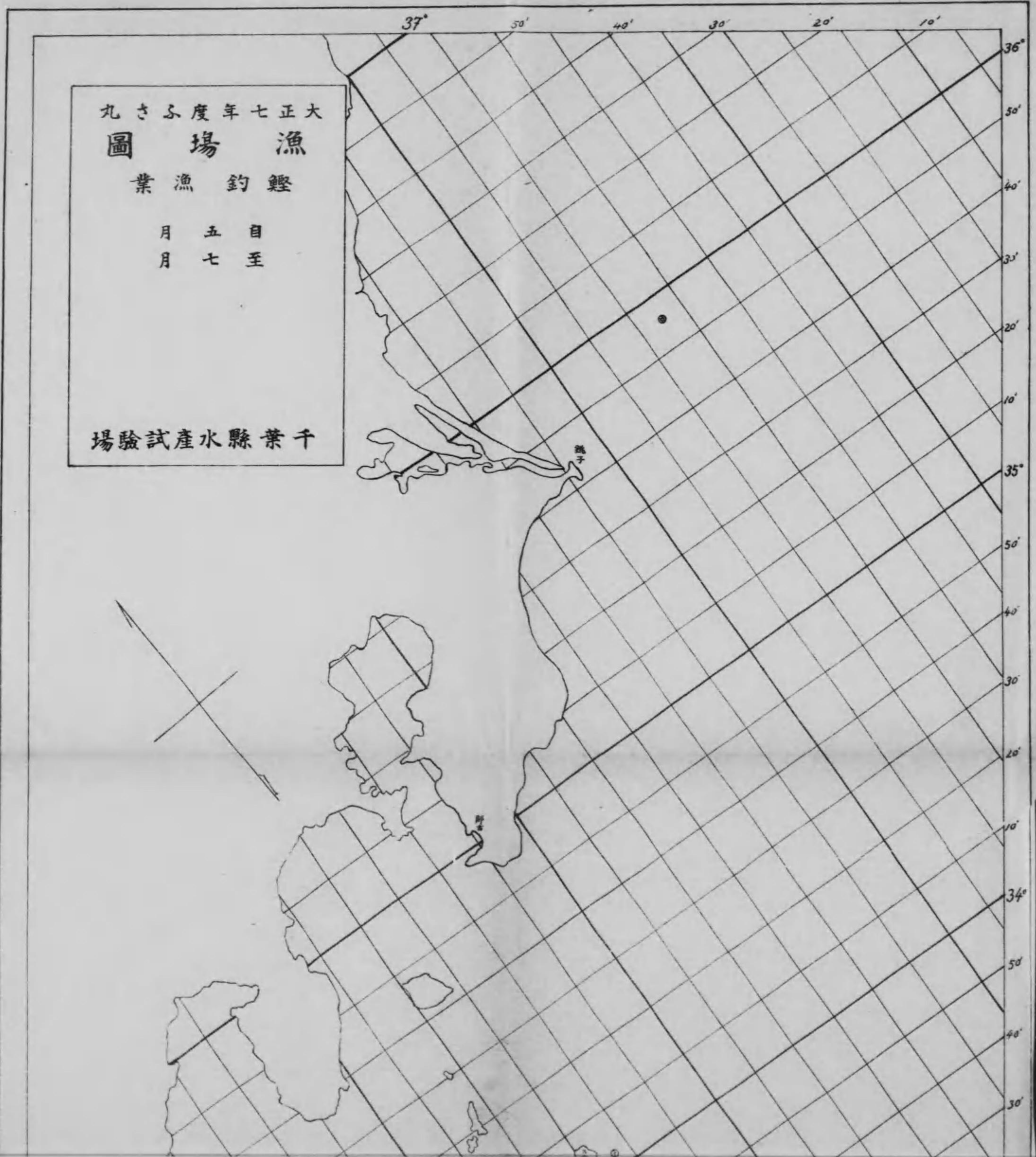
同 十七日 同上。  
 同 十八日 同上。  
 同 十九日 同上。  
 同 二十日 餌料ヲ積込ミ出漁、魚群ヲ探索シツ、七島ニ向フ。  
 同 廿一日 (チ) 漁場ニ於テ釣獲ニ從事セシモ餌料不良、潮色頗ル良好ナルモ群少ナク、伊ヶ谷碇泊。  
 同 廿二日 (リ) 漁場ニ於テ釣獲ス、群小ニ餌付不良、從漁後新島利島附近ヲ探索セシモ魚群ヲ認メズ、大島波浮入港碇泊。  
 同 廿三日 同地出帆、外房沖合ヲ搜索セシモ海上寂寞ノ爲メ那古歸港、夜間集魚電燈試驗ニ從事ス。  
 同 廿四日 漁具陸上、乾燥、本船館山ニ轉錨、試驗調査ヲ終了ス。

鯉 初漁 日

縣名	年度	初日	漁場	表面水温	同比重	漁具	最多一尾尾數	一尾平均重量	備	考
高知	六	四、上旬	六ノ島附近足摺崎沖合	三二						
德島	七	五、上旬	須崎南方沖合約四十五哩	三〇						
和歌山	七	四、五室	戸崎沖合					1.100		



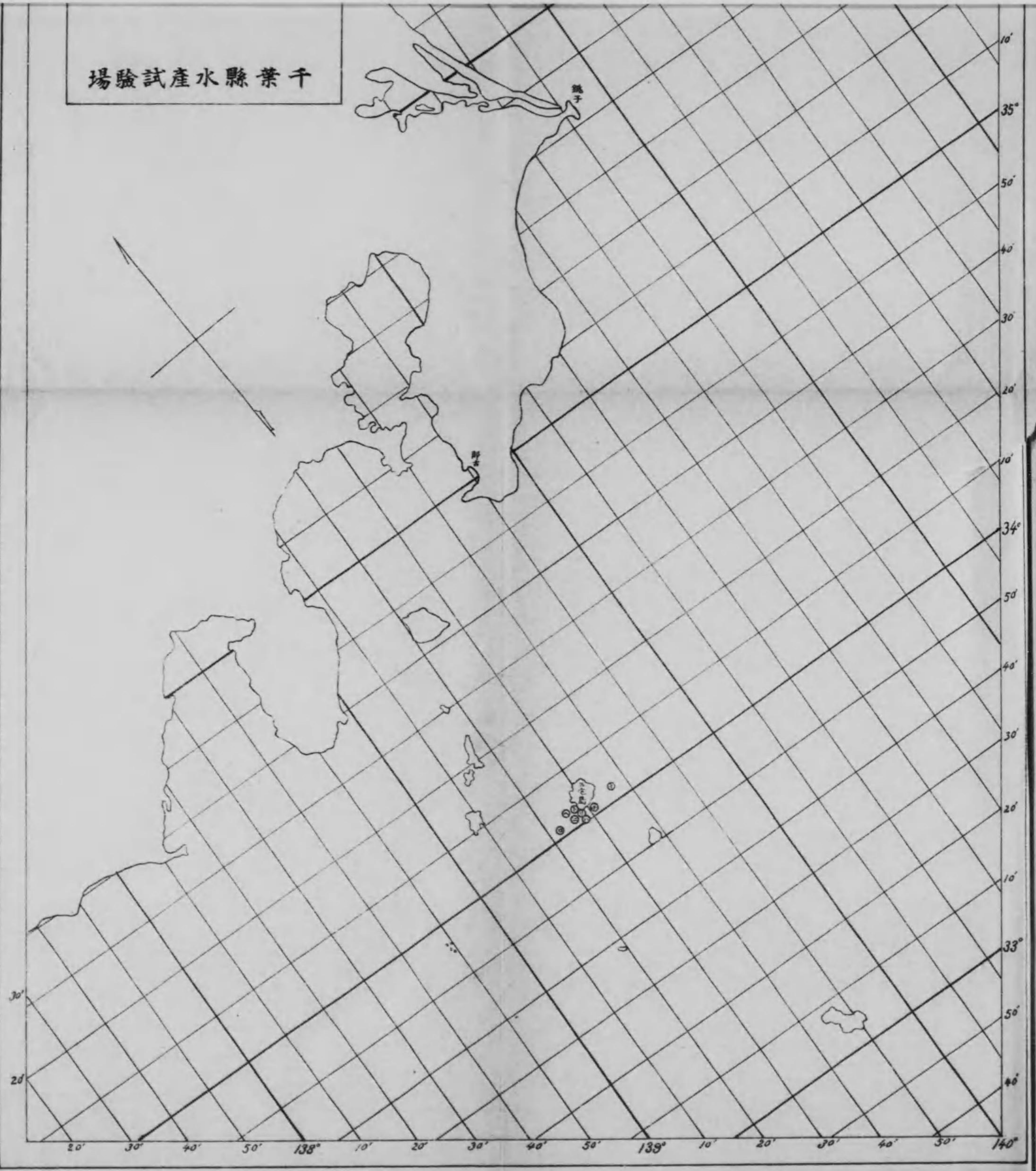




大正七年七月九日  
**漁場圖**  
 鯉釣漁業  
 自五月至七月  
 千葉縣水産試験場



千葉縣水產試驗場









ノ高價ヲ呼ベリ、而シテ本年ノ初漁日ハ前記ノ如ク六日ニシテ、平年ノ初漁(最近五ヶ年平均)十月二十三日ニ比シ、約二旬早カリシモ、魚群頗ル稀薄ニシテ前掲以外ニハ二十日、安房郡外海ニ於テ十數尾ノ漁獲アリタルノミニシテ著シキ漁獲ナシ。

十一月、東北方面ニ於ケル漁況ハ、依然不況ニシテ其來遊極メテ少ク、稀ニ魚群ヲ認ムルモ稀薄ニシテ投網ノ機會乏シク、本船ハ十三日夜僅カニ一回秋刀魚流網ヲ使用シタルニ過ギズ、主トシテ鮪延繩ニ從事セリ。

本縣下ニアリテハ四日夜、犬吠岬東北東五十五哩内外ニテ、最高一隻八萬尾、普通五六千尾、ノ漁獲アリテ稍活氣ヲ呈シタルモ、漸次其ノ來游減シ中下旬ニ亘リテハ最良船一隻一、二萬尾ノ漁獲ヲ繼續モシモ是等ハ少數漁船ニ止マリ、一般ニ好漁ヲ唱フルニ至ラズ、漁場ハ上中旬ニアリテハ、距岸五六十里ナリシガ、下旬ニ至リ漸次沖合ニ移動シ、八十哩ヨリ百哩内外ニ及ベリ、潮流ハ五十哩以内南、東流ニシテ以上ノ沖合ハ、北東流ニシテ何レモ流速速カナリ、魚群ハ主トシテ、兩潮(セリ合ヒ)間ニ多ク、晝間目撃スル割合ニ夜間獲魚少カリシガ如シ、外房及ビ夷隅沖合ハ五、六日頃距岸五、六哩ニ於テ流網旋網トモ、最高四、五百尾ノ漁獲アリシ外、殆ンド見ルベキ漁事ナカリシガ、超エテ十八日旋網最高二萬尾、流網二、三千尾ノ漁獲アリテヨリ、下旬ニ及ビ二千尾乃至一萬尾ノ漁獲アリシモ、是等ハ少數漁船ニ止マリ、一般ニ好漁ヲ告グルニ至ラザリキ。魚價、全月ヲ通シ最高一尾七錢ヨリ、最低二錢五、六厘普通三、四錢ニ就賣セラレタリ。

漁獲表

月日	天候	漁場	漁具	漁具	海面	比重	潮流	餌料	漁獲時	種類	數量	平均重量	價額
一〇、一〇	B	イ	午後一時半	同使	一七四		南南東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一六		一、〇〇〇
一〇、一二	B	ロ	午後九時	同使	一九三		南南東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、一四	B	ハ	午後十二時	同使	一七〇		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、一五	BC	ニ	午前十一時半	同使	一七〇		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、一七	B	ホ	午後三時	同使	一九二		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、一八	B	ヘ	午前正時	同使	一八八		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、二〇	B	ト	午後九時半	同使	一八八		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、二二	B	チ	午前十一時半	同使	一六〇		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、二八	B	リ	午後五時半	同使	一七二		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、三〇	R	ル	午後四時半	同使	一七七		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一〇、三一	B	ル	午後二時半	同使	一七三		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇
一一、二	C	オ	午後四時半	同使	一五六		急東	柔魚	一五〇〇	よしきり	一		一、〇〇〇

二、秋刀魚漁場調査

一、一、五	一、一、二	一、一、三	一、一、六	一、一、一〇
C	B	C	B	B
1	3	2	4	3
レ	カ	ヨ	タ	レ
午後八時半	午後八時半	午後三時半	午後六時半	午後八時半
二、四、五	一、三、四	一、三、四	一、五、四	一、六、三
南	南	南	南	南
急	緩	緩	急	急
魚	魚	魚	魚	魚
一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
よしきり	よしきり	よしきり	よしきり	よしきり
七	七	七	七	七
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

一八

漁業日誌

十月一日 出漁準備。  
 同 二日 同上。  
 同 三日 同上。  
 同 四日 同上。  
 同 五日 野島崎正東百漕横断観測ヲ兼テ、秋刀魚漁場調査ノ爲メ館山港出帆、東北方面ニ向フ。  
 同 六日 午前二時二十分横断観測終了後、針路ヲ北ニ取り航行、午後十一時金華山燈臺ヲ見ル。  
 同 七日 午前五時四十分鮎川入港、炭水ヲ補給ス。  
 同 八日 同港出帆、漁場ヲ探索シツツ北航ス、秋刀魚更ニ見エズ氣仙沼ニ入港ス。  
 同 九日 同港出帆、漁場ヲ探索シツツ北航ス、秋刀魚ヲ認メズ、午後五時十五分釜石ニ入港ス。

同 十日 午前八時同港出帆、沖合ニ秋刀魚ノ飛躍スルヲ認メシモ投網スルニ至ラズ、鮪延繩ニ従事ス。  
 同 十一日 天候險惡トナリ、午前九時十分釜石入港、漁獲物ノ陸揚ヲナス。  
 同 十二日 炭水補給ノ上、午前九時出漁、鮪延繩ニ従事ス、漁獲ナシ、終了後漂流ス。  
 同 十三日 午前六時ヨリ秋刀魚ノ探索ニ従事シタルモ魚影ヲ認メズ、正午歸港ノ途ニ就ク、午後四時四十五分釜石入港。  
 同 十四日 午前七時五分同地出帆、鮪延繩ニ従事ス、終漁後メンスルヲ展シ、南南東ニ航ス。  
 同 十五日 鮪延繩ニ従事ス、終了後秋刀魚ヲ探索セシモ魚影ヲ見ズ、午後十時五十分氣仙沼入港。  
 同 十六日 漁獲物ヲ陸揚ス、荒天ノ爲碇泊。  
 同 十七日 午前七時半出帆、秋刀魚ヲ探索スルモ認メズ、鮪延繩ヲ使用ス、終漁後漂流。  
 同 十八日 鮪延繩使用、終漁後秋刀魚ヲ探索シツツ歸港、午後十時四十五分釜石入港。  
 同 十九日 漁獲物陸揚後、炭水ノ補給ヲナス。  
 同 二十日 午前六時出帆、秋刀魚ヲ認メザルヲ以テ、鮪延繩ニ従事、終漁後漂流ス。  
 同 廿一日 鮪延繩ニ従事、終漁後秋刀魚ヲ探索シツツ歸港釜石入港。  
 同 廿二日 漁獲物陸揚後、炭水ノ補給ヲナス。  
 同 廿三日 荒天ノ爲休漁、漁具ノ手入ヲナス。  
 同 廿四日 午前七時五分釜石出帆、秋刀魚漁場ヲ調査ス、午後天候不良トナリシ爲、鰈ヶ崎入港。  
 同 廿五日 午前六時五十分出帆、秋刀魚漁場ヲ調査ス、午前九時ヨリ西風強烈トナリシ爲、釜石ニ避難ス。

二、秋刀魚漁場調査

二、秋刀魚漁場調査

同 廿六日 炭水補給シ、午前十一時十五分出帆、秋刀魚ヲ探索ス、魚群ヲ認メザリシ爲、夜ニ入り柔魚釣ニ從事ス。

同 廿七日 天候不良トナリ、午前六時歸航ノ途ニツク、同八時二十分釜石入港、汽罐ノブローヲナス。

同 廿八日 午前六時十五分出帆、秋刀魚漁場ノ調査ヲナスモ魚影ヲ見ズ、夜間柔魚釣ヲナス。

同 廿九日 柔魚釣終了後歸港、午前四時五分釜石入港、漁獲物ノ陸揚ヲナス。

同 三十日 午前八時四十五分出帆、秋刀魚ヲ認メズ、夜間柔魚釣ヲナス。

同 卅一日 鮪延繩ニ從事、終漁後秋刀魚ヲ搜索シツ歸港、午後九時四十五分氣仙沼入港。

十一月 一日 秋刀魚ノ少漁アリシヲ聞キ、午後四時二十分出帆、秋刀魚ヲ認メズ、本船漂流ス。

同 二日 鮪延繩ニ從事、午後六時氣仙沼入港。

同 三日 漁獲物陸揚後、漁具ノ手入ヲナス。

同 四日 午前八時二十分出帆セシモ波高ク、從漁不可能、午後二時二十分釜石入港、炭水ノ補給ヲナス。

同 五日 午前九時十五分出帆、漁場ヲ探索スルモ秋刀魚ヲ認メズ、鮪延繩ニ從事ス。

同 六日 天候險惡トナリ、午前九時三十五分氣仙沼入港、漁獲物陸揚ヲナス、銚子沖及茨城沖合秋刀魚大漁トノ報ニ接ス。

同 七日 荒天ノ爲碇泊。

同 八日 同上。

同 九日 午前八時二十分、出帆セルモ風波烈シク同十一時四十分鮪立ニ入港。

同 十日 午前六時十五分出帆セルモ波高ク、午後五時四十五分釜石入港。

同 十一日 荒天ノ爲碇泊、炭水補給ヲナス。

同 十二日 午前六時三十五分出帆、鮪延繩ニ從事ス、從漁中秋刀魚ヲ認メタルヲ以テ直チニ繩ヲ繰リ入レ、午後三時二十分秋刀魚流網ヲ投ズ。

同 十三日 午前五時三十分揚網ニ着手ス、終了後歸港シ午後三時四十分氣仙沼入港、漁獲物ヲ陸揚ス。

同 十四日 荒天ノ爲碇泊。

同 十五日 同上。

同 十六日 午前八時五分氣仙沼出帆、秋刀魚漁場ノ調査ニ從事シ、夜間柔魚釣ヲナス。

同 十七日 午前六時四十分釜石入港、漁獲物ノ陸揚ヲナス。

同 十八日 荒天ノ爲碇泊。

同 十九日 同上。

同 二十日 午前八時二十分出帆、秋刀魚漁場ヲ調査スルモ魚影ヲ認メズ、鮪延繩ニ從事ス。

同 廿一日 午前三時三十分氣仙沼ニ入港、漁獲物ノ陸揚ヲナス。

同 廿二日 荒天ノ爲碇泊、漁具ノ手入ヲナス。

同 廿三日 同上。

同 廿四日 船員多數流行性感冒ニ罹リタル爲休船。

同 廿五日 同上。

二、秋刀魚漁場調査

二、秋刀魚漁場調査

同 廿六日 同上。

同 廿七日 本調査ヲ終了シ歸場ノ途ニ就ク爲午前八時五十分氣仙沼出帆、午後二時二十分鮎川着、炭水ノ補給ヲナス。

同 廿八日 午前五時十分出帆、午後三時二十五分鹽屋崎並航、九時犬吠岬燈臺ヲ南西微南ニ見ル。

同 廿九日 午前零時四十分犬吠岬燈臺並航、四時四十分太東崎並航、十一時三十分那古着、午後二時五十五分館山投錨。

同 三十日 那古へ廻船、漁具陸揚ヲナス。

秋刀魚初漁表

縣名	年度	月初日	場	表面水温	同比重	漁具	最多一隻漁獲尾數	一尾平均格	備考
岩手	七	二〇	三閉伊崎ノ東五十五湍			流網	〇		
宮城	同	二〇	三歌津崎沖二十湍			同	二,〇〇〇		二十六日金華山東方十六湍ニテ魚群ヲ認ム
福島	同	二	二原釜沖二十三湍			同	一,〇〇〇		
茨城	同	二	二大津鼻三十湍			同	二〇,〇〇〇	一一〇	
千葉	同	二	二勝浦町沖五湍			同	七		

秋刀魚初漁對照表

縣名	年度	月初日	場	表面水温	同比重	漁具	最多一隻漁獲尾數	一尾平均格	備考
静岡	同	二	二富戸沖			同	六〇〇	三	
三重	同	二	二大王崎東南東七湍			同	四,〇〇〇	四	
和歌山	同	二	二熊野沖四五湍			同	一,〇〇〇		二十四日熊野沖合ニテ秋刀魚ヲ認ム

縣名	年度	月初日	場	表面水温	同比重	漁具	最多一隻漁獲尾數	一尾平均格	備考
岩手	元	二〇	八月山東北東十九湍	一五.〇		流網	六〇〇	二〇	使用網數十反
	二	九	二閉伊崎南微西五湍	一八.〇		同	一,〇〇〇	三	使用網數十五反
	三	三	三御箱崎東微北五湍	三〇.〇		同	四,〇〇〇	二五	十日釜石沖ニテ魚群ヲ認ム
	四	〇	三御箱崎沖十湍附近	一七.〇	一.〇三〇	同	一,〇〇〇	二	
	五	二	二宮古沖五湍	一六.六	一.〇三〇	同	二,〇〇〇	二	
	六	〇	二宮古沖五湍			同	一〇〇	六	
	七	〇	三閉伊崎ノ東五十五湍			同	八〇	六	
宮城	元	二〇	四金華山東北東二十五湍	一六.五	一.〇三〇	流網	八,〇〇〇	三	潮流南東、下等鹽ヲ用ヒタル爲價額廉ナリ
	二	〇	二金華山沖三十湍			同	五,〇〇〇	二	價額ハ濱相場
	三	〇	三金華山沖			同	五,〇〇〇	二	福島縣漁船ノ漁獲ナリ
	四	二	一金華山東北東三十二湍	一〇.〇		同	二,〇〇〇	三	十月十四日江ノ浦東十二湍ニテ秋刀魚ヲ認メタルモノアリ

二、秋刀魚漁場調査



二、秋刀魚漁場調査

和歌山			徳島			高知		
元	二	三	元	二	三	元	二	三
三、三勝浦沖十二湊乃至十八湊	二、三新宮川沖八、九湊	二、三熊野沖四、五湊	三、三阿波尖喰村沖六、七湊	二、三蒲生田岬南湊乃至十湊	二、三日和佐沖十湊	二、三安藝郡賀領郷ヨリ同郡甲浦沖五湊	二、三同上	二、三同上
三、六〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二、〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
元	元	元	元	元	元	元	元	元
十一月二日木島沖十七湊水温二十度ノ處ニ秋刀魚ノ飛躍ヲ認ム	二十四日熊野沖合ニテ秋刀魚ヲ認							

### 三、鮪漁場調査

#### 趣 旨

前年度ヨリノ繼續事業ニシテ、本年ニ於テハ、主トシテ延縄ヲ使用シ、房總沖合ニ於ケル、鮪漁場ヲ探検シ、該漁場ト水温比重潮流等トノ關係ヲ調査シ、將來漁業ノ豊凶ヲ豫察スルノ參考ニ供スルト共ニ、一面新漁場ノ探検ニ從事シ、以テ斯業開發ノ資ニ供セリ。

#### 經過 概況

本船ハ東北海ヨリ歸港後、直チニ之ガ準備ニ着手セシモ當時船員中ニ罹病者多ク、加フルニ汽罐燭管ニ損所ヲ生シ、之レガ修理ニ長時日ヲ費シタル等ノ爲、漸ク中旬ニ至リ本調査ニ着手スルヲ得タリ。而シテ、本調査ハ海況ニヨリ、隨時深海漁業試験ヲモ併施シタリ。調査期間中荒天多クシテ、從漁ノ機少ナク、十二月ニアリテハ上旬ニ於テ、野島岬正東百湊ノ横斷観測ヲ實施シタル外、下旬ニ於テ、鮪延縄及底延縄ニ各一回從漁シタルニ過キズ、一月ニアリテハ上旬ニ於テ、横斷観測ヲ實施シ、中下旬ニ於テ、鮪延縄ニ四回從漁シ、二月ニ於テハ、上下旬ニ各一回横斷観測ヲ實施シ、中下旬ニ於テ、底延縄二回、手繰網一回ヲ、使用シタルノミニテ、遂ニ餌料、其他ノ關係上、鮪延縄ニ從漁スルノ機ナカリキ。

#### 漁 況

三、鮪漁場調査

十二月、銚子沖合ニ於ケル漁場ハ、距岸六十哩乃至百哩ニシテ、五十哩以上ノ沖合ハ、東北東ノ潮流頗ル急ナリ、同方面ニ出漁セシ延繩船ハ、大漁獲ナキモ毎航くら、めばち、めかじき、等ノ漁獲アリ、又流網漁船ハ、主トシテくらまかちき、ねすみさめ、等ニシテ、之亦大漁獲ナシ、而シテ房州沖合ノ漁場ハ、距岸三十哩乃至六十哩ニシテめばち、めかじき、ねすみさめ、等ノ漁獲アリシモ、其ノ量大ナラズ、然レドモ、年末ニ際シ、魚價高騰シテ一貫匁三圓乃至四圓ヲ唱ヘシコトアリシヲ以テ、相當收利ヲ見タルモノ少カラズ、餌料ハ主トシテいかヲ使用シ、房州方面ニアリテハ一尾十二三錢ヨリ十七、八錢、銚子方面ニアリテハ二十錢乃至二十五錢ヲ呼ビタリ、本月施行シタル、野島岬正東百哩横斷観測ノ結果ニ依レバ、上層水温ハ十月初旬ニ比シ著シク下降セルモ、中層以下ノ水温ハ却ツテ一般ニ上昇セリ、殊ニ距岸二、三哩ヨリ、三十七、八哩ニ亘リテ甚ダシク、即チ十月ニアリテハ、同海區ノ二十度水帯ハ、略二十五尋深ニ存在セシモ、本月ニアリテハ、二十五尋深ヨリ七十五尋深ニ及ビ、概シテ暖流ノ陸地ニ接近セル状態ナリキ。

一月、銚子方面ニ於テハ、本月ニ入り延繩及流網トモ漸次好況ヲ呈シ、延繩船ノ漁獲物ハ、主トシテくら、めかじき等ニシテ、一航海千圓乃至二千圓ノ水揚ヲナシタルモノアリ、流網漁船ノ漁獲物ハ、主トシテまかちき、ねすみさめ等ニシテ、之亦四、五百圓内外ノ水揚ヲナセリ、漁場ハ、大吠岬ノ東方又ハ南東百哩内外ヲ普通トシ、稀ニ二百二十哩乃至百五十哩ニ及ベリ、房州沖合ニアリテモめばち、くら、等ノ漁獲アリテ、前月ニ比シ好況ヲ呈セリ、而シテ此ノ方面ノ漁場ハ距岸二、三十哩ヨリ、五、六十哩ニ亘リ、潮流ハ前月ヲ通シテ房總沖合トモ、北東流急ニシテ潮色良好ナリキ、餌料イカハ豊富ナラザリシモ、東京市場ヨリ補給セラレタル爲メ、敢テ不足ヲ告グルニ至ラズ、一尾十二、三錢ヨリ十四、五錢ヲ唱ヘタリ、魚價又比較的高價ヲ保チ、まぐろ、かぢき、等ハ一貫匁三圓以上四圓内外ニテ售賣セラレタリ。本月八日實施セシ、野島岬正東百哩横斷観測ノ結果ニヨレバ、前月初旬ニアリテハ、二十度水帯ハ、距岸

二、三哩ノ二十五、六尋深ヨリ、百哩ノ七十五、六尋深ニ亘リ、比較的緩傾斜ヲ以テ存在セシモ、本月ニアリテハ、百哩以内ノ海區ハ全ク二十度水帯ヲ認メズ、最高水温ハ十九度八分ニシテ、僅カニ距岸八十哩乃至百哩ノ表層附近ニ存在スルニ過ギズ、又前月ニアリテハ、十八度水帯ハ距岸五哩ノ三十尋深ヨリ、三十哩ノ百尋深ニ存在セシモ、本月ニアリテハ、同水帯ハ距岸三十五哩ノ表層ヨリ、八十二哩ノ百尋深ニ亘リ、比較的急傾斜ヲ以テ存在スルニ至レリ、以上ノ事實ハ、著シク暖流ノ沿岸ヲ遠カリ、寒流ノ陸地附近ニ接近シ來リタルヲ示スモノニシテ、從テ本月ニアリテハ、くら、ねすみさめ、等ノ多獲ヲ見ルニ至リシナラン。

二月、本月ハ、降雨、降雪、強風、等ノ爲メ一般ニ出漁ヲ妨ゲラレタルノミナラズ、舊正月ニ相當セシヲ以テ、出漁者少ナク、各方面トモ著キ漁獲ナシ、即チ銚子方面ニアリテハ、時ニ一航海二千圓内外ノ漁獲ヲ得テ入港セシモノアリシモ、是等ハ極メテ少數ノ漁船ニ止マリ、多クハ天候ノ關係上出漁ヲ見合ハセ、著シキ活動ヲ見ルニ至ラズ、又本月ニ於テハ、流網漁船ハ殆ンド漁獲ナク、延繩漁船ノ漁獲ハ依然くら、かぢき、よしきりさめ、等ニシテ、漁場ハ大吠岬東方七、八哩乃至百二三十哩ニシテ、潮流ハ概シテ北東流急ナリシトイフ。房州方面ニアリテハ、漁船比較的小型ノモノ多ク、好漁場ニ出漁スルコト困難ナリシヲ以テ、びんなが延繩ニ轉漁スルモノ少カラズ、魚體ハ一貫匁五百匁ノモノ多ク、相場ハ一貫匁二圓五十錢内外ナリトス、本月六日ノ横斷観測ノ結果ニ依レバ、本月初旬ノ海況ハ、略前月初旬ト同様ナルモ、寒流ノ影響ハ一層増大セシヲ知ル、然レドモ、同月二十六日ニ實施セシ、本観測ニ依レバ、海況ハ再び一月上旬頃ノ其レト類似スルニ至レリ、上旬ニ比シ寒流ノ勢力稍減退セルヲ知ル。

漁獲表

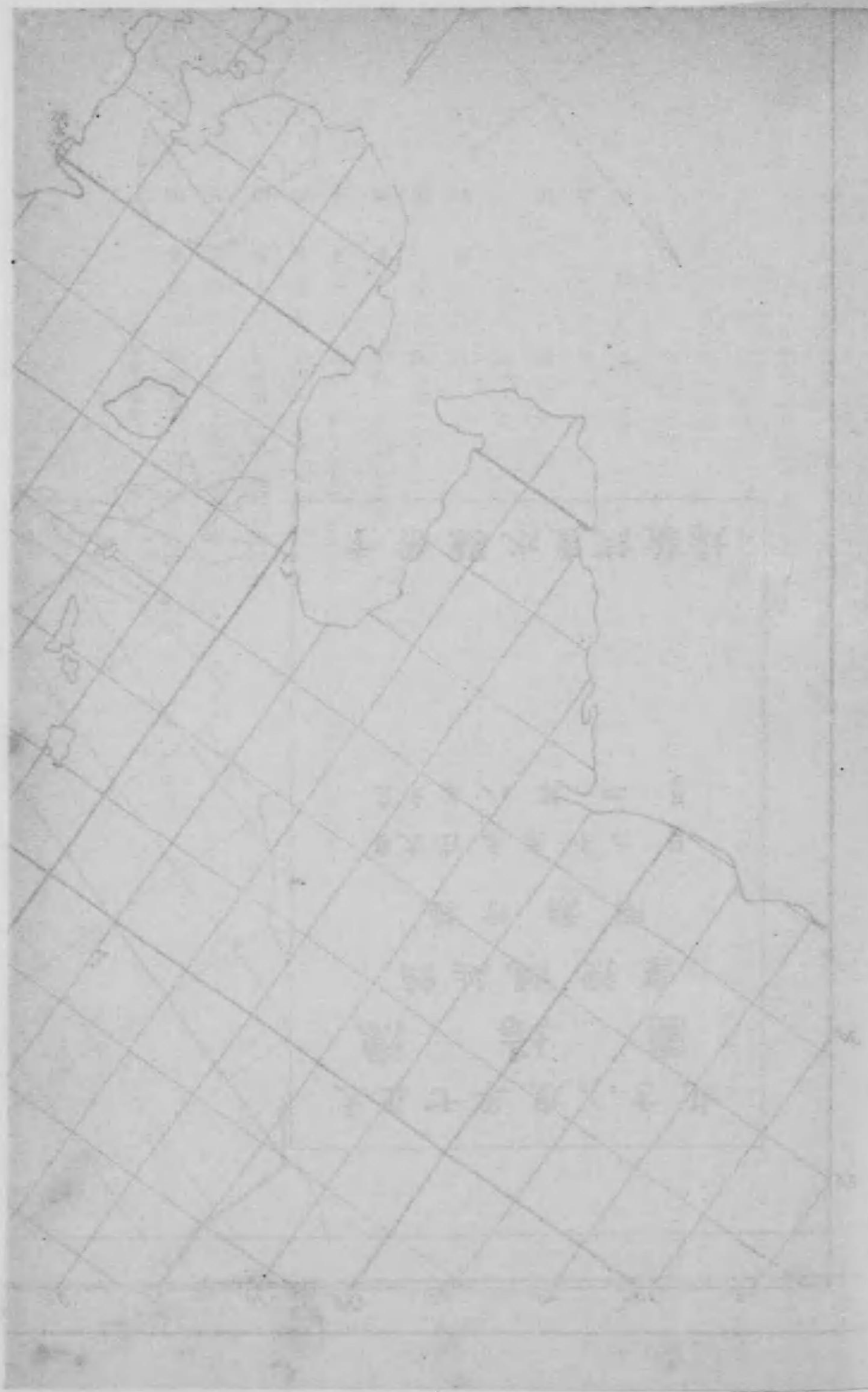
月日	天候	漁場	漁具	同使漁具	海面水深	比重	流速方向	餌料の種類	漁獲時の水深	種類	数量	平均尾長	価格
一、二、二六	C	イ	午後九時		二〇〇		東南	イ		めしは	二	七、〇〇〇	六、〇〇〇
一、一、四	B.C	ロ	午後十二時		一九二		緩東	イ		めしは	二	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇
一、一、五	C	ハ	午前七時半		一八五		北緩東	イ		めしは	一	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇
一、一、八	B.C	ニ	午前七時半		一九二		北急	イ		めしは	三	三、〇〇〇	三、〇〇〇
一、一、二七	C.R	ホ	午後十時		一八〇		北急	イ		めしは	一	一、〇〇〇	六、〇〇〇

漁業日誌

十二月一日 石炭積込出漁準備。  
 同 二日 強風ノ爲碇泊。  
 同 三日 同上。  
 同 四日 同上。  
 同 五日 午後十時出帆、野島崎正東百埋横断観測ニ向フ。  
 同 六日 午後四時二十分観測終了、歸航ノ途ニ就ク。

同 七日 午後四時二十分館山投錨。  
 同 八日 碇泊。  
 同 九日 同上。  
 同 十日 同上春日技師來船、同體ノ調査ヲナス。  
 同 十一日 強風ノ爲碇泊。  
 同 十二日 同上。  
 同 十三日 汽罐燻管ノ修理ヲナス。  
 同 十四日 石炭淡水補給。  
 同 十五日 荒天碇泊。  
 同 十六日 同上。  
 同 十七日 同上。  
 同 十八日 那古廻船、深海漁具積込。  
 同 十九日 荒天碇泊。  
 同 二十日 同上。  
 同 廿一日 天候回復シタルヲ以テ、餌料イカヲ注文ス。  
 同 廿二日 餌料ヲ得ズ。  
 同 廿三日 強風碇泊。





三、船運調査

同 廿四日 餌料購入ノ爲、外房方面ニ向フ、強風ノ爲白濱沖假泊。  
 同 廿五日 千倉ニテ餌料購入、荒天ノ爲千倉假泊。  
 同 廿六日 出漁終漁後、強風ノ爲歸港。  
 同 廿七日 午前八時興津入港、漁獲物ヲ販賣ス。  
 同 廿八日 出漁、鳥山沖東北東海深八十四尋ノ所ニテ深海延繩ニ從漁。  
 同 廿九日 午後一時館山歸港。  
 同 三十日 船内掃除手入。  
 同 卅一日 碇 泊。  
 一月 一日 同 上。  
 同 二日 同 上。  
 同 三日 同 上。  
 同 四日 同 上。  
 同 五日 炭水ノ補給ヲナス出漁準備。  
 同 六日 同 上。  
 同 七日 餌料購入ノ上、野島岬正東百裡橫斷觀測ノ爲、午後六時出帆ス、荒ノ爲途中引返ス。  
 同 八日 午前七時二十分出帆、午後十二時觀測ヲ終了ス。  
 同 九日 荒天ノ爲歸航、午後四時二十分興津入港。

大正七年七月  
漁場圖

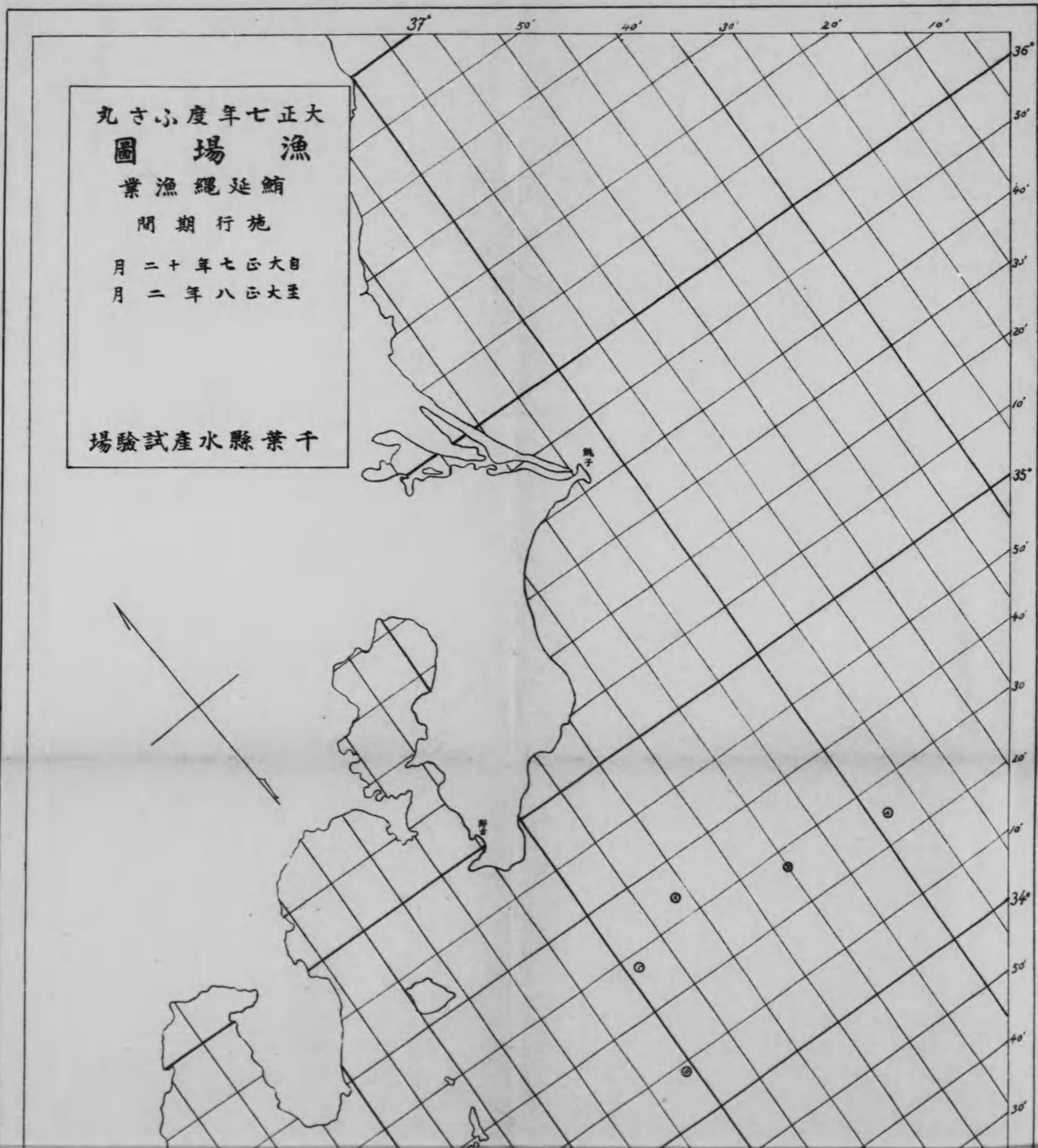
鮪延繩漁業

施行期間

自大正七年十二月

至大正八年二月

千葉縣水產試驗場



千葉縣水産試驗場



同 十日 天候險惡ノ兆アルヲ以テ館山避難。  
 同 十一日 荒天ノ爲碇泊。  
 同 十二日 炭水ノ補給ヲナス。  
 同 十三日 餌料購入出漁ス、風波烈シク布良沖假泊。  
 同 十四日 出漁、終了後西強風トナリ歸港。  
 同 十五日 午後八時三十分船形歸港。  
 同 十六日 漁獲物ノ陸揚後館山へ轉錨、罐水補給ヲナス。  
 同 十七日 石炭補給後午後四時三十分出漁。  
 同 十八日 北東流急ニシテ、漁獲少シ、荒天トナリテ歸港。  
 同 十九日 午後三時四十分興津避難。  
 同 二十日 天候益々險惡トナリ館山歸港。  
 同 廿一日 西強風ノ爲碇泊。  
 同 廿二日 同上。  
 同 廿三日 炭水補給ヲナス。  
 同 廿四日 餌料購入後、出漁シタルモ天候不良トナリ、館山歸港。  
 同 廿五日 荒天ノ爲碇泊。  
 同 廿六日 天候回復シタルヲ以テ、午後四時四十分出帆。

同 廿七日 終漁後歸航ノ途ニ就ク。  
 同 廿八日 三崎ニ寄港、漁獲物販賣ノ上館山歸港。  
 同 廿九日 石炭補給。  
 同 三十日 荒天ノ爲碇泊。  
 同 卅一日 同上。  
 二月 一日 同上。  
 同 二日 同上。  
 同 三日 同上。  
 同 四日 炭水補給ノ上出漁ノ豫定ナリシモ、風波尙納マラズ碇泊、天候ノ回復ヲ待ツ。  
 同 五日 同上。  
 同 六日 午後四時四十分出帆、横断観測ニ向フ。  
 同 七日 午前十時觀終了、歸航ノ途ニ就ク、西強風ノ爲興津入港。  
 同 八日 船形歸港。  
 同 九日 館山轉錨。  
 同 十日 石炭補給。  
 同 十一日 淡水補給。  
 同 十二日 那古廻船、深海手繰網ヲ積込ム。

同 十三日 館山灣ニ於テ手繰網ヲ使用ス。  
 同 十四日 荒天ノ爲館山碇泊。  
 同 十五日 淡水補給。  
 同 十六日 深海延繩餌料購入ノ爲興津寄港後、直チニ出漁。  
 同 十七日 太東崎沖合ニ於テ、底手繰網及底延繩ノ試験ヲナス。  
 同 十八日 荒天ノ爲館山歸港。  
 同 十九日 石炭補給ヲナス。  
 同 二十日 淡水補給ヲナス。  
 同 廿一日 荒天ノ爲碇泊。  
 同 廿二日 同上。  
 同 廿三日 同上。  
 同 廿四日 同上。  
 同 廿五日 同上。  
 同 廿六日 横断観測ノ爲、午前九時四十五分出帆。  
 同 廿七日 午前三時觀測終了、歸途ニ就ク、午後六時興津入港。  
 同 廿八日 九十九里沖合ニ於テ、底延繩試験ヲナス、午後十時館山歸港試験終了。

本年ノ初漁日平年初漁日トノ比較

縣名	平年初漁月日	大正七年初漁月日	縣名	平年初漁月日	大正七年初漁月日
岩手	〇月二日	〇月二日	靜岡	〇月三日	〇月七日
宮城	〇月四日	〇月三日	三重	〇月三日	〇月六日
福島	〇月四日	〇月二日	和歌山	〇月二日	〇月二日
茨城	〇月二日	〇月一日	徳島	〇月二日	〇月二日
千葉	〇月四日	〇月六日	高知	〇月六日	〇月一日

備考 平年初漁月日ハ大正元年ヨリ同六年ニ至ル六ケ年間ヲ平均シタルモノ

四、深海漁業試験

試験經過概要

前年度ニ繼續シ、縣下九十九里沖百尋以上ノ深海ニ棲息セル、魚族ノ種類ヲ確ムルト共ニ、適種漁法ヲ講究シテ、各春期ニ於ケル小型石油發動機船ノ使途ヲ開拓セント欲シ、十二月ヨリ二月ニ互リ、鮪延繩漁ヲ兼ネ、本試験ヲ實施セリ。而シテ前年度ニアリテハ、底刺網ヲ以テ之レガ試験ニ從事セシモ、該漁場ハ潮流概シテ急激ニシテ、本網ノ使用ニ不利ノ點多カリシヲ認メシヲ以テ、本年度ニ於テハ、底延繩及手繰網ヲ新調シ、之レガ優劣適否ヲ試験セントセシモ、試験期間中荒天多クシテ、本漁具使用ノ機ニ乏シク、僅カニ底延繩三回、手繰網一回、ヲ使用シタルニ過ギスシ

テ、未タ能ク其ノ適否ヲ確ムルニ至ラザリシヲ以テ、尙次年度之レガ試験ヲ續行セントス。

漁具構造

深海延繩

幹繩 南京麻、十枚糸二子撚一鉢ノ長サ百尋トス。  
 枝絲 南京麻、(綿絲六號位ノ太サ)長サ三尺五寸、二尋間隔一鉢五十本付トス。  
 釣鈎 鐵製、太サ一匁二分(角型ト丸型)。  
 浮標 表面ノ徑、一尺八寸、底部ノ徑、一尺五寸、高サ、一尺位ノ樽ニシテ、漁具ノ後兩端ニ一個ヅツ附スルモ、潮流ノ急ナル場合又ハ多數漁具ヲ使用スル場合ハ中央部ニモ一個付スル事アリ。  
 浮標繩 南京麻、徑二分長百五十尋トス。  
 沈子 石ニシテ、重量四匁位、枝絲十本毎ニ附ス。  
 錨 兩端浮標繩ノ下部ニ一箇ヅツ附ス。  
 手繰網

囊網ノ部

イ、魚取 綿絲、十五號三寸目百十掛、長サ二十尺一枚ヲ折返シテ使用シ、兩側端ニ、長サ二尺五寸ノ魚ノ出シ口ヲ作ル。  
 ロ、上下網 綿絲、十號三寸目七十五掛、長サ十五尺ノモノ上下二枚トス。

ハ、兩側網 綿絲、十號二寸目五十五掛、長サ十一尺片側一目ツッ落シ、一目ニテ止ム、左右二枚トス。  
 ニ、内部アゲ(魚留) 綿絲、五號、二寸目、七十五掛、長サ十尺、兩側ニテ交互ニ一目ツッ落シ、二十五掛ニテ止ム、左右二枚トス。

袋部力繩 南京麻、徑二分五厘、ノモノ上下網ト、兩側網トノ縫合セ目ニ附ス。

天井網ノ部

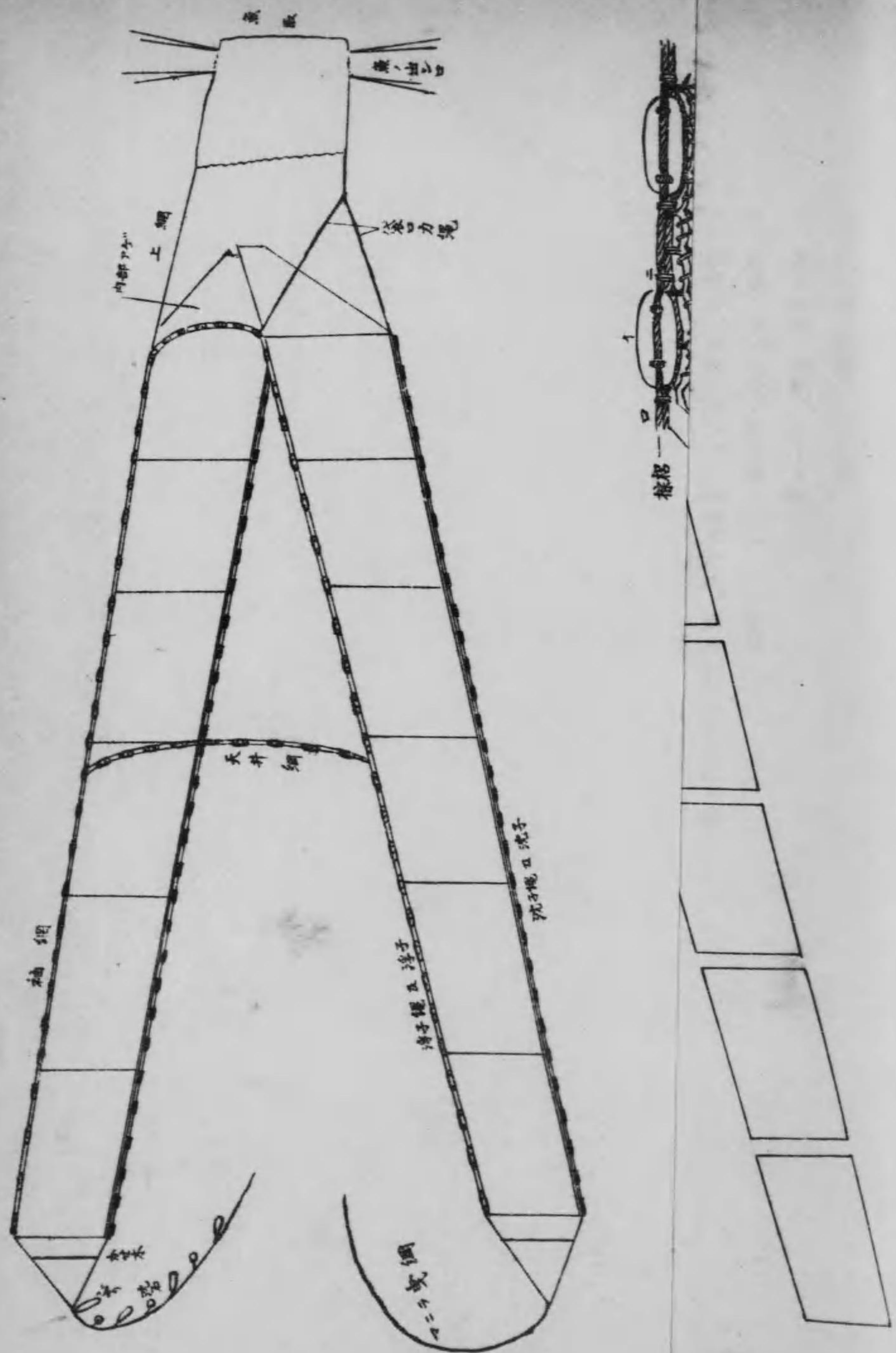
ホ、天井網 綿絲、四號、二寸目、二百掛、兩側ニテ適宜目ヲ落シ、三十尺ニシテ六十掛ニ止ム一枚。

袖網ノ部

ヘ、綿絲、八號、三寸目、五十掛、長サ十五尺、左右二枚。  
 ト、綿絲、八號、三寸目、四十五掛、長サ十五尺、左右二枚。  
 チ、綿絲、八號、三寸五分目、四十掛、長サ十七尺五寸、左右二枚。  
 リ、綿絲、八號、三寸五分目、三十五掛、長サ十七尺五寸、左右二枚。  
 ヌ、綿絲、八號、四寸目、三十掛、長サ二十尺、左右二枚。  
 ル、綿絲、八號、四寸目、二十五掛、長サ二十尺、左右二枚。

浮子方構成

イ、浮子、漆製、長サ、八寸、巾二寸、厚サ六分、重量四十一匁右ノ浮子ヲ袋口上網ニ五枚(浮子間一吋五分)、天井網前  
 端二十一枚(浮子間一吋五分)、片袖二十九枚(浮子間一吋五分)。  
 ロ、浮子繩、棕柁、二子燃、徑三分五厘ト南京麻、徑二分五厘、ノモノト二條。

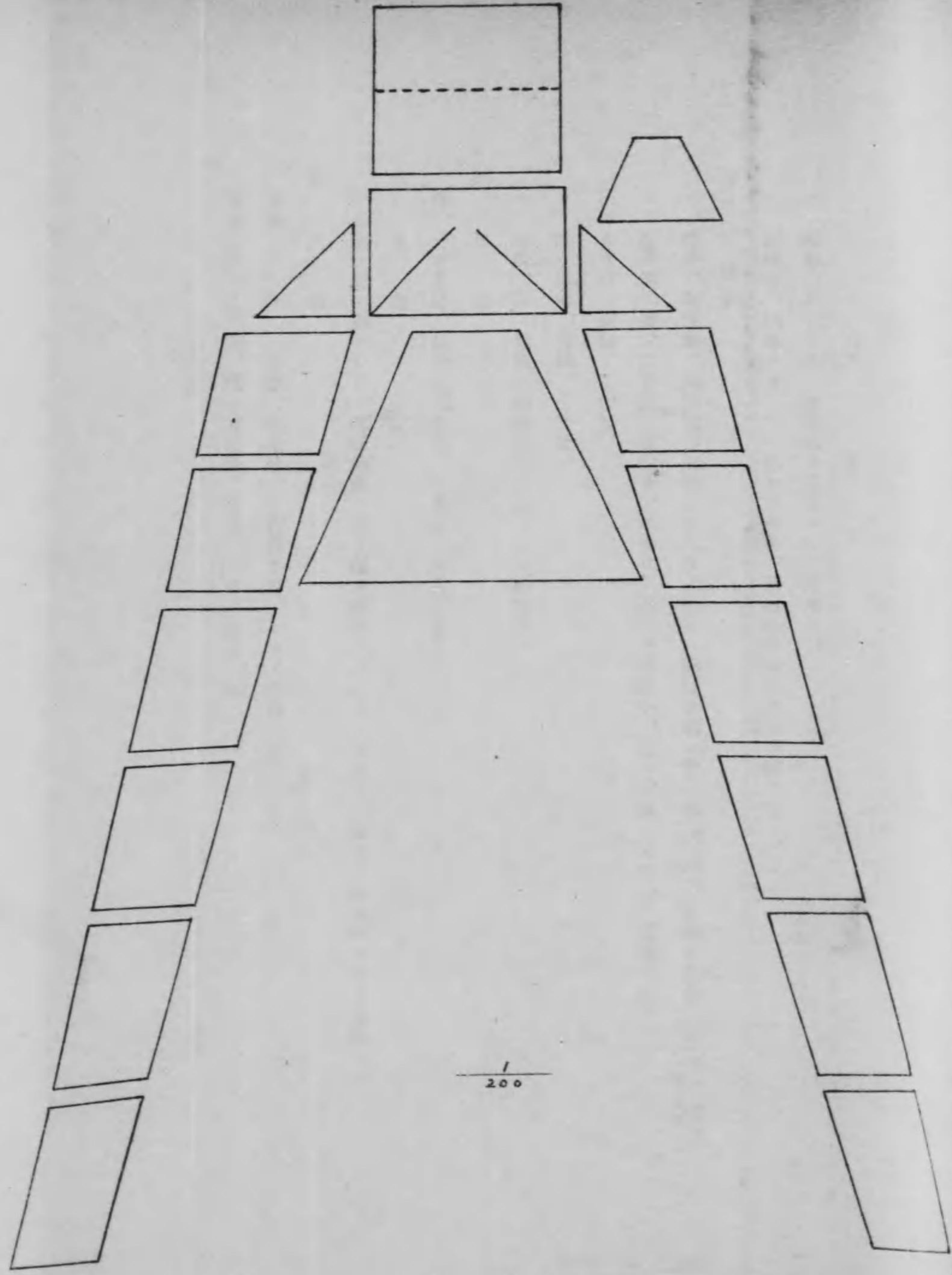


浮子方構成

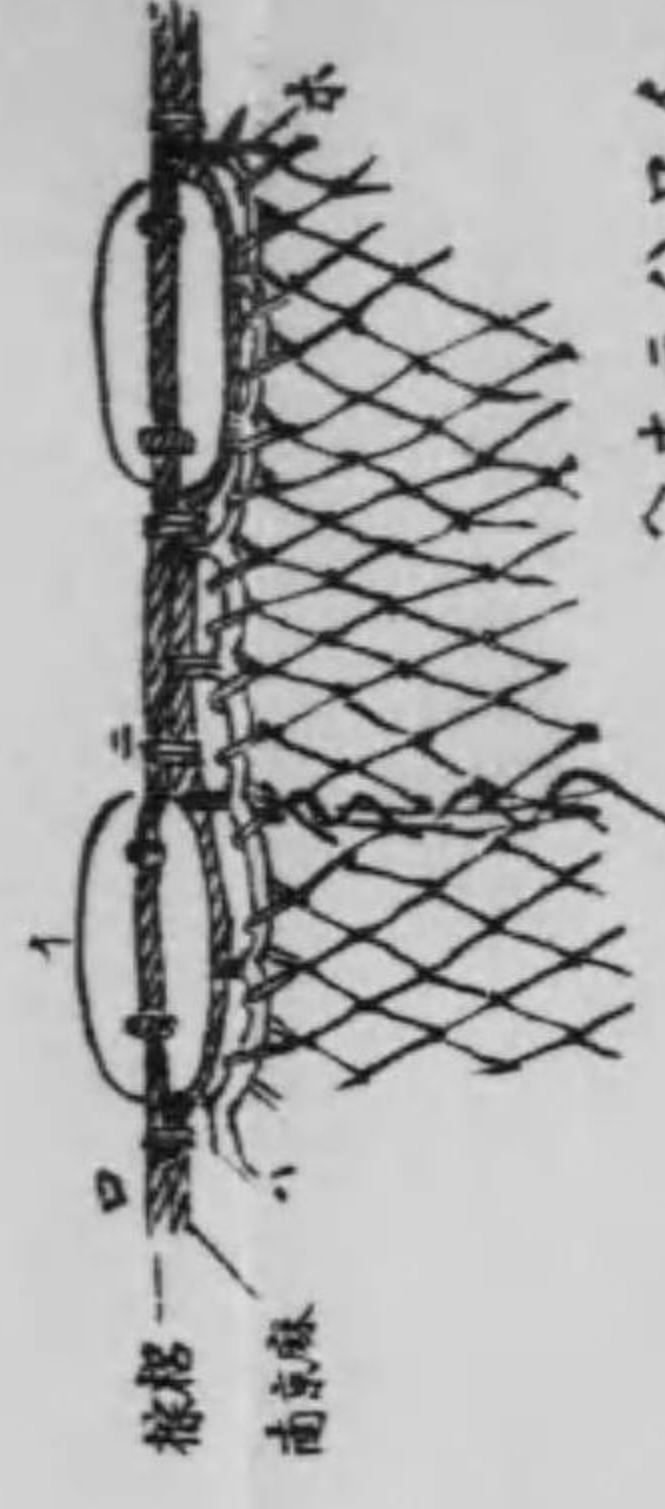
イ、浮子、漆製、長サ、八寸、巾二寸、厚サ六分、重量四十一匁右ノ浮子ヲ袋口上網ニ五枚（浮子間、一寸五分間）、天井網前

端ニ十一枚（浮子間、一寸五分間）、片袖二十九枚（浮子間、一寸五分間）、

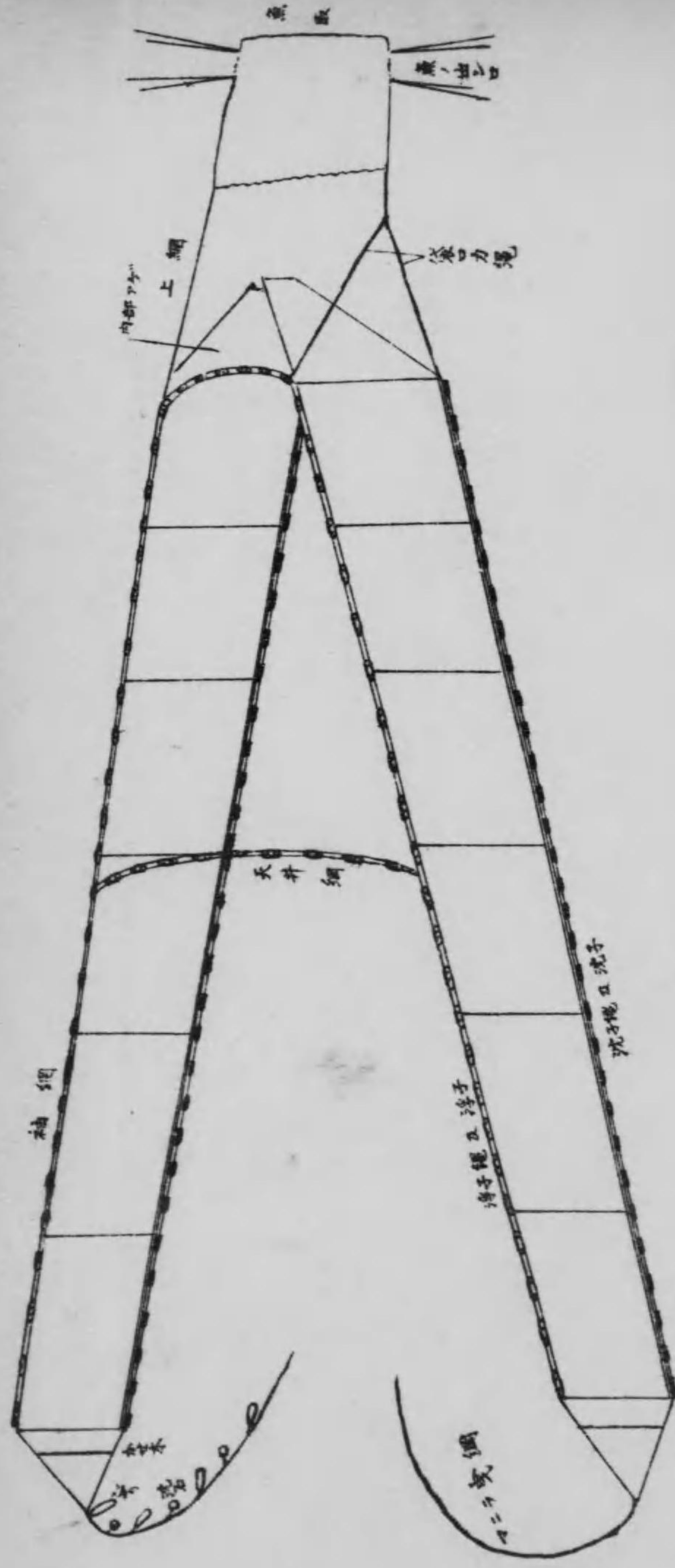
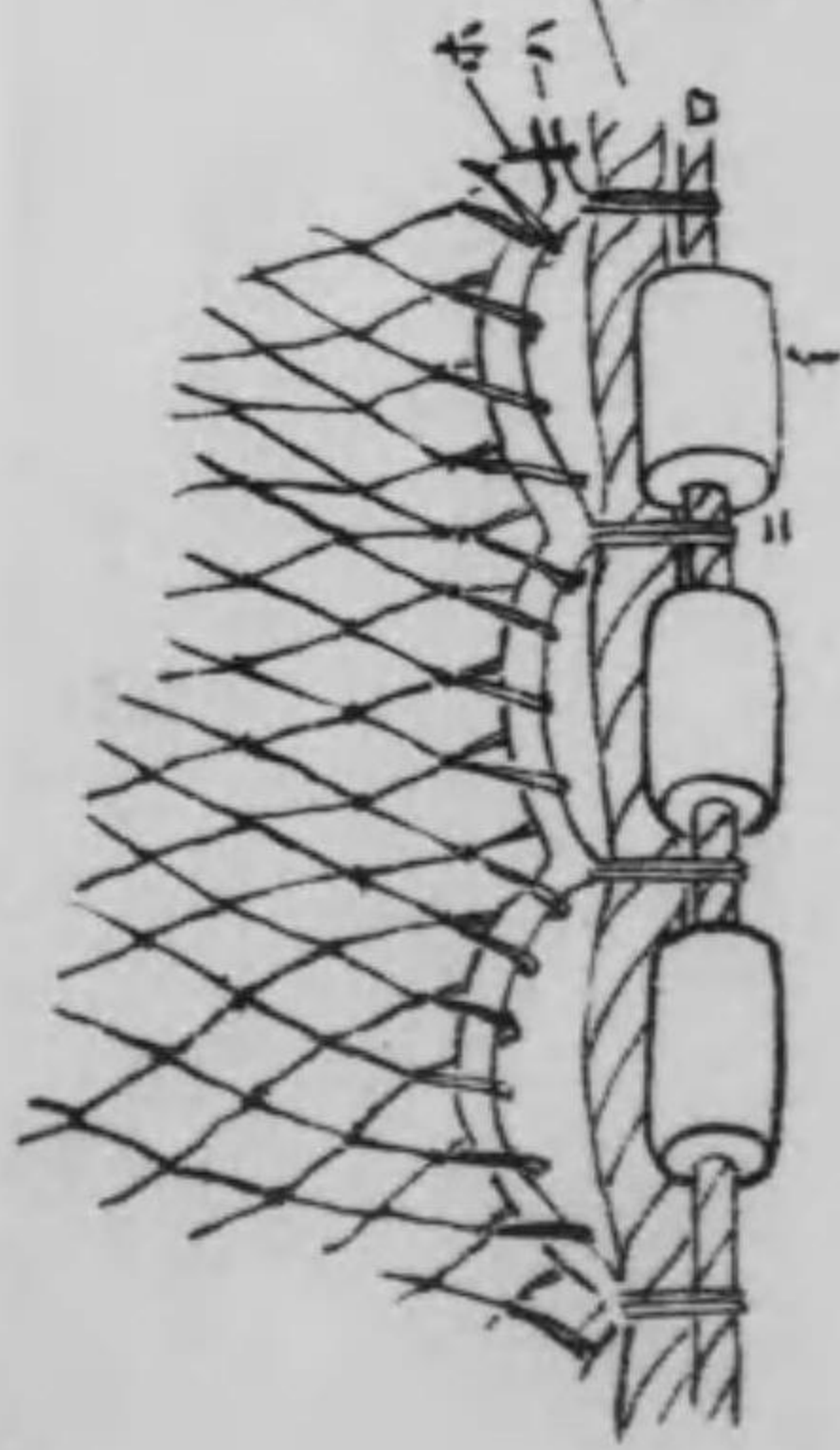
ロ、浮子繩、棕栲、二子燃、徑三分五厘下南京麻、徑二分五厘、ノモノト二條。



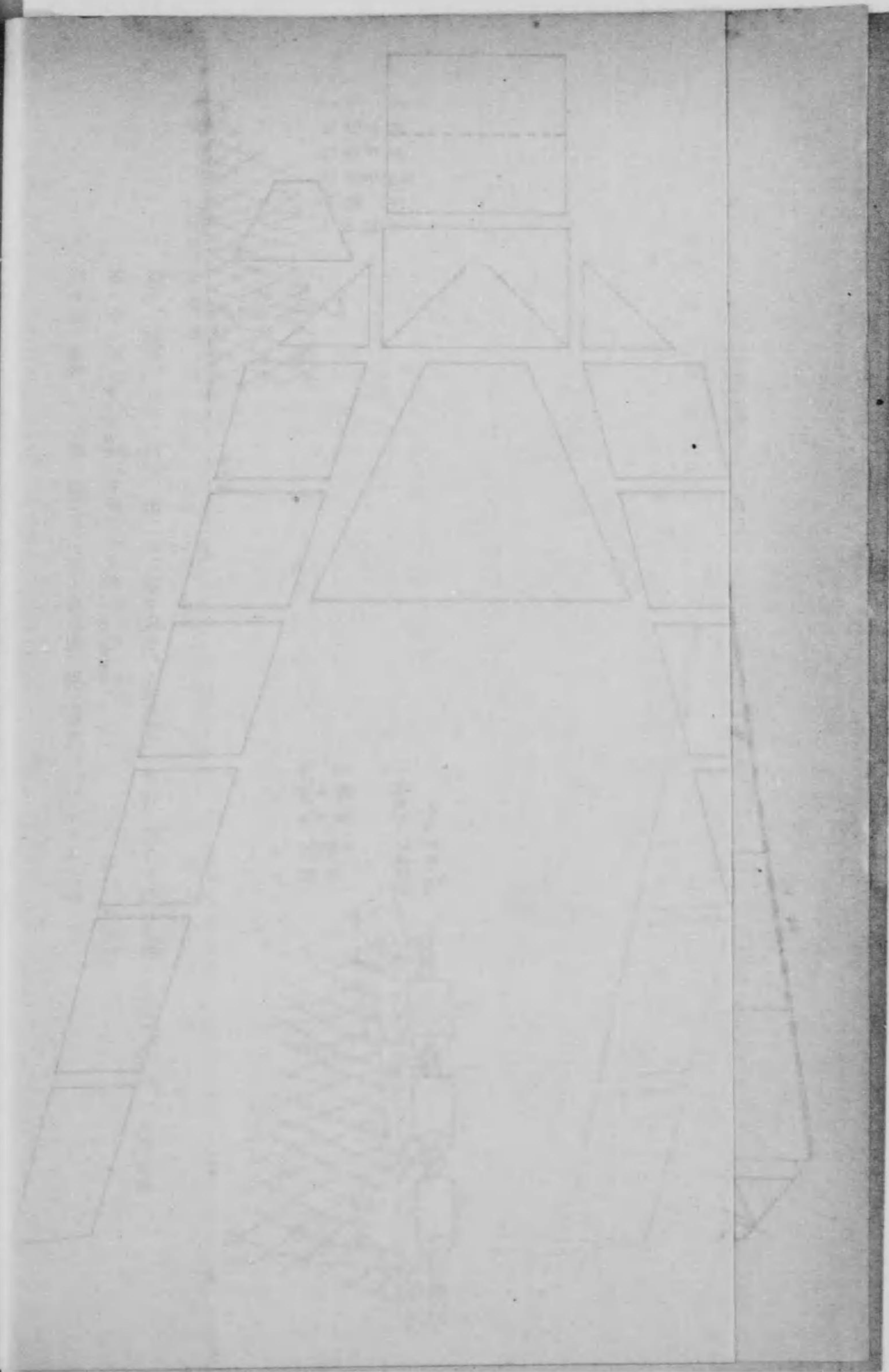
イ 浮子  
ロ 浮子繩  
ハ 力コ糸  
ニ 浮子結束  
ホ 繩糸  
ヘ 細繩糸



イ 沈子  
ロ 沈子繩  
ハ 力コ糸  
ニ 沈子結束  
ホ 繩糸  
ヘ 繩至一寸五分  
ト 繩至六分







ハ、カゴ絲、綿絲、二十五號。

ニ、浮子結絲、綿絲、二十五號。

ホ、縫絲、其ノ場所ノ網地絲ヲ二本トシテ使用ス。

ヘ、網縫合、網地ニヨリテ一定セザルモ、網地ヨリ少シク太キ絲ヲ用ユ。

沈子方構成

イ、沈子、陶器製、圓筒型、重量三十六匁、ノモノ袋口下網二十三個(沈子間八分)、片袖二百十六個(沈子間一寸六分)。

ロ、沈子繩、藁、二子撚、徑六分、ノモノニ沈子ヲ貫通シ、更ニ、徑一寸五分ノ藁繩ヲ添フ。

ハ、カゴ絲、綿絲、三十號。

ニ、沈子結絲、綿絲、三十號。

ホ、縫絲、其ノ場所ノ縫地絲ヲ二本トシテ使用ス。

かせ木

徑、一寸五分、長サ二尺五寸、ノ丸木、左右二本トス。

若手網

かせ木ニ付ス網ニシテ、沈子繩並ニ浮子繩ヲ延張シタルモノヲ用ヒ、長サ一定セザルモ七尺位トス。

網ノ部

曳網、マニラ、三子撚、徑七分、二百四十尋、ノモノ左右二本。

曳網、藁、二子撚、徑一寸五分、百尋、ノモノ左右二本。

五、造船術傳習 六、石油發動機運用法傳習

曳綱、マニラ、三子燃、徑七分、長十五尋、但シ、此ノ部ニぶり板ト稱シ、長サ一尺二寸、上部ノ巾一寸五分、下部ノ巾二寸、厚サ二分、ノ板ヲ二尋ニ一枚ヲ付シ、尙板ト板トノ間ニハ、三百匁目、ノ石ヲ三個結付ス。

五、造船術傳習

優良船匠養成ノ目的ヲ以テ、八月五日ヨリ廿五日間、大日本水産會ヨリ講師ヲ聘シ、本場内ニ於テ、本傳習ヲ實施シ、主トシテ西洋型構造法ニ係ル遠洋漁船ノ構造設計製圖等ニ關スル學理ヲ傳習セシメタリ。

傳習場所	傳習期間	入場生數	修了生數	未修了生數
本場内	自八月廿五日 至八月廿五日	一四	一三	一

六、石油發動機運用法傳習

優良機關士養成ノ目的ヲ以テ、一月十六日ヨリ廿日間夷隅郡勝浦町ニ於テ、二月七日ヨリ廿日間山武郡片貝村ニ於テ、本傳習ヲ實施シ、船用發動機ノ學理並ニ据付ケ運轉故障發見修理等ノ實技ヲ習得セシメタリ。

傳習場所	傳習期間	入場生數	修了生數	未修了生數
夷隅郡勝浦町	自一月十六日 至一月廿四日	二一	一六	五
山武郡片貝村	自二月廿六日 至二月廿七日	七〇	三一	三五

製 造 部

一、煮乾鱈乾燥機試驗

要 旨

前年度ニ於テハ、本試驗開始後原料鱈ノ漁獲引續不振ニ了リ、遂ニ豫行的空室試驗ヲ施行シタル外、實物乾燥試驗トシテハ一回之レヲ施行シ得タルニ止リ、隨ツテ本機ノ性能並經濟上ニ亘ル關係等、詳細ナル調査ヲ遂グル能ハザリシヲ以テ、本年度ハ、二月館山灣内ニ於ケル鱈漁獲ノ開始セララルヲ待チ、直ニ本試驗ニ着手シタリ、今左ニ試驗ノ梗概ヲ述ベン。

試驗ノ經過及成績

二月五日館山灣内ニ於テ、巾着網漁獲ニ係ル脊黑鱈七十二貫匁ヲ購入シ、豫メ普通ノ方法ニヨリ煮熟ヲ行ヒ、後本機全室ニ循環收容シ第一回實地乾燥試驗ヲ施行シタリ、然ルニ右試驗ノ結果、本機ノ給熱并送風力ハ、煮乾鱈乾燥ノ目的トシテハ未ダ充分ナラズ、爲メニ室内平均溫度并上下兩部配熱ノ狀態等ニ於テ、完全ナラザル點アルヲ認メシヲ以テ、右試驗終了後直ニ之レ等兩裝置ヲ初メ、其他ニ多少ノ改修ヲ試ミタリ、即チ改修ノ要所ヲ述ブレバ、從來室内床上ニ設置セル二本ノ亞鉛鍍鐵板製圓管ハ、其ノ直徑三寸五分ニシテ、通烟上稍小ニ失シタル傾アリシヲ以テ、之レヲ四寸七分ニ改メ放熱面積ヲ擴大シ又煙突ノ通風力ヲシテ一層良好ニシ、以テ爐ノ燃燒ヲ完全ナラシメンガタメ、從來

一、煮乾機乾燥機試驗

ノ煙突上ニ更ニ同徑ノ土管五本ヲ追加シ合計二十本トシ、其他送風裝置モ其ノ大サヲ約二倍ニ増大シ、以テ送風力ノ増進ヲ圖レリ、右改修工事ハ三月上旬ニ於テ竣工シタルヲ以テ、竣工後直ニ豫備試驗ニ着手シ、三月十二日先ヅ二十貫五百多ノ原料ヲ收容之レガ實地乾燥狀態ニ付調査ヲ試ミタルニ、室内配熱ノ關係等ハ勿論、其他本機性能ノ著シク改善シ得ラレタルヲ認メシヲ以テ、更ニ同月二十日九十貫多ノ原料ヲ收容シ、第貳回實地試驗ヲ行ヘリ、今前後二回ニ於ケル試驗ノ經過并成績ヲ表示スレバ左ノ如シ。

四二

第一回試驗

(大正八年二月七日)

觀測回次	天氣	氣溫	室			平均	摘要
			上部	中部	下部		
第一	曇	一〇、〇	四一、〇	三三、〇	二八、〇	三四、〇	午前九時三十分點火 同十時三十分送風始
第二	同	一〇、五	四七、五	三六、五	三一、〇	三八、三	
第三	同	一一、〇	四五、〇	四五、五	四〇、〇	四六、八	
第四	雨	一一、〇	四五、〇	四七、〇	四三、〇	四八、三	
第五	同	一一、五	四五、〇	四五、〇	四二、〇	四七、三	
第六	同	一二、〇	四五、〇	四四、〇	四五、〇	四一、七	
第七	同	一二、〇	四五、〇	四二、〇	四〇、〇	四四、七	
第八	同	一〇、〇	五一、〇	四二、〇	四〇、〇	四五、〇	
第九	同	九、五	五一、〇	四一、〇	四〇、〇	四四、〇	
第十	同	八、五	五〇、八	四〇、一	三七、九	四三、三	

第二回試驗

(大正八年三月二十日)

觀測回次	天氣	氣溫	室			平均	摘要
			上部	中部	下部		
第一	曇	一七、〇	五二、〇	四六、五	四九、〇	四九、二	午前九時三十分點火 同十時送風
第二	同	一八、〇	五九、〇	四八、〇	四九、〇	五二、〇	
第三	同	二〇、〇	六一、五	五〇、五	四九、五	五三、八	
第四	同	一九、〇	五二、〇	五〇、〇	四九、〇	五〇、七	
第五	同	一八、五	五四、〇	五三、〇	五〇、〇	五三、三	
第六	同	一七、五	六〇、〇	五二、五	五〇、五	五六、三	
第七	同	一五、〇	六一、〇	五二、〇	五〇、〇	五八、〇	
第八	同	一五、〇	五五、〇	五二、〇	五〇、〇	五五、〇	
第九	同	一四、〇	六一、〇	五三、〇	五〇、〇	五七、三	
第十	同	一七、一	五七、二	五一、三	五二、三	五三、六	

試驗成績

事項	回次	第	第
試驗	月	一	二
天氣	日	曇	曇
氣溫		一〇、	一七、
		後	三、
		雨	二〇
		七	〇
			回
			回
			四三

一、煮乾機乾燥機試驗

一、煮乾乾燥機試驗

室 內 平 均 溫 度	室 內 平 均 溫 度			乾 燥 所 要 時 間	原 料 種 類	原 料 重 量	製 品 重 量	製 品 步 留 量	一 時 間 ニ 對 ス ル 原 料 重 量	同 製 品 重 量	所 要 燃 料 重 量	所 要 燃 料 代 金	原 料 一 貫 タ ニ 對 ス ル 燃 料 重 量	同 代 金	製 品 一 貫 タ ニ 對 ス ル 燃 料 重 量	同 代 金
	上 部	中 部	下 部													
五〇、八	四一、一	三七、九	四三、三	一一、〇	小才(大才中才ヲ混ズ)	七二、〇	二二、〇	三〇、五	六、五	二、〇	四七、〇	三〇、五	六五、三	〇、四	二、一	一、三
五七、二	五一、三	五二、三	五三、六	九、〇	小才(中才ヲ混ズ)	九〇、〇	二二、〇	二五、五	一、〇	二、五	三六、〇	二二、四	四〇、〇	〇、二	一、五	一、〇

備考 燃料ハ松薪ヲ用ヒ一貫タノ代金六錢五厘トス

今右試驗成績ニ依レバ、改修ノ結果大ニ本機性能ノ改善セラレタルハ明ニシテ、其ノ要點ヲ述ブレバ、室内平均溫度第一回四三、三度、第二回五三、六度ニシテ十度餘ノ上昇アリ、又室内上下兩部ノ差モ第一回一二、九度、第二回四、九度ニシテ八度ノ減少ヲ來シ、室内配熱ノ關係著シク良好トナリ、給熱并送風力ノ増進セラレタルヲ認メ得タリ、次

ニ平均一時間ニ對スル乾燥生原料重量ハ第一回六貫五百四十五匁、第二回十貫タニシテ三貫四百五十五匁ヲ増シ、又同製品重量ハ第一回二貫タ、第二回二貫五百五十五匁ニシテ五百五十五匁ヲ増シ、著シク乾燥能力ノ増進セラレタルヲ認メタリ、又所要燃料重量并代金ハ生原料一貫タニ對シテハ第一回六百五十三匁、即四錢二厘四毛、第二回四百匁、即二錢六厘ニシテ差引二百五十三匁、即一錢六厘四毛ノ節約ヲ來シ、又製品一貫タニ對シテハ第一回二貫百三十六匁、即十三錢八厘八毛、第二回一貫五百六十五匁、即十錢一厘七毛ニシテ差引五百七十一匁、即三錢七厘一毛ノ節約ヲ來シタルヲ認メ得タリ。

本年度ニ於ケル、成績ハ大要叙上ノ如クニシテ、本機ハ煮乾乾燥機トシテ、其ノ效果良好ナルヲ認メ得タリト雖、室内配熱關係其他ニ一層ノ改善ヲ加ヘ、以テ乾燥能力ノ増進ヲ圖ルト共ニ、一面燃料ノ經濟關係ヲシテ、尙一層優良ナラシムルノ要アルヲ認メタルヲ以テ、次年度ニ繼續試驗セントス。

### 一、海苔乾燥機委託試驗

#### 要 旨

本試驗ハ前年度ニ於テ、東葛飾郡浦安町漁業組合ニ委託施行シタル結果、其ノ成績大體ニ於テ優良ニシテ略豫期ノ目的ヲ達シ、雨天曇天等ニ際シ海苔乾燥ヲ行フ方法トシテハ、頗ル有效ナルヲ認メ得タリ、然リト雖モ、尙乾燥室内上下兩部配熱關係ニ於テ、其ノ均衡未ダ完全ナラザルノ點アルヲ認メタルヲ以テ、本年度ハ先ヅ以テ、之等ノ缺點ヲ補正シ、一面本機能力ノ増進ヲ圖ラントシ試驗ヲ施行シタリ、今左ニ試驗梗概ヲ述ベシ。

試験ノ経過及成績

前年度試験ノ結果、本機乾燥室内上下兩部配熱ノ關係ニ於テ其ノ均衡未ダ完カラザルハ、主トシテ給熱裝置ノ位置乾燥室ニ比シ、稍々高キニ失スルニ基因セルモノト認メタルヲ以テ、本年度ハ試験時期ニ先チ、豫メ給熱并送風兩裝置ノ位置ヲ從來ヨリ一尺六寸低下セシメ、熱風ヲシテ可成乾燥室ノ下部ニ送致スルノ構造ニ改修ヲ試ミタリ、而テ該工事ハ十二月初旬ニ於テ竣成シタルヲ以テ、直ニ海苔ノ摘採ヲ待チ同月下旬乾燥試験ニ着手シ、之レガ改修後ニ於ケル配熱關係并ニ乾燥狀態等ニ付調査ヲ行ヒシニ、其ノ結果從來ニ比シ著シク良好トナリ、乾燥室内配熱ノ關係等略々其ノ均衡ヲ保持シ、引イテ乾燥能率ノ増進ヲ來シタルト共ニ、一面燃料ノ經濟關係ヲモ不尠優良ナラシムルニ至レリ、依ツテ爾後一回毎ニ可成多數ノ原料ヲ循環收容シ、以テ其ノ乾燥能力并經濟狀態等ニ付調査ヲ重ヌルノ要アルガ故ニ、引續一月并ニ二月ニ於テ四回ニ亘リ之レガ試験ヲ施行シタリ、今毎回ニ於ケル試験ノ経過並成績ヲ表示スレバ左ノ如シ。

第一回試験

(大正七年十二月二十六日)

觀測回次	天氣	氣溫	室			摘	要
			上	中	下		
第一	晴(積雪)	四、五	三六、八	二七、七	二二、一	二八、九	午前十時點火 同 十時四十分送風始 二時抽出 二十時抽出
第二	同	五、〇	四〇、八	三二、二	二八、〇	三三、七	
第三	同	五、五	四五、三	三九、一	二九、七	三七、〇	
平均							

觀測回次	天氣	氣溫	室			摘	要
			上	中	下		
第一	曇	五、〇	三〇、五	二四、五	二二、〇	二五、七	午前八時點火 同 八時三十分送風始 二時抽出 四十二時抽出
第二	雨	七、〇	四〇、〇	三二、五	二七、五	三三、三	
第三	同	八、〇	四二、〇	三三、〇	二五、〇	三三、五	
第四	同	八、〇	三九、五	三三、五	二五、〇	三二、七	
第五	同	七、五	四一、〇	三七、〇	二五、〇	三二、七	
第六	同	七、〇	三九、〇	三五、五	二五、〇	三六、七	
第七	同	七、〇	四二、〇	三三、五	二五、〇	三四、八	
第八	同	六、五	四一、〇	三九、〇	三四、〇	二八、〇	
第九	同	六、〇	四一、五	四〇、五	三五、五	三九、〇	
第十	同	六、八	三九、四	三四、二	三八、九	三四、二	
平均							

第二回試験

(大正八年一月九日)

觀測回次	天氣	氣溫	室			摘	要
			上	中	下		
第一	曇	五、〇	三〇、五	二四、五	二二、〇	二五、七	午前八時點火 同 八時三十分送風始 二時抽出 四十二時抽出
第二	雨	七、〇	四〇、〇	三二、五	二七、五	三三、三	
第三	同	八、〇	四二、〇	三三、〇	二五、〇	三三、五	
第四	同	八、〇	三九、五	三三、五	二五、〇	三二、七	
第五	同	七、五	四一、〇	三七、〇	二五、〇	三二、七	
第六	同	七、〇	三九、〇	三五、五	二五、〇	三六、七	
第七	同	七、〇	四二、〇	三三、五	二五、〇	三四、八	
第八	同	六、五	四一、〇	三九、〇	三四、〇	二八、〇	
第九	同	六、〇	四一、五	四〇、五	三五、五	三九、〇	
第十	同	六、八	三九、四	三四、二	三八、九	三四、二	
平均							

第三回試験

(大正八年一月十二日)

觀測回次	天氣	氣溫	上部	中部	下部	平均	摘要
第一時	曇	七、〇	二五、〇	一九、〇	一七、〇	二〇、三	午前九時三十分送風始
第二時	同	八、〇	三八、〇	三三、〇	二八、七	三三、三	同
第三時	同	八、五	三五、〇	三一、〇	二七、〇	三一、〇	同
第四時	同	八、五	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
第五時	同	九、〇	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
第六時	同	九、五	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
第七時	同	九、五	三八、〇	三一、〇	二八、〇	三二、三	同
第八時	同	〇、〇	三八、〇	三一、〇	二八、〇	三二、三	同
第九時	同	〇、〇	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
第十時	同	〇、〇	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
平均	同	八、〇	三八、〇	三三、三	二八、七	三三、三	午前九時三十分送風始

第四回試驗

(大正八年二月八日)

觀測回次	天氣	氣溫	上部	中部	下部	平均	摘要
第一時	同	七、九	三六、四	三三、〇	三〇、三	三三、二	午前九時三十分送風始
第二時	同	六、〇	三八、〇	三三、〇	三〇、〇	三五、三	同
第三時	同	七、〇	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三七、〇	同
第四時	同	七、五	四二、〇	三八、〇	三四、〇	三八、〇	同
第五時	同	八、〇	四三、〇	三九、五	三七、〇	三九、八	同
第六時	同	九、〇	四〇、〇	三六、〇	三二、〇	三六、〇	同
第七時	同	九、〇	三七、〇	三四、〇	二九、〇	三四、七	同
第八時	同	八、〇	三三、〇	二九、〇	二七、〇	二九、七	同
第九時	同	八、〇	三三、〇	二九、〇	二七、〇	二九、七	同
第十時	同	八、〇	三三、〇	二九、〇	二七、〇	二九、七	同
平均	同	七、九	三六、四	三三、〇	三〇、三	三三、二	午前九時三十分送風始

第五回試驗

(大正八年二月二十二日)

觀測回次	天氣	氣溫	上部	中部	下部	平均	摘要
第一時	雨	九、〇	二五、〇	二〇、〇	一五、〇	二〇、〇	午前九時三十分送風始
第二時	同	〇、〇	三三、〇	三〇、〇	二八、〇	三〇、三	同
第三時	同	一、〇	三八、〇	三三、〇	三〇、〇	三三、七	同
第四時	同	二、〇	四二、〇	三五、〇	三三、〇	三六、七	同
第五時	同	二、〇	四二、五	三六、五	三五、〇	三八、〇	同
第六時	同	二、〇	四三、〇	三八、〇	三五、五	三八、八	同
第七時	同	二、〇	四二、〇	三八、〇	三五、五	三八、五	同
第八時	同	一、〇	四二、〇	三八、〇	三五、五	三八、五	同
第九時	同	一、〇	四一、五	三七、〇	三三、〇	三七、二	同
第十時	同	一、〇	四一、五	三七、〇	三三、〇	三七、二	同
平均	雨	一、〇	二五、〇	二〇、〇	一五、〇	二〇、〇	午前九時三十分送風始

第十	九、〇	四二、〇	三七、〇	三〇、〇	三六、三	四十棒抽出
平均	一一、一	三九、一	三四、二	三〇、八	三四、七	

毎回試験成績比較

事項	目次	試験月日					平均
		第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	
天気	晴(積雪)	曇	曇	曇	曇	雨	
室内平均温度	上部 四四、一 中部 三八、一 下部 三〇、五 平均 三七、六	上部 三九、四 中部 二八、九 下部 二四、二 平均 二〇、〇	上部 三八、〇 中部 二八、七 下部 二二、六 平均 二六、六	上部 三六、四 中部 三三、〇 下部 三〇、三 平均 三三、二	上部 三九、一 中部 三四、二 下部 三〇、八 平均 三四、七	二、二二 二、一一	八、三 三九、四 三四、六 二九、八 三四、六 九、三〇 一七九、八 三二四、二、四 三三三、三 六、六
乾燥所要時間	六、〇〇	一〇、〇〇	一三、三〇	八、三〇	九、三〇	一六三、七五	
乾燥總棒數	八四	一九四	二六六	一五五	二〇〇	一七九、八	
乾燥總枚數	一、五一二	三、五〇〇	四、八〇〇	二、八〇〇	三、六〇〇	三二四、二、四	
一時間ニ對スル乾燥枚數	二五二	三五〇	三五五	三二九	三七九	三三三、三	
乾苔一帖(十枚)重量	五、五	六、五	七、〇	七、〇	七、〇	六、六	
燃料種類	松薪	同	同	同	同	雜木	
燃料重量	三五、〇〇〇	四六、〇〇〇	七二、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四八、二五	
燃料代金	三、五〇〇	四、六〇〇	七、二〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、八二五	
一帖ニ對スル燃料重量	二、三一	一、三一	一、五〇	一、四三	一、四三	一、六三、七五	

一帖ニ對スル燃料代金

二、三二二

一、三三一

一、五〇

一、四三

一、六三、七五

備考 燃料ハ松薪ヲ用ヒ一貫匁代金十錢トス但第五回ニ於テハ燃料ニ雜木ヲ使用シ重量并代金等不明ナリ依ツテ燃料ニ關シテハ四回ノ平均ヲ取レリ

右試験ノ成績ニヨレバ、本年度ハ前年度ノ成績ニ鑑ミ、給熱并送風兩裝置ノ位置ヲ低下セシメタル結果、本機性能ノ改善セラレタルハ明ニシテ、室内上下兩部ノ關係ハ、右側即チ仕上部ニ於テハ殆ンド均一ニシテ平均四十度以上ヲ保持シ、又室内上下各平均温度ノ差モ、前年度ニ於テ一七度二ノ大ナル相違アリシニ比シ、本年度ハ九、六度ニシテ差引七、六度ノ減少ヲ來シ、即チ下部ニ於ケル乾燥力ハ著シク強大トナリシヲ以テ、前年度ニ於テ乾燥不良ナリシ下部四段ノモノモ、本年度ハ乾燥頗ル良好トナリ、爲メニ中途上部ニ挿換スルノ煩ヲ除キ、不鈔之レガ手数ヲ省略シ得タルト共ニ、又徒ラニ熱度ノ減耗スルヲ防ギ、隨ツテ乾燥能率ヲ増進セシムルニ到リタリ、次ニ一時間ニ對スル乾燥枚數ハ前年度ニアリテハ、百九十九枚ナリシニ本年度ハ、三百三十三枚ニシテ、差引百三十四枚、即チ約六割七分強ノ増進ヲ來シタリ、又燃料量ニ付イテハ、一帖ニ對シ前年度二百八十九匁ヲ要シタルニ、本年度ハ、百六十四匁ニシテ差引百三十五匁、即チ約四割七分弱ヲ節約シ得ルニ到レリ、但シ燃料代金ニ於テ一帖ニ對シ、前年度一錢一厘六毛ナリシニ本年度一錢六厘四毛ヲ要シ、差引四厘八毛ノ増加ヲ來シタルハ、燃料松薪ノ相場前年度ニ比シ二十五割ノ暴騰ヲ來シタル結果ニシテ、若シ之レヲ前年度ノ相場即一貫匁四錢ニ換算セバ、優ニ六厘六毛強ニテ是ルノ割合トナル。叙上本年度ニ於ケル成績ハ、前年度ニ比シ著シク優良ニ向ヘルヲ示セリ、之レ即チ改修ノ結果、室内配熱ノ状態良好トナリシニ基因セルコト勿論ナリト雖モ、一面ニ於テハ本年度ハ前年度ニ比シ、毎回ノ乾燥原料著シク増加シタルガ爲メニシテ、要スルニ一回ニ可成多數ノ原料ヲ循環收容シ以テ之レガ乾燥ヲ行フニヨリ、本機ノ性能ハ益々發揮セラ

レ、随ツテ之等乾燥力ヲ増進シ得ルト共ニ、燃料ノ經濟關係ヲモ著シク優良ナラシメ得ルヲ認メタリ、以上ノ如ニシテ、本機ハ前年度來屢々改善ヲ施シ試驗ヲ施行シタル結果、略々其ノ目的ヲ達シ得タリト雖モ、從來本機ハ其ノ送風ニ二人ノ人力ヲ要スルモノナルヲ以テ、原料多量ニシテ繼續之レガ使用ヲナス場合ニ於テ不尠困難ヲ感ジ、自然送風力ニ多少ノ不均等ヲ及ホシ、引イテハ乾燥能力ニ減退ヲ醸スノ憂アルト共ニ、勞働賃金漸次昂騰スルノ現時ニ在リテハ、之レニ代フルニ小規模ナル動力ヲ使用スルノ最モ得策ニシテ、且又該動力ハ本機ヲ使用セザル時ニ於テハ、精米精麥等ノ如キ、其他適當ナル作業ノ動力ニ兼用セシメ得ラレ、随ツテ經濟關係ニ於テモ大ニ有利ナルベクト認メタルヲ以テ、二月一馬力電動機ヲ購入之レガ据付ニ着手シタリ、而シテ該工事ハ三月中旬漸ク竣成シタルヲ以テ、直ニ試運轉ヲ行ヒ、後一回實地乾燥試驗ヲ施シタリ、右試驗ノ結果ハ從來ニ比シ著シク送風力ヲ増加シ、爲メニ乾燥室内各局部ニ亘リ、通風ヲ良好ナラシメ得タリ、然レドモ、該動力据付後ノ成績ニ付イテハ、本年度ハ僅々一回ノ實地試驗ヲ施シ得タルニ止リシヲ以テ、詳細ハ次年度ニ繼續シ之レガ試驗ヲ行ハントス。

本年度ニ於ケル成績ハ、大要叙上ノ如クニシテ、本機ノ海苔乾燥機トシテ最モ適切ニシテ、其ノ效果顯著ナルベキハ、殆ンド疑ノ地ナキニ到リシヲ認メ得タルヲ以テ、須ラク縣下海苔主要生産地ニ於テハ、本機ヲ採用シ、以テ天日ニ據ル能ハザル場合之レガ人的乾燥ヲ施シ、其ノ損害ヲ防止シ大ニ生産ノ増進ヲ圖ランコト、切望スルモノナリ。

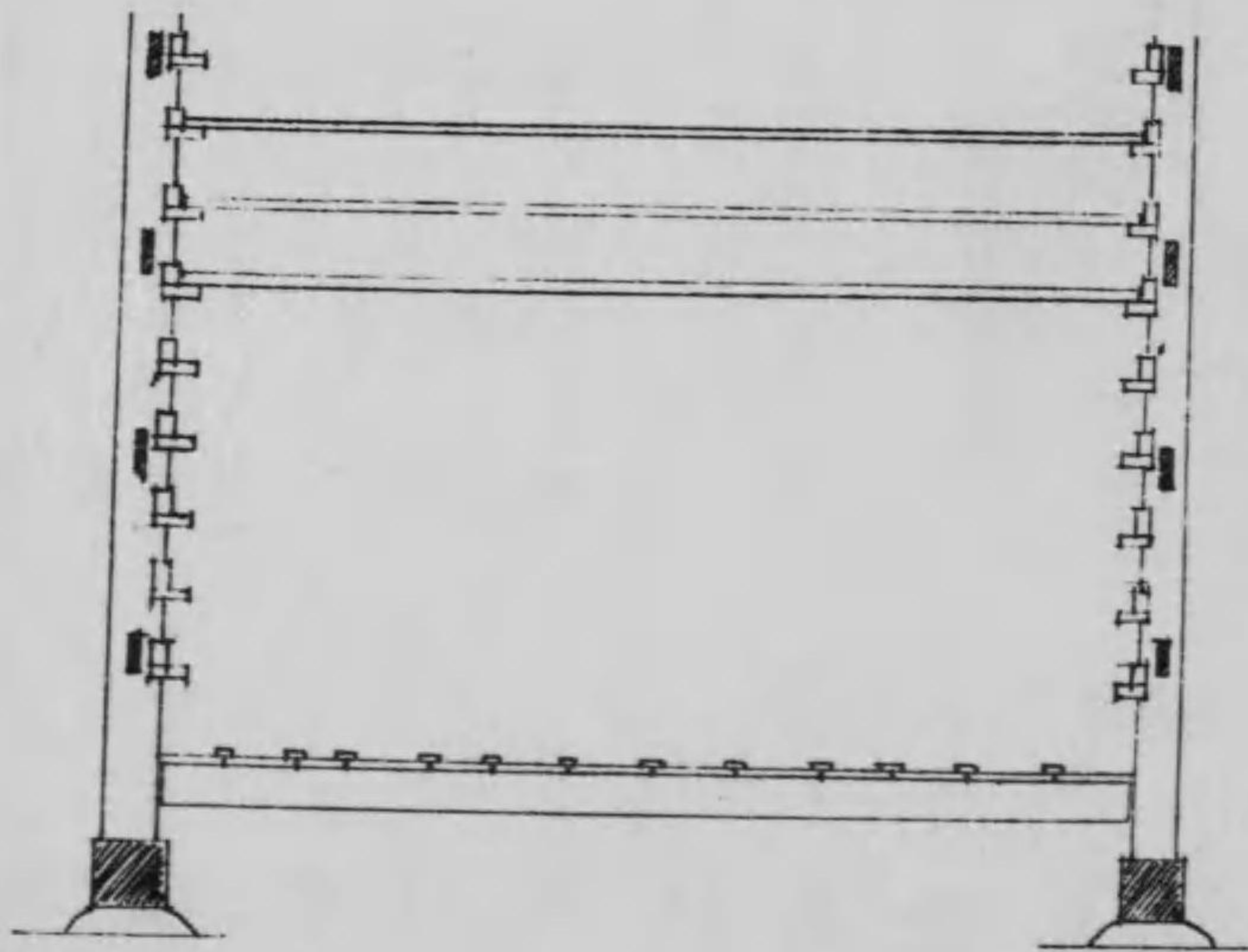
築 設 費

本機築設ニ要スル經費ヲ掲グレバ左ノ如シ

金六百六拾圓也

海苔乾燥機築設費

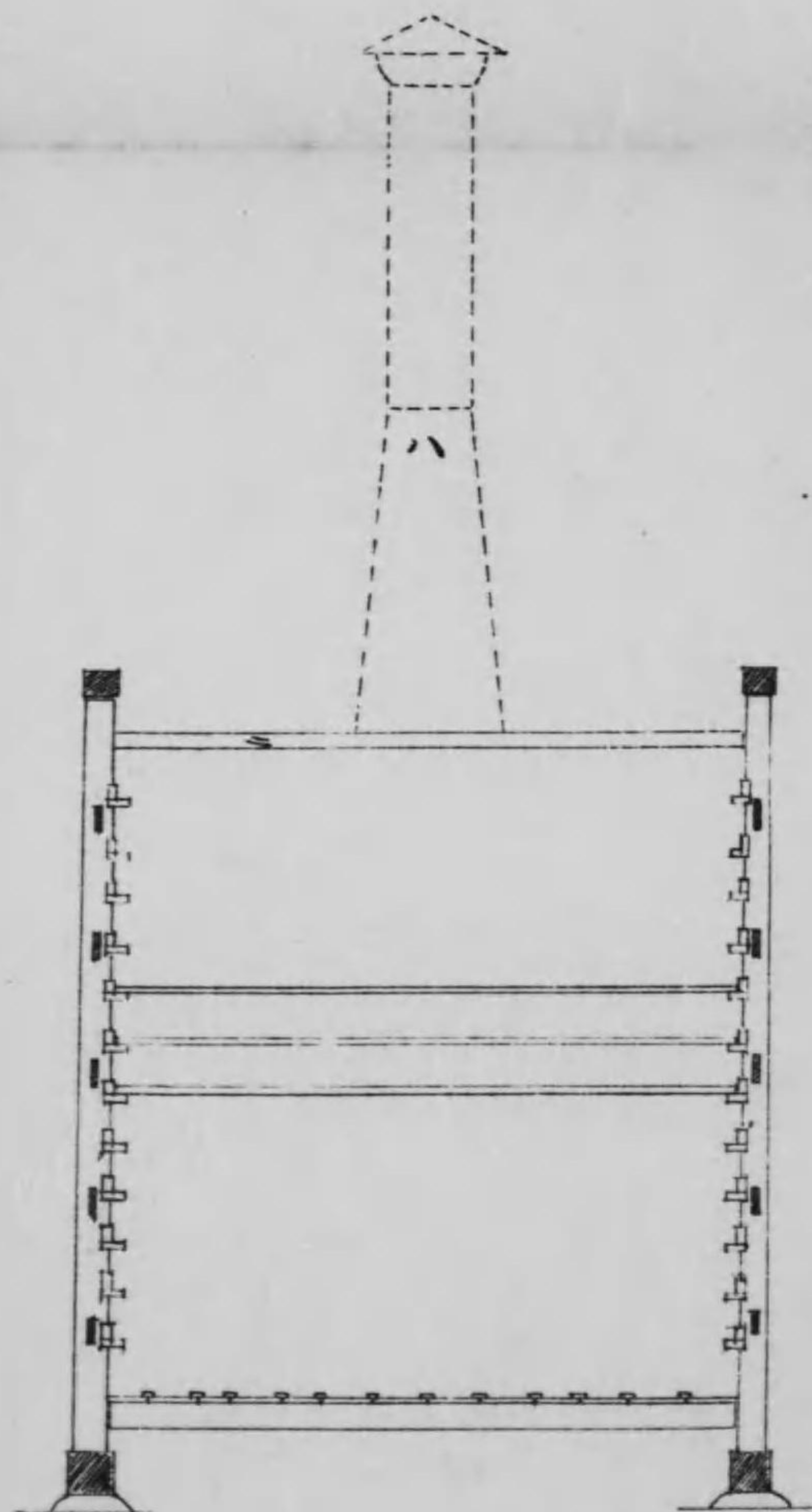
50  
 (米) (中)  
 海苔乾燥機



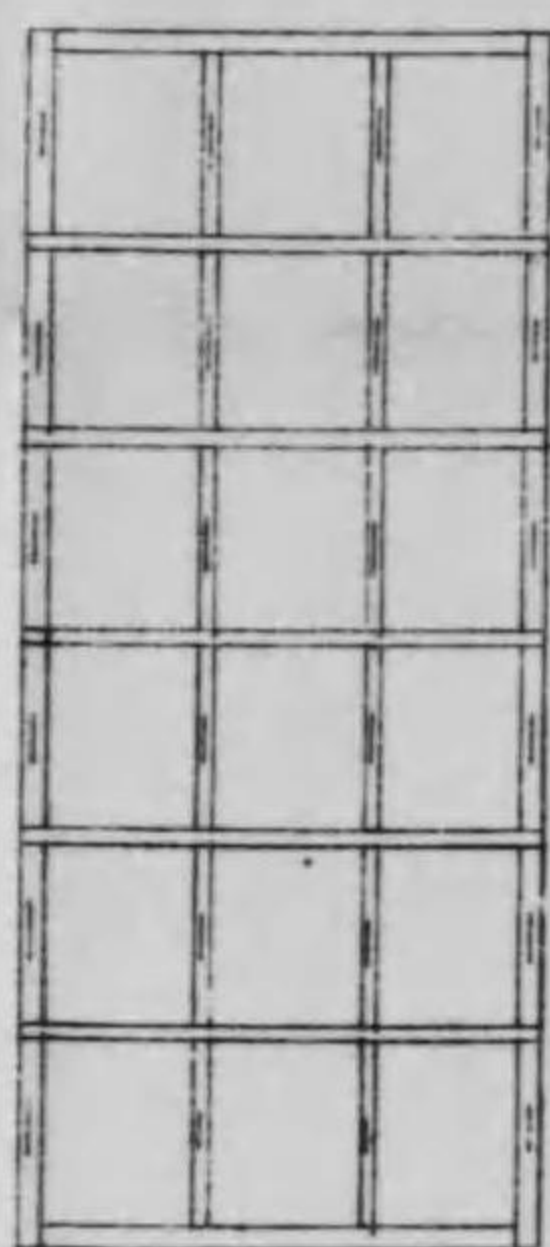


# 海苔乾燥機圖面

圖面斷橫  
(央中)  
1/20



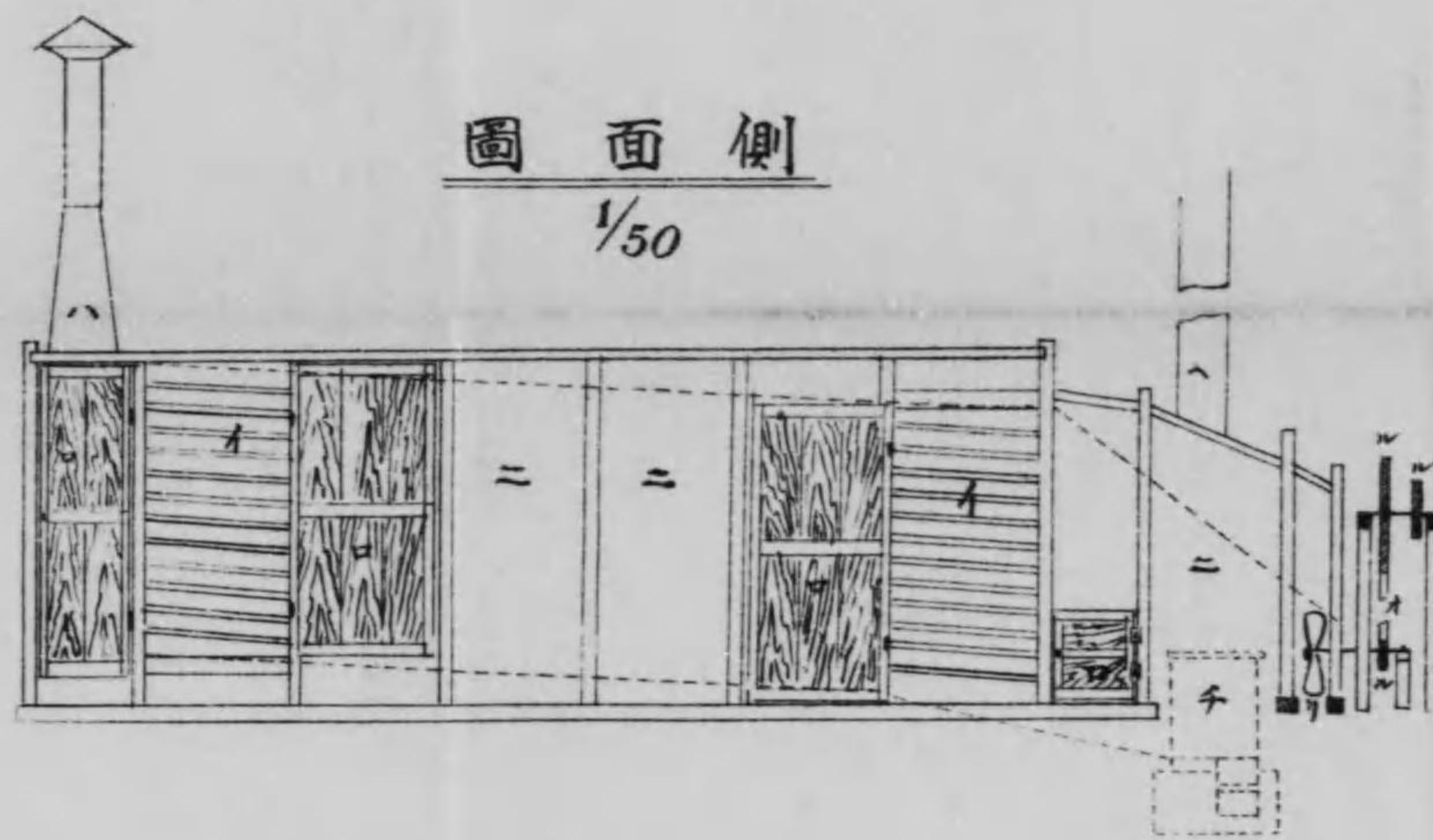
海苔簀  
1/20



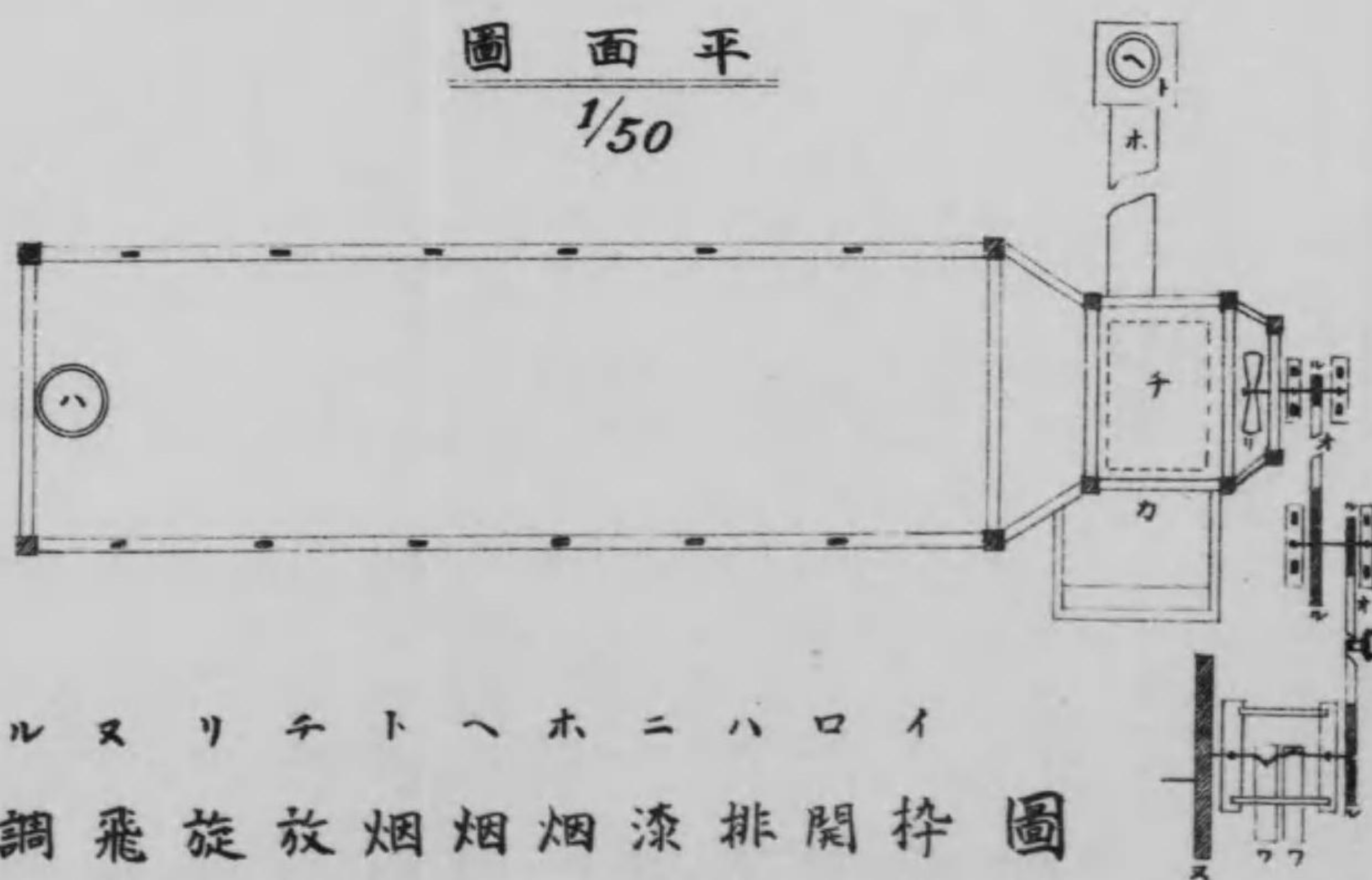
海苔黃  
1/10



圖面側  
1/50



圖面平  
1/50



ヨカワオルヌリチトハホニハ口イ  
モ焚足調調飛旋放烟烟烟漆排閑拵  
ター踏板帶車車機爐臺突道塗筒戸棧  
| 場板帶車車機爐臺突道塗筒戸棧

圖解

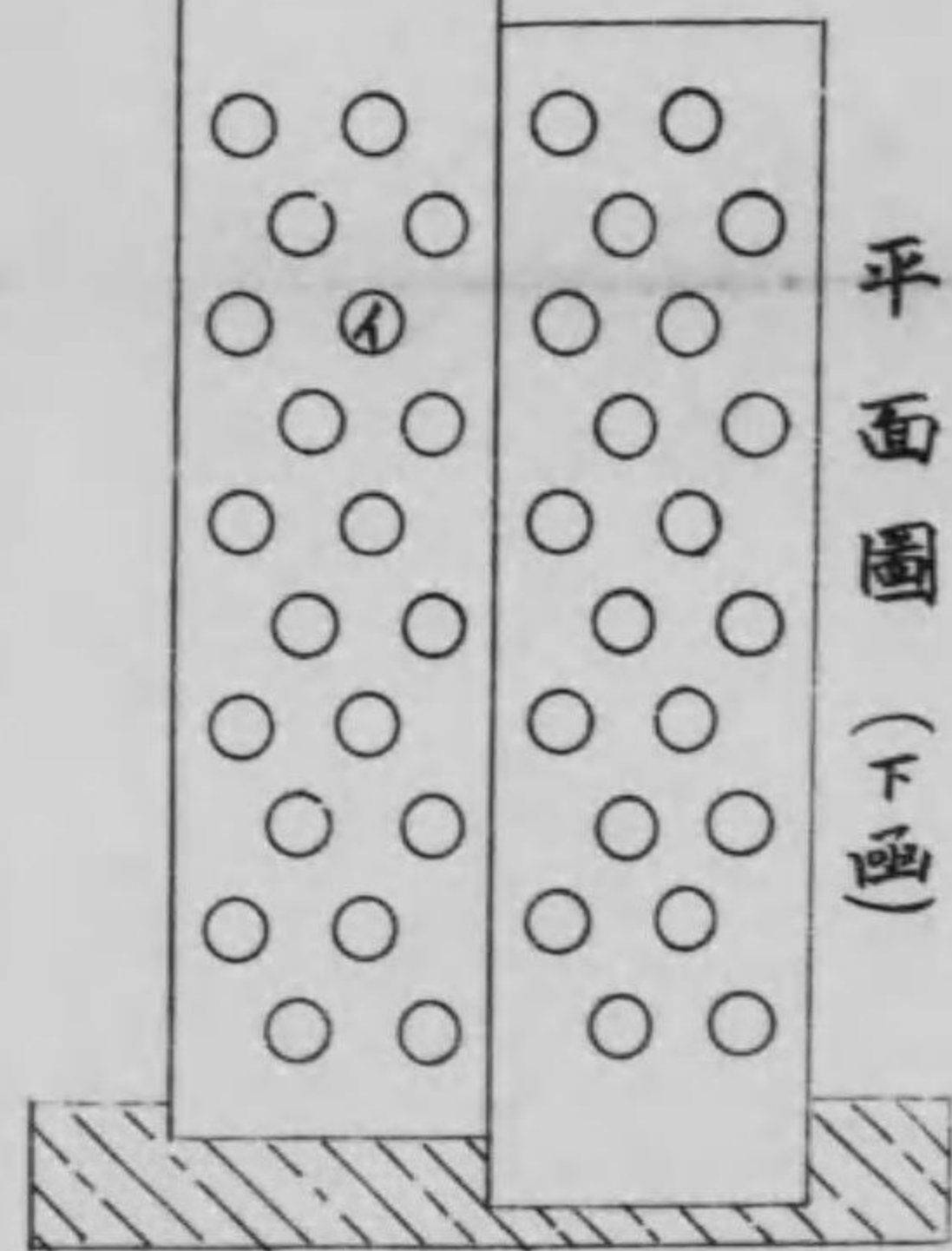
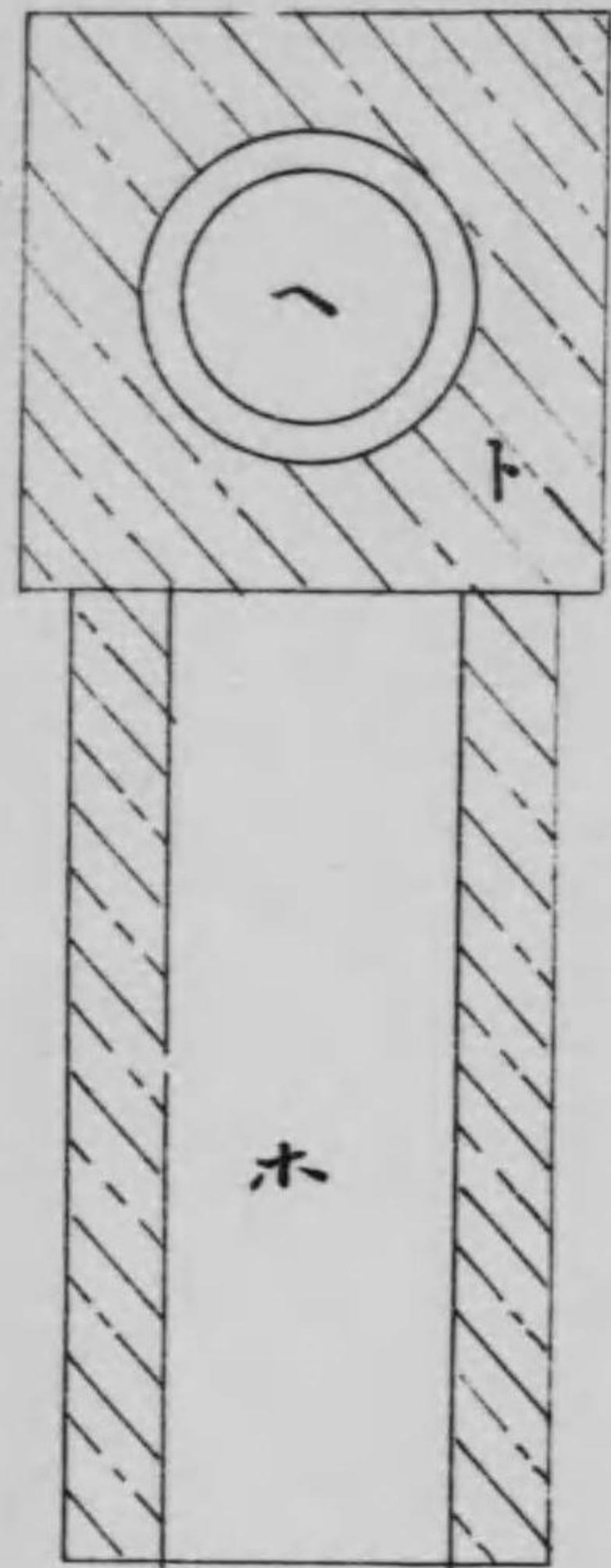


# 液苔乾燥機放熱爐圖面

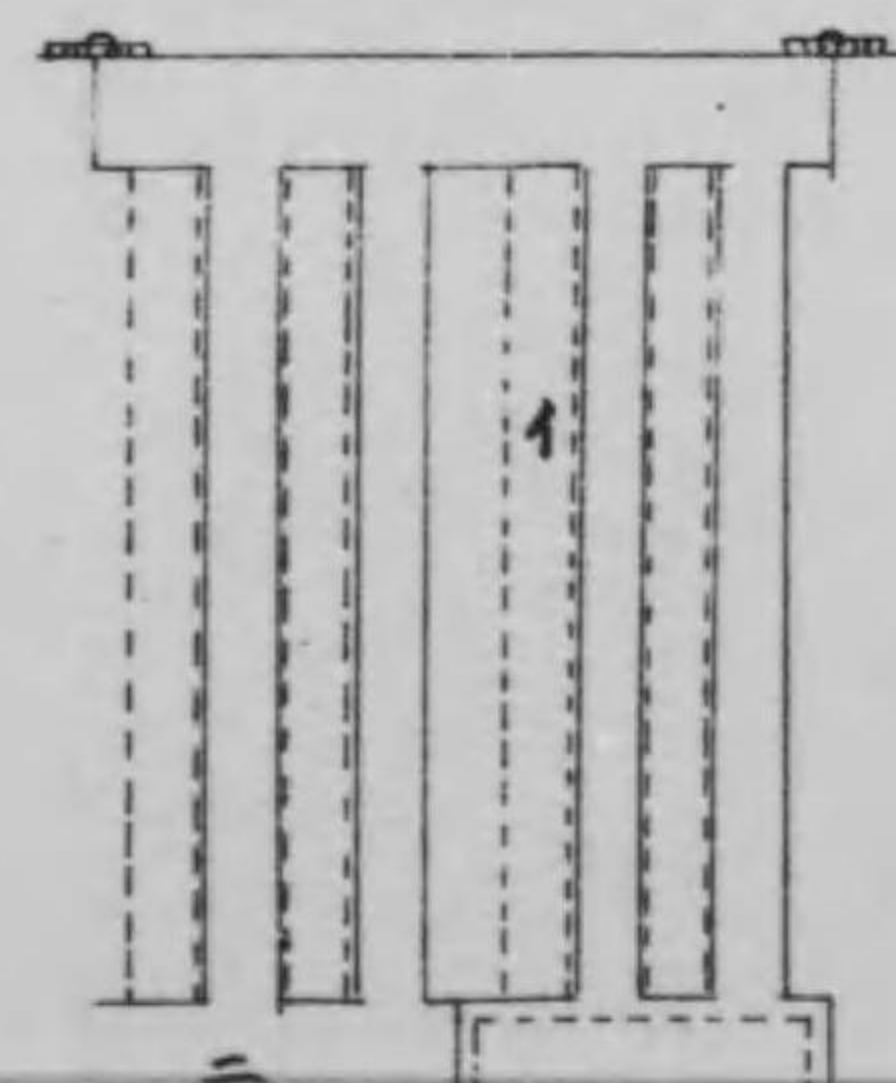
縮尺十分之一

## 圖解

又	リ	チ	ト	へ	ホ	ニ	ハ	口	イ
火	螺	鏢	烟	烟	烟	掃	通	口	鐵
口	旋	番	突	突	道	除	風	ス	管
			臺	臺		口	口	トル	

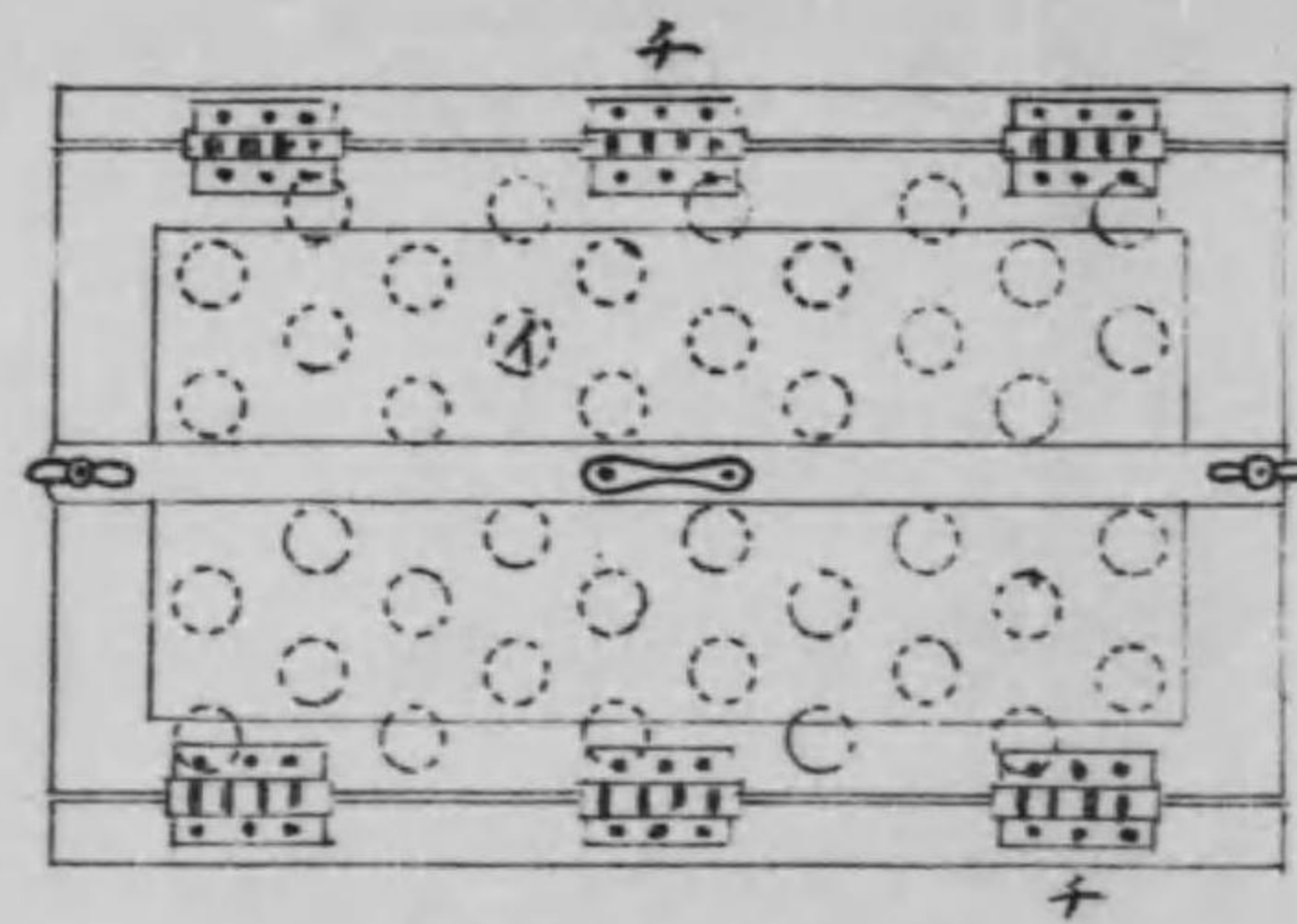


圖面斷橫

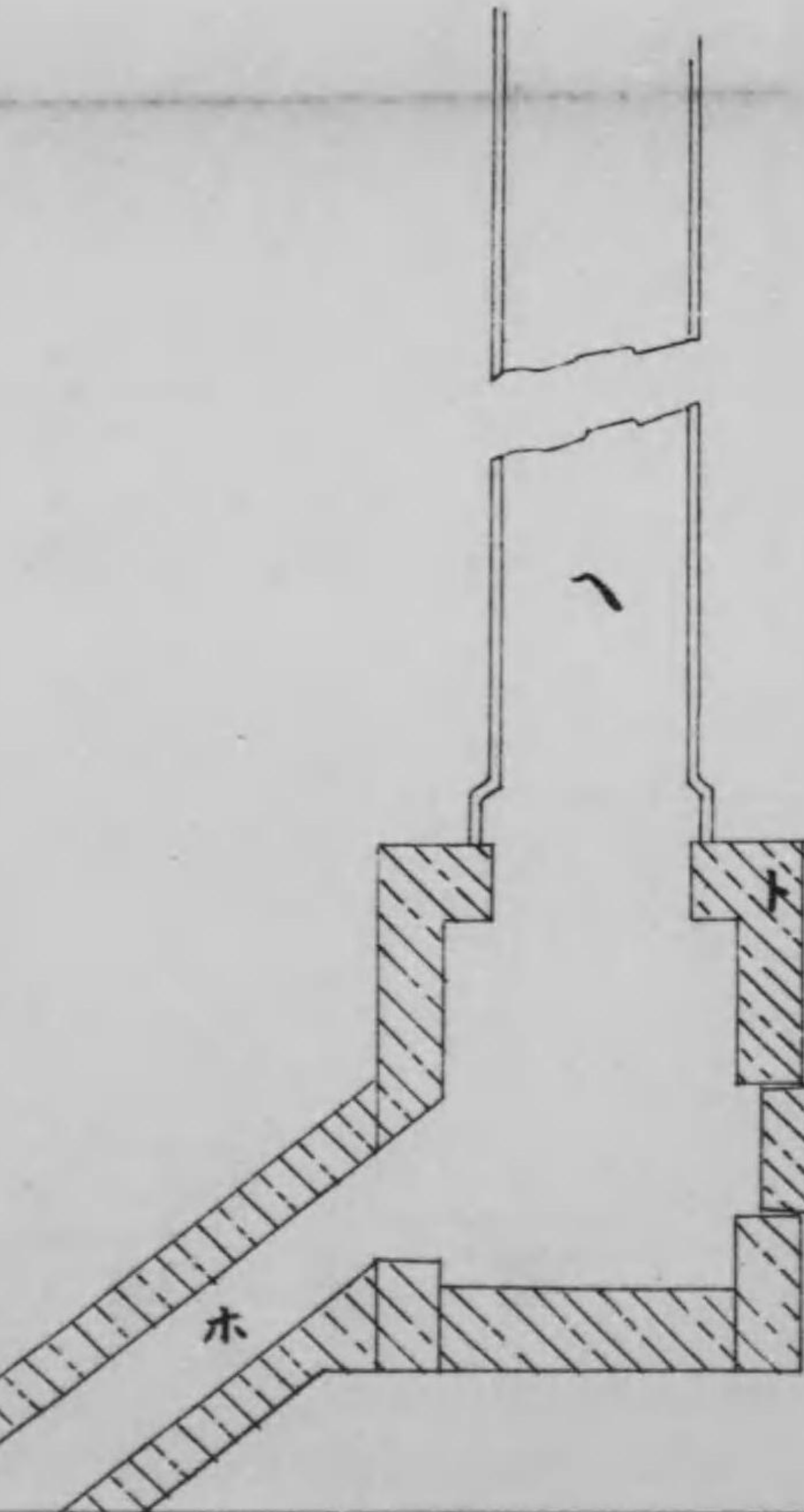
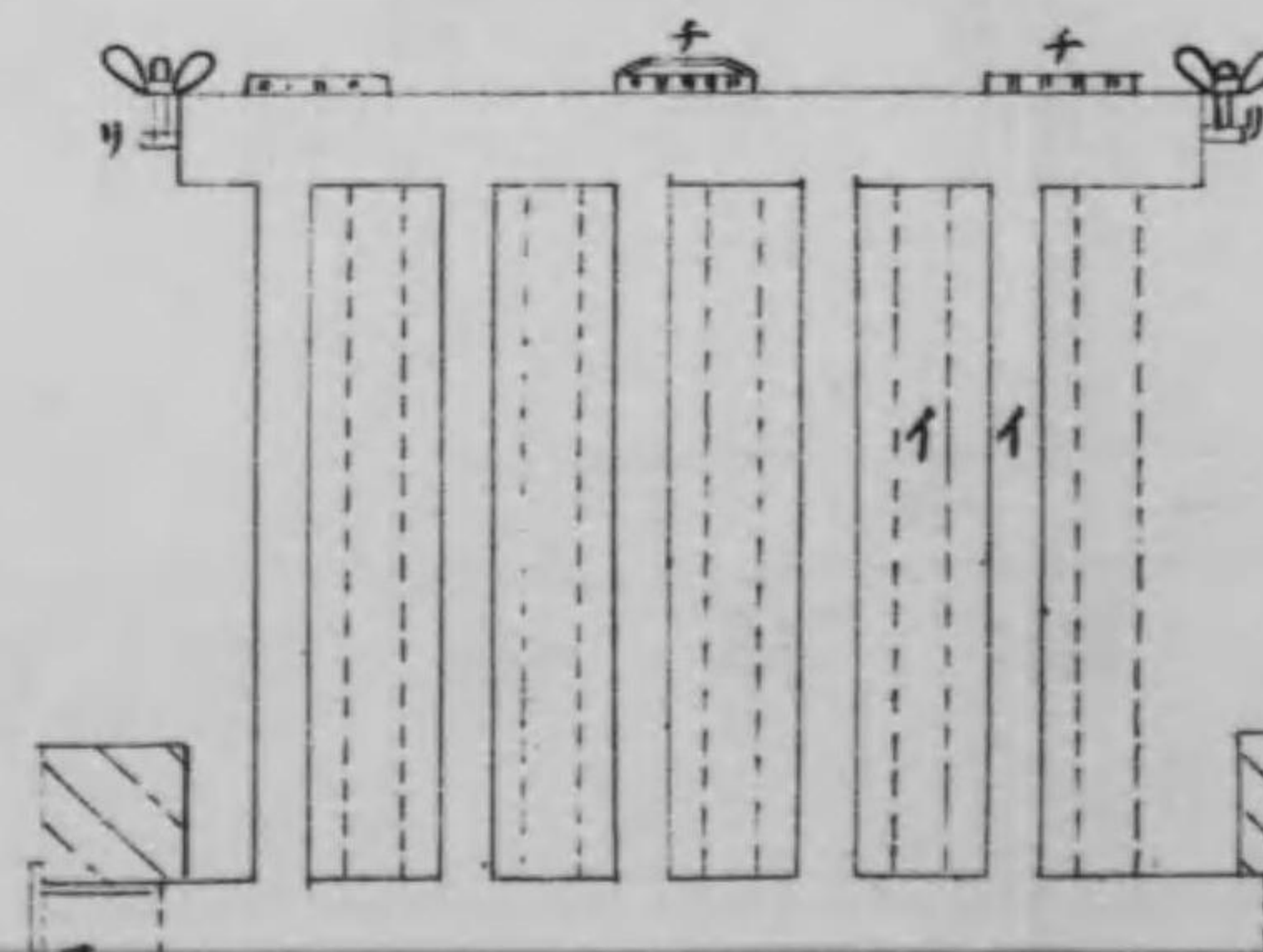


## 圖面平

(西上)

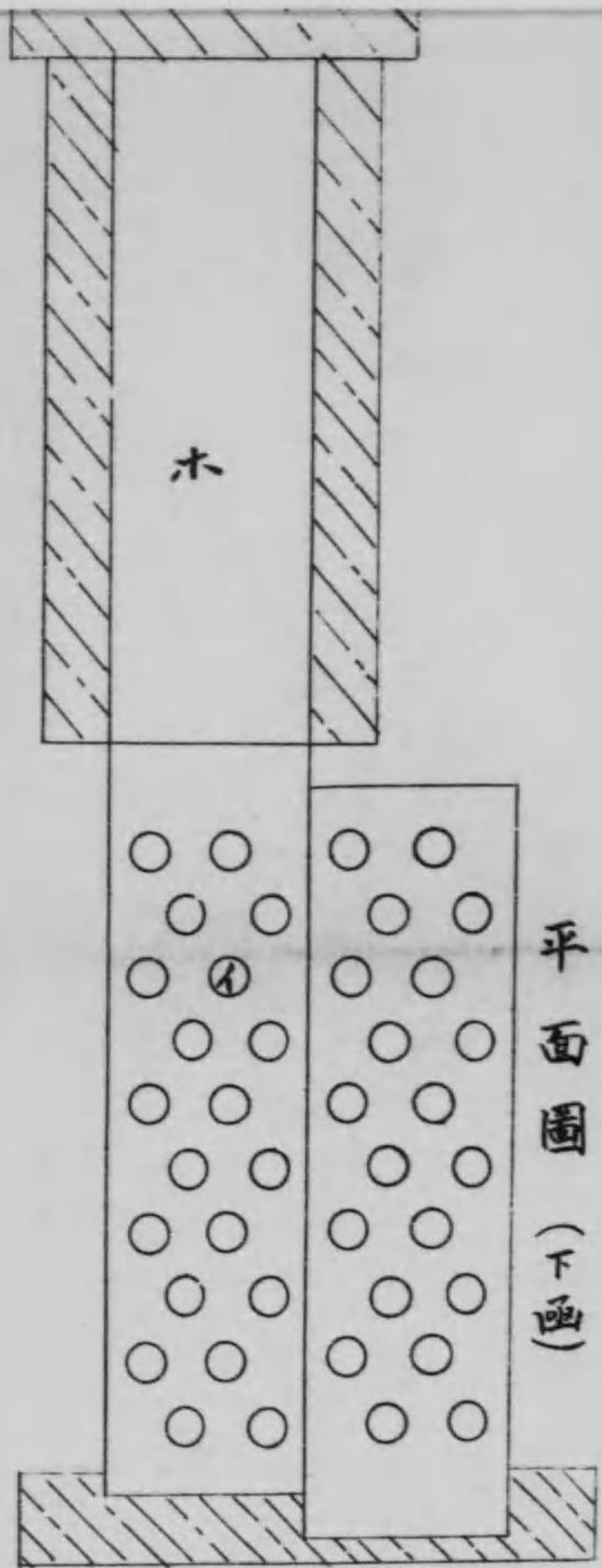


圖面斷縱



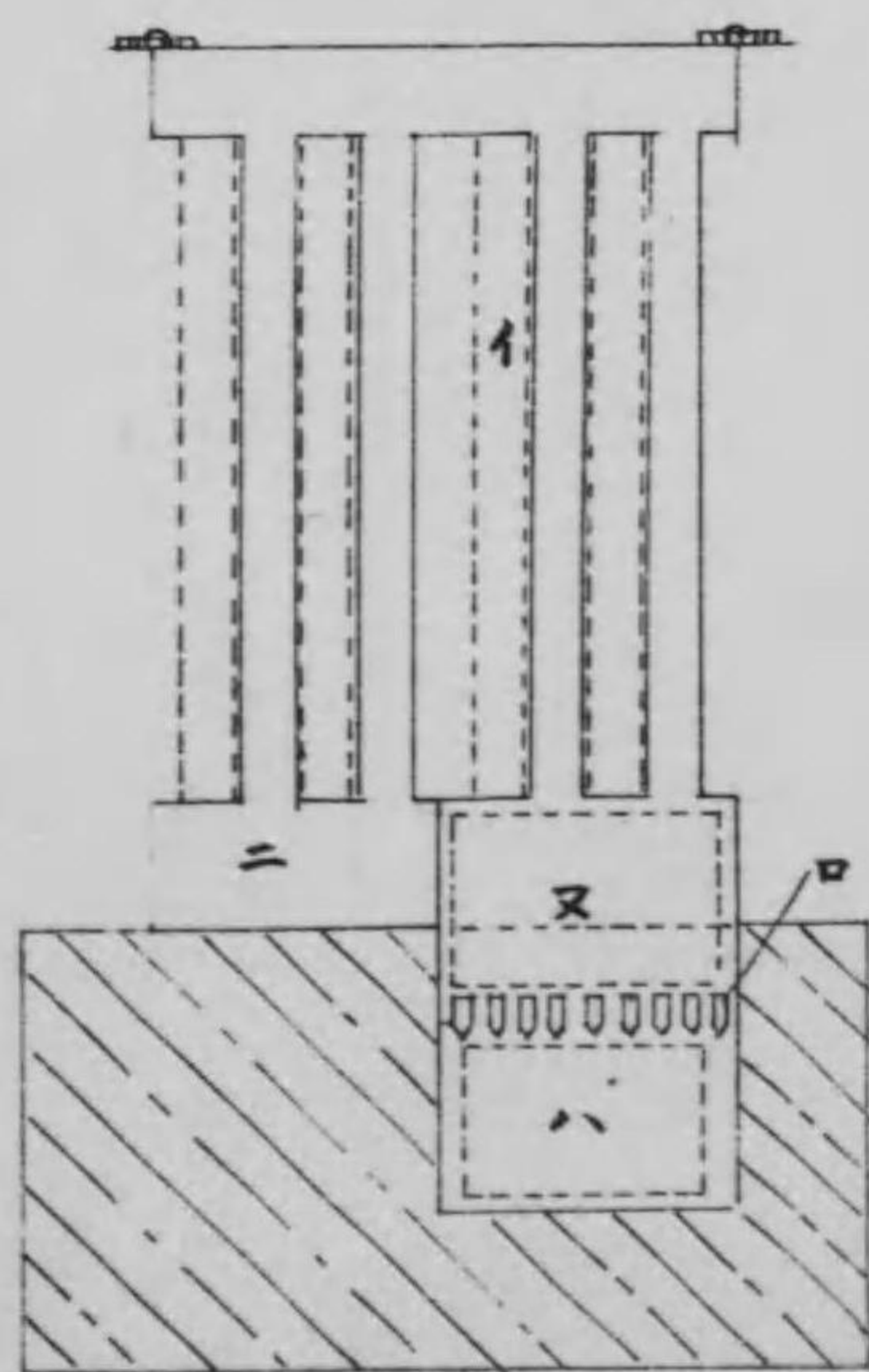
解 圖

又 リ チ ト へ ホ ニ ハ ロ イ  
 一 螺 鏢 烟 烟 烟 掃 通 口 鐵  
 火 旋 番 突 突 道 除 風 ス ト ル 管  
 口 旋 番 臺 突 道 口 ル 管



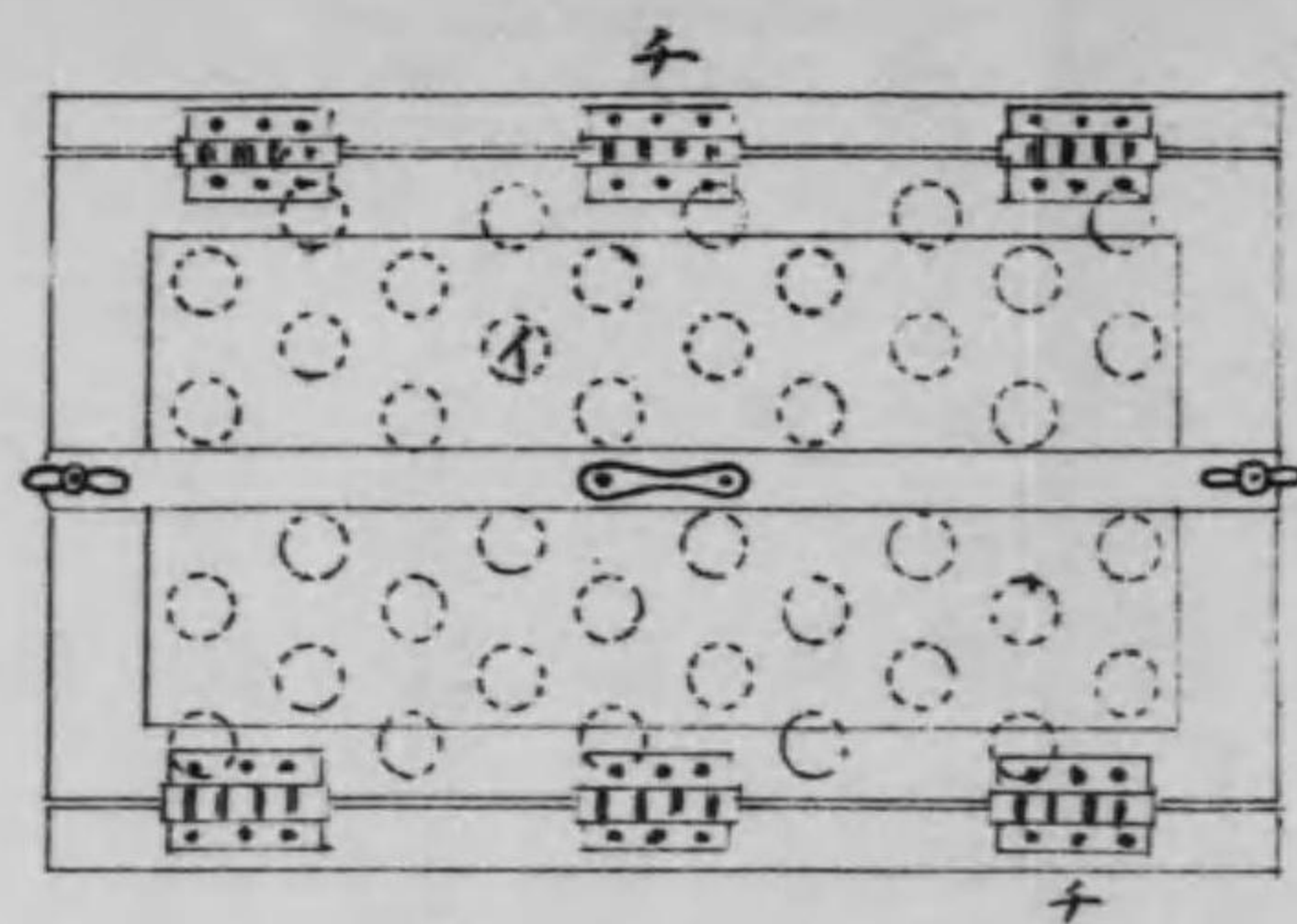
平面圖 (下函)

圖面断横

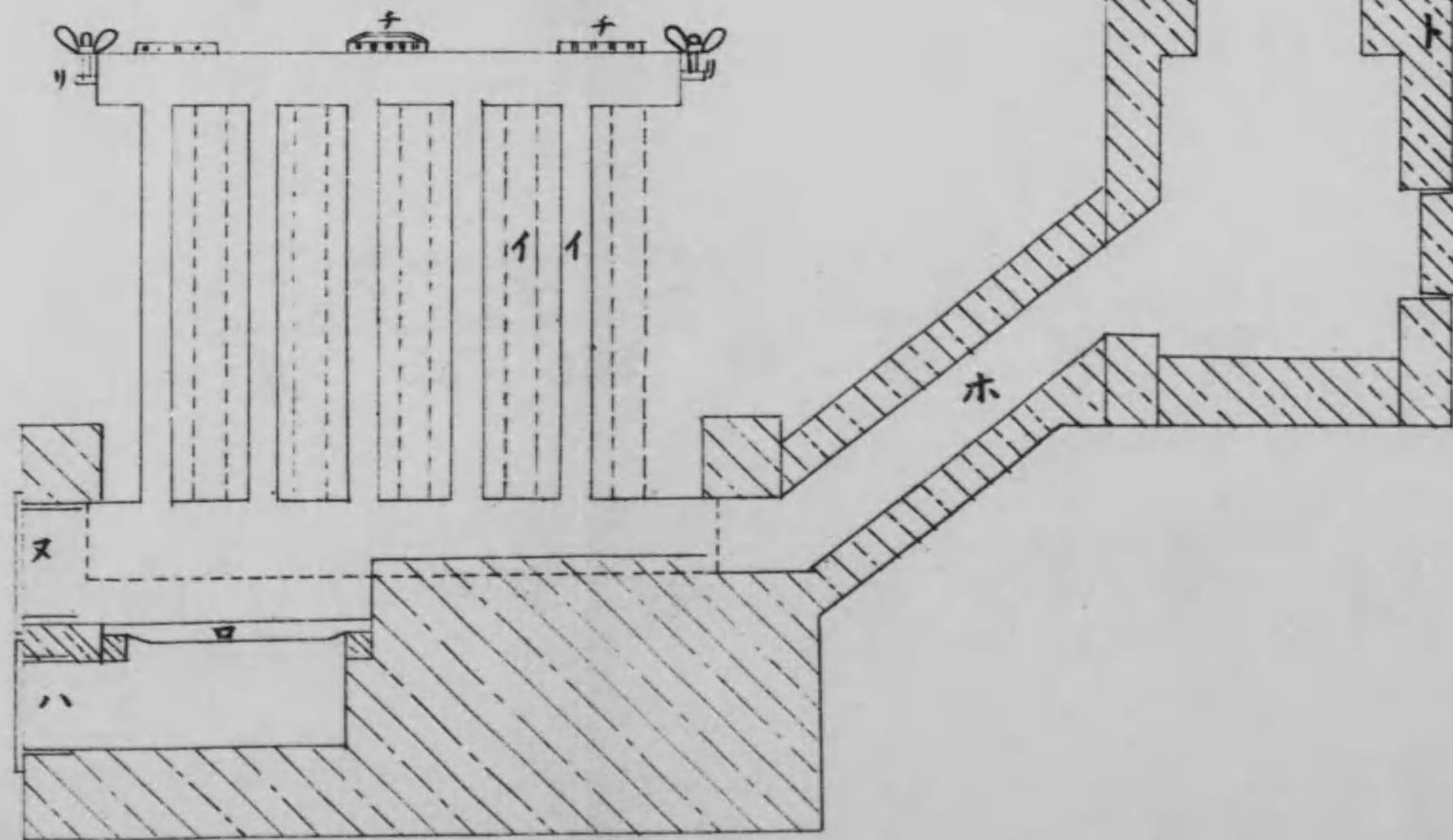


圖面平

(西上)

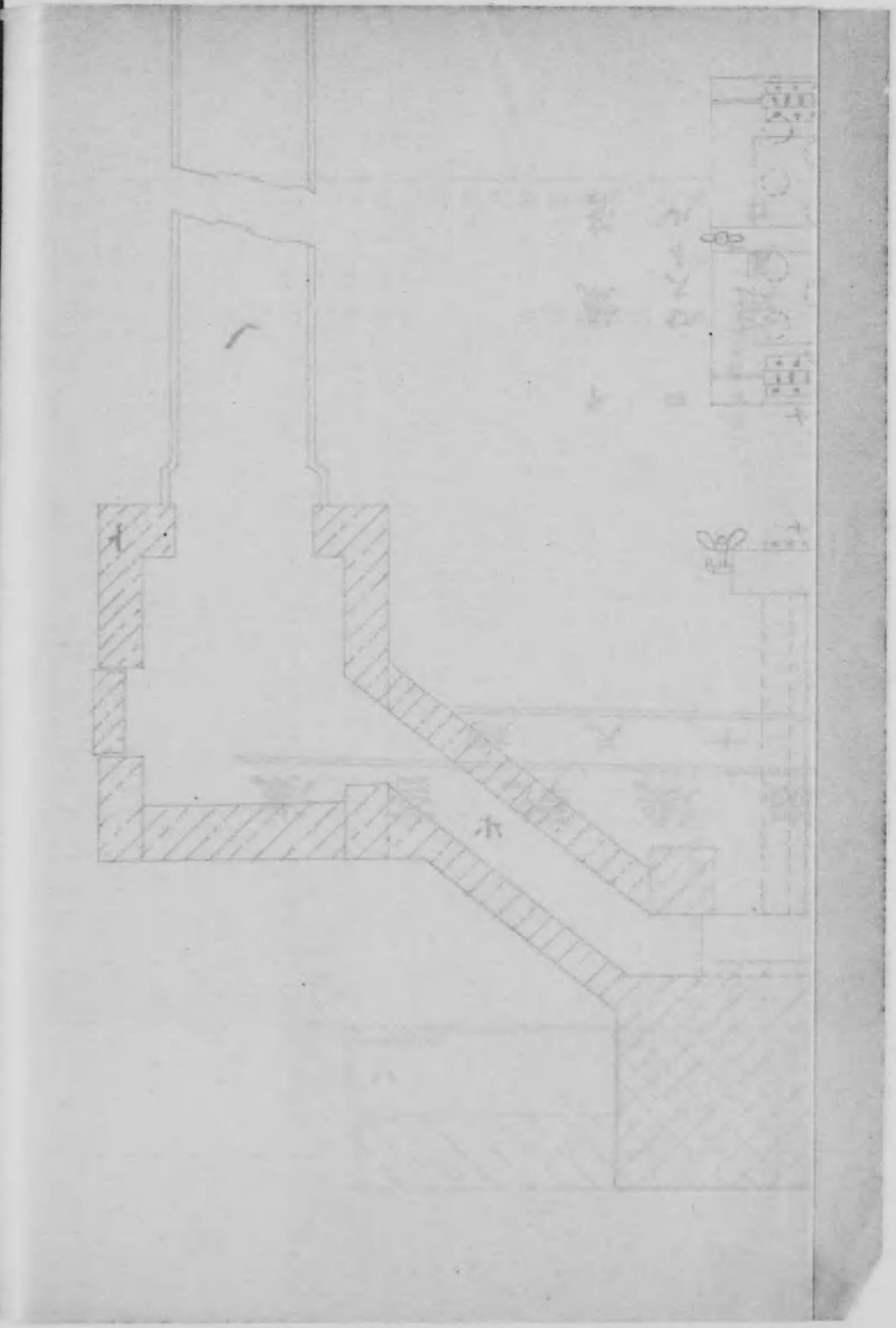


圖面断縦



品名	數量	單價	金額	摘要
土臺	一間	六〇〇	六〇〇	房州石長二尺七寸巾七寸厚五寸
土柱	八本	八五〇	九三〇〇	樁三四角
桁	九間	五〇〇	九〇〇〇	杉三寸角長七尺十六本
天井	一本	四〇〇	三六〇〇	同杉四寸角長一丈三尺二本
床	一本	二〇〇	一九六〇	杉二寸角長六尺
小貫	八〇丁	一一〇	七二〇〇	同上
大貫	六丁	二五〇	一五〇〇	天井其他板摺用
松板	三坪	一五五〇	四六五〇	天井根太受壁通及杉圍棧
杉板	一坪	一五五〇	一五五〇	床張用
大板	三六丁	三三〇	一、八八〇	乾燥梓乘棧用
戶	一枚	二、六〇〇	五、二〇〇	三尺六尺
戶	一枚	二、三〇〇	二、三〇〇	二尺六尺
蝶	一枚	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二尺二尺
漆喰	八ヶ	三〇〇	二、四〇〇	
釘	二坪五	二、八〇〇	三、五〇〇	
石工	二人	一、五〇〇	三、〇〇〇	
大工	二人	一、五〇〇	三、〇〇〇	
小工	二五人	一、三五〇	三、三七五	
放熱爐	一ヶ	一八五、〇〇〇	一八五、〇〇〇	以上十九點干燥室用 鐵製爐二吋管四十本入

二、海苔乾燥機委託試驗



焚口金	二ヶ	一、五〇〇	三、〇〇〇	焚口及風口用
ロストル	一二本	二五〇	三、〇〇〇	
土管	二本	二五〇	五〇〇	
丸太	一五本	九〇〇	一三、五〇〇	煙突用直徑八寸
鐵線	三本	六〇〇	一、八〇〇	煙突支持用
煉瓦	四〇間	一〇〇〇	四、〇〇〇	爐煙道煙突台其他
石灰	八〇〇枚	〇三五	二八、〇〇〇	同上用
セメント	一斗	四〇〇	四、〇〇〇	
煉瓦	一斗五	一、八〇〇	二、七〇〇	
人夫	八人	一、五〇〇	一二、〇〇〇	
小計	六人	一、〇〇〇	六、〇〇〇	
プロペラ	一ヶ	一二、〇〇〇	二五九、九〇〇	以上十二點放熱裝置用
シヤフト	四尺五	一、五〇〇	一二、〇〇〇	鐵製長一尺巾二寸五分羽根四枚付
クランクシヤフト	三尺五	三、〇〇〇	六、七五〇	徑一吋二尺五寸一本同二尺一本
メタル	六ヶ	一、五〇〇	九、〇〇〇	徑一吋足踏裝置附屬
調整車	二ヶ	七、〇〇〇	一四、〇〇〇	シヤフト受置メタル
調整車	一ヶ	一、八〇〇	一、八〇〇	徑三十吋巾鐵製ブレ
飛車	一ヶ	一、四〇〇	一、四〇〇	徑十吋巾二吋同上
調整車	一ヶ	一、四〇〇	一、四〇〇	徑六吋巾二吋同上
軸受	四〇尺	三七、五〇〇	三七、五〇〇	徑五吋二十五貫匁
臺	二組	二四〇	九、六〇〇	巾一吋四分ノ三木綿製
			一〇、〇〇〇	木製

足踏網	一組	五、〇〇〇	五、〇〇〇	木製
金釘	一ヶ	二、〇〇〇	二、〇〇〇	プロペラ用
鐵工	二人	二、〇〇〇	五、五〇〇	
大工	二人	一、三五〇	四、〇〇〇	
小計	二人	一、三五〇	二、七〇〇	
排氣筒	一本	七、〇〇〇	一三一、七六〇	以上十五點送風裝置用
排氣窓	一ヶ	三、〇〇〇	七、〇〇〇	亞鉛鍍鐵板製長六尺直徑一尺四寸
小排氣	一ヶ	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
乾燥機	九六枚	一、二〇〇	一一〇、〇〇〇	以上二點排氣裝置用
全計			一一五、二〇〇	海苔簀一室分全四枚豫備一側分十二枚
			一一五、二〇〇	以上干燥機用
			六六〇、〇〇〇	

金貳百拾圓也

同上用原動機設置費

品名	數量	單價	金額	摘要
モーター(一馬力)	一臺	一八〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	配電盤メーター器具等附屬具付
同据付費			三〇、〇〇〇	モーター并附屬具据付其他電線引込用
計			二一〇、〇〇〇	

### 三、雜試驗

#### 鯷油漬罐詰製造試驗

##### 要旨

本縣下重要魚類ノ一タル、鯷利用方法増進ノ目的ヲ以テ、前年度ニ繼續本試驗ヲ施行シタリ、而メ本年度ニ於テハ、主トシテ春黑鯷ヲ原料トシ試製ヲ行ヒ、以テ之レガ利用開發ニ資センコトヲ期セリ、今左ニ試驗ノ梗概ヲ述ベシ。

##### 試驗方法

原料、今回試驗ニ供シタル原料ハ、六月十二日館山灣内ニ於テ漁獲セラレタル大春黑鯷ニシテ、平均體長四寸六分體重四匁七分内外ノモノナリ。  
製法、原料ハ豫メ冷水中ニ浸漬シ以テ鮮度ヲ保持シ、傍ヨリ少量宛取り出シテ、頭ヲ切り内臟ヲ除キ、後母氏二三度内外ノ稀薄鹽水中ニ約十分間浸漬血抜ヲ行ヘリ、然ル後之レヲ母氏十二度ノ鹽水中ニ、二十五分間内外鹽漬シテ適度ノ鹽味ヲ附與シ、金網製油煉籠ニ併列シ、其ノ儘陰乾并日乾ヲ施シ、畧々半乾ノ状態トシ、油煉鍋中ニ落花生油ヲ約百五度内外ニ加熱シ、此中ニ於テ平均三分乃至五分油煉ヲ施シ肉詰ヲ行ヘリ、肉詰用罐ハ四分ノ一蓋蓋取罐トシ、開罐ノ際腹部ヲ露出スル様七尾宛二段詰即十四尾宛ヲ充填シ、之レニ「サラダ」油約三匁宛ヲ注油シ、密封ヲ施シ、蒸釜内ニ於テ六封度一時間半ノ給熱ヲ施シ製了セリ。

### 試驗成績

今回試製シタル製品ハ、合計五十個ニシテ内一部ヲ保存試驗ニ供シ、其他ハ全部、東京市京橋區銀座菊屋商店、同明治屋支店、同若菜商店ノ三ヶ所ニ見本トシテ送致シ、之レガ製法ノ適否、需要ノ如何、其他價格關係等ニ付キ調査ヲナセリ、今左ニ各商店ノ齎シタル品評報告ヲ記スベシ。

#### 菊屋商店報告

- 一、原料トシテハ真鯷ノ代リニ春黑鯷ヲ用フルモ相當ノ販路アルベシ。
- 一、製品賣行價格ニ付テハ即答シ難キモ、目下當市場ニ於ケル「サーデン」相場ハ一箱(百ヶ入)三十二圓ヨリ三十六七圓内外ナリ。
- 一、製品食味佳良ナルモ、未ダ充分慣レ居ラザルモノノ如シ、而メ注油ハ未ダ肉質ニ完全ニ浸透シ居ラザルノ觀アリ、又容器ノ體裁并總重量共ニ、一般市場ニアル製品ト同様ニシテ此儘ニテ支障ナク、肉詰等モ批難スベキ點ナシ。
- 一、該品ハ内地向トシテモ相當ノ賣行アルベシト雖モ、尙海外へ輸出セバ、必ズ外人ノ嗜好ニ適スルニ到ルベシ。

#### 明治屋東京支店報告

- 一、製品品評ノ結果ハ、全般ニ於テ出來榮宜敷モ、使用油ノ品質稍々劣等ナルト、春黑鯷本來ノ風味甚ダ少ナルノ嫌アリ、若シ之等ニ缺點ヲ補成シ得バ相當ノ嗜好ヲ開キ得ベキモノト思惟ス。

### 若菜屋商店報告

一、本年ハ鯉油漬罐詰業界好況ノ結果多少劣等ノ品モ取引セラレ、且ツ又一般輸出業者モ眞鯉ト春黒鯉トノ差別ヲ知ルモノ稀ニシテ、一樣ニ鯉油漬ナル名稱ノ下ニ取引セラルル模様ナレドモ、平時ニ於テ果シテ相當賣行アルヤ否ヤ豫言シ難シ、目下ニテハ春黒鯉ノ優良品アラバ二三圓ノ値開ニテ商談行ハルベシ。

一、製品ハ原料ヲ節約シタル缺點アリ、又油ハ落花生油ノ代リニ阿列布油ヲ使用スルヲ要ス。

本年度ニ於ケル試製品品評ノ結果ハ、大要以上ノ如クニシテ、原料ノ選擇、用油ノ品質、其他製法上ニ尙一層ノ研究ヲ加フルト共ニ、一面生産費ノ節約ヲ圖リ、之レガ販路ノ擴張ニ努ムルニ於テハ、眞鯉ヲ原料トシタル製品ニ比シテ、多少價格ノ相違アルハ免レザルモ、相當ノ需要ヲ起シ得ベク、將來有望ナルベキモノト認ムルモノナリ。

### 四、鯉節製造傳習

前年度ニ繼續シ、鯉節製造ノ改善ヲ圖ランガタメ、安房郡江見村外三ヶ所ニ該傳習ヲ開催シ、實業教師ヲ派遣シ、之レガ技術ノ練習ヲナサシメタリ、然ルニ本年度ハ例年ニ比シ、縣下一般鯉漁極メテ不況ニ了リ、隨ツテ傳習用原料ヲ得ルニ不尠困難ヲ來シ、爲メニ豫期ノ實習ヲ途グルコト能ハザリシト雖モ、傳習中各地ヨリ多少ノ實習用材料ヲ補足シ得タルヲ以テ、削、微付法、等ニ付イテハ充分ナル實習ヲナシ得タリ、今左ニ傳習狀況ノ一斑ヲ表示スベシ。

傳習場所	傳習期間	入場生數	修了生數	未修了生數
安房郡江見村	七月一日ヨリ三ヶ月間	三六	二二	一四
夷陽郡豐濱村	五月一日ヨリ三ヶ月間	三二	三二	〇
濱上郡本銚子町	七月一日ヨリ三ヶ月間	五九	四二	一七
同 高神村	同	二四	二〇	〇
計		一五一	一〇四	三一

### 五、罐詰製造傳習

前年度ニ繼續シ、罐詰製造業開發普及ノ目的ヲ以テ、市原郡八幡町及本場内ニ該傳習ヲ開催シ、前者ニアリテハ主トシテ内灣沿岸ニ産スル鯛、海苔、蟹、其他雜魚等ニ付キ、各種罐詰製造ノ技術ヲ練習セシメ、後者ニアリテハ、外海ニ産スル鯉、秋刀魚、蠔螺、其他諸種ノ原料ニ付、各種ノ罐詰製造法ヲ習得セシメ、尙兩者其實習ノ餘暇ヲ利用シ、罐詰製造ニ關スル原理并方法、其他斯業經營上必要ナル事項等ヲ講述筆記セシメタリ、今左ニ傳習狀況ノ一斑ヲ表示スベシ。

傳習場所	傳習期間	入場生數	修了生數	未修了生數
市原郡八幡町	七月一日ヨリ十五日間	八	七	一
本場内	十二月一日ヨリ廿日間	六	六	〇
計		一四	一三	一

### 六、和布製造傳習

和布ハ本縣下安房、夷隅兩郡ヲ始メ、君津、長生、海上、ノ五郡ニ亘リ饒産セラレ、其ノ總産額ハ實ニ、十萬圓ニ達ス、然ルニ從來之レガ製造方法ハ極メテ粗雜ニシテ、市價隨ツテ常ニ低廉ナルヲ免レザル狀況ニアリ、爰ニ於テ之レガ製法ノ改良ヲ圖リ、市價ノ昂上ヲ期スルト共ニ、販路ノ擴張ヲ企ツルハ、最モ緊切ナル事項ト認ムルヲ以テ、本年度ヨリ縣下主要産地ニ於テ該傳習ヲ開催シタリ、而メ本年度ハ、安房郡太海村及夷隅浪花村ノ二ヶ所ニ於テ之レヲ開催シ、徳島縣ヨリ實業教師ヲ聘シ、専ラ鳴門式ニヨリ改良法ノ實習ヲ施行シタリ、今左ニ傳習狀況ノ一斑ヲ掲ゲン。

傳習開催地	傳習期間	入場生數	修了生數	未修了生數
安房郡太海村	四月十二日ヨリ十五日間	四五	四〇	五
夷隅郡浪花村	四月廿八日ヨリ十二日間	一六	一三	三
計		六一	五三	八

## 養殖部

### 一、海苔養殖試驗

#### 海苔施肥試驗

##### 要旨

本試驗ノ趣旨ハ大正五年度、並ニ大正六年度報告書ヲ述ベタルガ如ク、附着發舒セル海苔ニ肥料ヲ施シテ、生産量ノ増加ト品質ノ向上トヲ圖リ、而カモ經濟上果シテ有利ニ實施セラレ得ベキモノナルヤヲ試驗考究セントスルニアリ、大正五年度ノ試驗成績ニ於ケルガ如ク、施肥ニ要スル諸費及ビ勞働賃金ヲ控除スルモ尙ホ三欄、二ヶ月間ノ増收入ハ金四圓八拾九錢九厘ヲ示シ、大正六年度ニ於テハ海苔着生佳良ナラザリシモ、三欄ノ増收入金壹圓九拾五錢ヲ得タルガ如ク、施肥ノ有效ナルノ事實ハ二ヶ年ノ試驗ニヨリテ稍闡明セラレタリト雖モ、宏大ナル海中ニ於ケル試驗ナルヲ以テ、自然力ニ支配セラルル所大ニシテ、經濟上幾何程度ノ利益アリヤハ數年ノ試驗成績ヲ綜合シ、或ハ海象ノ調査等ヲ參酌シテ歸納的ニ決定セサルベカラサルモノニシテ、前二ヶ年ノ成績ニ甚シキ差違ヲ示スニヨリテモ亦本試驗ノ繼續施行ヲ必要トセリ、茲ニ於テ、農商務省水産講習所ト連絡シ試驗ヲ開始セリ。

#### 試驗方法及經過

五井浦ニ於ケル海苔養殖場ハ本年度ヨリ浜棚ノ長サヲ變更シ二十間ヲ改メ三十五日間棚、浜棚列三條ト爲シタルヲ以









計	一八、一四五	一、七九	〇、〇三八	一、五〇五	一六、八五五	一、七九	〇、〇三八	一、五〇五	一六、八五五
差	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九
計	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九
差	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九	一、七九

試験成績

前掲ノ表ニ就キテ、本年度ノ成績ヲ見ルニ養殖ノ初期ニ於テハ海苔ノ着生濃密ニシテ、成長良好ナルガ如キ觀ヲ呈セルモ、爾後ソノ採取ノ成績ニ至リテハ、前二ケ年ノ成績ニ反シテ、全ク反對ナル結果ヲ表ハシ、木浜ハ竹浜ヨリモ十八貫百四十五匁、此抄上枚數千七百五十九枚金額八圓十五錢餘ノ增收ヲ示セリ。

今、本年度試験成績ノ前二ケ年ノ成績ニ反スル原因ニツキテ考フルニ、別項、五井浦海苔作柄概況ニ記載セルガ如ク

海況ニ著シキ變調アリ、加フルニ、例年ニツノ例ヲ見ザルガ如キ、硅藻ノ繁殖盛ニシテ、爲メニ浜ノ中央部以下ノ海苔ヲ摘採シ製造スルニ著シキ困難アルノミナラズ、三月下旬ニハ所謂「ドタ腐レ」ト稱シ、硅藻ノタメ枯死セル海苔ヲ認ムルニ至リ、例年ヨリ試験終了ノ期ヲ早カラシメタルガ如キ、竹浜ノ減收ヲ招キタル一大原因ナリト推思ス、是レ竹浜ノ枝條ハ、木浜ノ枝ノ如ク、強直ニアラズ、撓屈シ易ク爲メニ附着セル海苔ノ重量ニヨリテ、退潮ト共ニ下方ニ撓曲スルヲ以テ、硅藻ノ繁殖部分ハ一層擴大セラルルニ至リ、殆ド浜ノ下部ハ全ク採苔ヲ不可能ナラシメ、養殖當初ニ於ケル海苔着生ノ濃密ニシテ、且ツ成長良好ナルニ反シ、摘採量ヲ著シク減少セシムルニ至リシモノト認ム、浜材料費及ビ浜作リヨリ、樹テ込ミ迄ニ要シタル、諸費ヲ比較スレバ次表ノ如シ。

種	類	株	數	材料費(浜作リ立テ込ミ)	一株ノ價格	備	考
竹	浜	三〇〇	四八、六六八	一六、二二	竹浜ニハ古竹浜十二株ヲ使用セシテ以テ諸經費中ニハ之レガ見積代金(原料費作リ上テ代金)一四七十三錢一厘余ヲ計上セズ立テ込ミ代金株當リ二錢三厘七毛		
木	浜	三〇〇	四八、七二〇	一六、二四			
差			〇、〇五二				

右表ニ付キテ見ルニ、木浜ハ竹浜ト略、同價格ニシテ三百株ニ於テ五錢二厘ノ差アルノミニシテ、竹浜ハ本年度ノ如ク風害ノ尠キ場合ニ於テハ竹浜ノ枝條ハ折損セラレレコト極メテ尠ナク、次年度ニハ割内外ハ使用シ得ラレルノ利益アリトス、

五井浦海苔作概況

本場ニ於ケル濱樹ヲ込ミハ、九月卅日十月一、二、三日ノ四日間ニシテ例年ニ比シ、樹テ込ミ時期稍遅延セリ、當時ノ水温ハ二十度乃至二十度八分内外ニシテ、曇天ニ續キ降雨多カリシ爲メせいノ附着甚ダ少カリシガ「よこれ」ノ附着稍深キ觀ヲ呈セリ。海苔ノ發芽ヲ最早ク、肉眼ヲ以テ認メタルハ九月三十日樹テノ竹浜ニシテ、樹テ込後二十四日ヲ經過セル、十月二十三日ニシテ漸次樹ヲ込ミ順ニ發芽セルヲ認メ、着生ノ狀況ハ概シテ浜ノ下部ヨリ始マリ次第ニ中央部ニ及ビ、一般ニ附着良好ニシテ殊ニ竹浜ニ於テハ濃密ニシテ當時海苔豐作ナルベシト想像セラレ、一般ニ活況ヲ呈シタレドモ十二月摘採開始後、屢降雨アリ或ハ潮汐時ノ關係上、十分ノ採苔ヲ爲シ能ハザルノ有様ナリシニ、偶一月一日温暖ナル南風吹き、遂ニ暴風雨ニ變ジ爲メニ成長十分ナリシ海苔ハ風浪ノ爲メ洗ヒ去ラルルニ至リ、加フルニ偶赤潮ノ來襲アリタルガ如ク海況ニ變調ヲ來タシ、海水比重ノ上昇トナリ、或ハ氣候比較的温暖ナリシ爲メ、浜ノ下部ニ多量ニ附着セル、海苔ハ成長不良ニ陥リ、次第ニ青海苔ノ着生ヲ認メ、附着層ヲ占據スルニ至レリ、本年度ノ觀測結果或ハ小鯉、尾長鮫等ヲ漁獲シタルガ如キ、はばもどき、かやものリノ殊ノ外、多カリシ事實ヨリ考察スルモ甚シク鹹度ノ高キ海水ハ内灣ニ流注シ、加フルニ西風ニ乏シカリシ爲メ、海水ノ稀釋緩知セラルルコトナク、辛フジテ陸岸ニ近キ海區ハ雨水ニヨリテ稀釋セラレ、僅ニ陸棚ニ海苔ノ着生比較的ニ多量ナリシモ、一般ニ低比重ノ海水上層ニ瀰漫シ、海底ニ近ク比重高キ海水アリ、從ツテ別圖ノ如キ附着層ヲ現ハスニ至リ、海苔ノ附着ハ陸棚ニ於テハ殆ド浜ノ全部ニ亘リ、中棚ノ陸寄りハ浜ノ上部ヨリ一尺五、六寸、沖寄りニ於テ一尺二寸位、沖棚ハ一尺ヨリ五寸位ニ止マリ、且ツ海苔ノ着生極メテ稀薄ナリ、沖棚ハ十二月中ニハ相當ニ發芽ヲ認メタルモ成長鈍リ、次第ニ青海苔ノ着生ヲ加へ、附着層ノ大部分ヲ占セラルルニ至レリ。

陸寄棚

中面棚

沖棚



十二月下旬、既ニ硅藻ノ發生附着ヲ認メタルハ氣象、海象上其ノ發生ヲ著シク早メタルガ如ク、或ハ河水ノ浮泥ヲ運搬シ來タリ、「よこれ」ヲ深カラシメタルモ亦其ノ一因ヲナスガ如シ、二月中ニ於テハ其ノ繁殖勢ヲ加へ、「どた腐れ」ト稱シ、海苔ヲ枯死セシムルニ至リ、更ニ青海苔ハ漸時附着量ヲ増シ、川北(養老川落筋以北)及ビ種付場タル大流以南ハ殆ド青海苔ノミニシテ、大流以南ハ冬至芽ノ發芽アリタルモ成長不良ニシ、摘採期ハ二月下旬以降ナリシ爲メ、品質粗惡ニシテ其ノ實收ハ極メテ寡少ニ終レリ、三月中ニハ殆ド青海苔ノ製造ヲナスノミノ有様ニシテ、偶ニ海苔ノ摘採ヲナスモノモ中旬ニ及ビ南風ノ爲メ流失セラルルニ至リ、養殖期ハ例年ヨリ、約二汐ノ短縮ヲ見ルニ至レリ以上ノ如キ状態ニシテ一般作柄ハ五分乃至六分作ノ收穫ヲ納メ得タルニ過ギス。









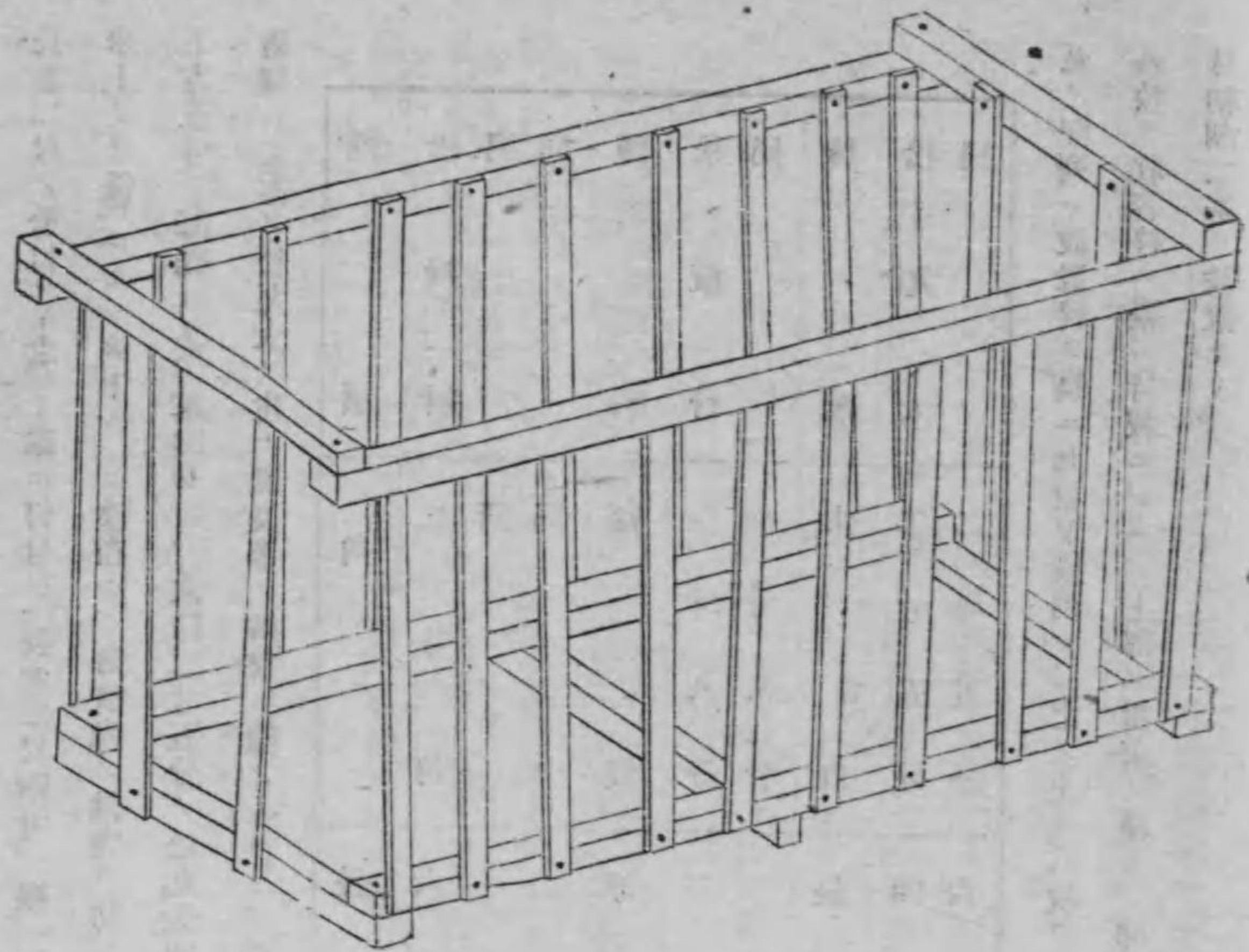




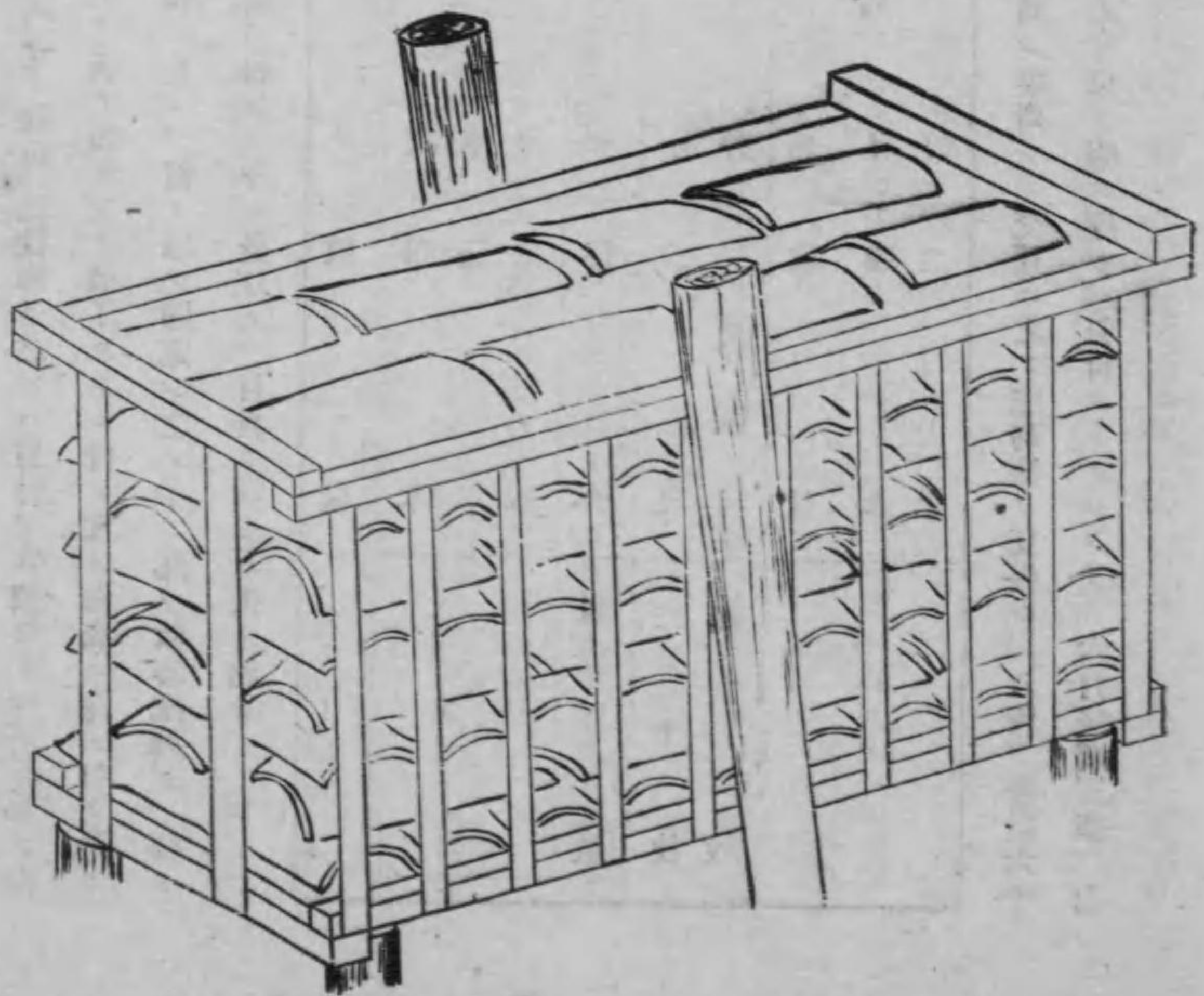
ル外、竹炭ノ價格著シク騰貴シ、經濟上殆ド使用シ能ハザルノ有様ナルヲ以テ、他ニ炭材料トシテ安價ニ使用シ得ベキモノヲ代用シ、適當ナル養蠔法ヲ講究シ、本縣ノ如キ干潟、淺海ヲ有スル地勢ニ於テ採苗、及ビ養成ニ最モ適當ナリトセラレタル竹炭ニ代フ可キ材料ヲ求メザルベカラザルニヨリ、本年度、新ニ海苔古粗朶ヲ利用シ、附着材料ニ供セリ、附着材料ノ建設ハ前年度ノ試驗成績ヲ參酌シ、六月ノ初潮ヨリ開始シ、竹炭ハ一柵ノ株數ヲ可成多カラシムル様、密植セシムル方法ヲ採リ、養蠔場ノ沖側ニ九柵ノ立テ込ミヲ行ヒ、更ニ十五株内外ノ竹炭ヲ罫狀（直徑四尺許ノ圓内ノ中心ヨリ炭ヲ立テ始メ次第ニ之レニ接シテ密植シ周圍ニ及ボシ、圈内ニ十五株内外ヲ樹テ込ミタル形）ニ樹テ、炭立法ニヨル蠔苗附着ノ優劣ニ關スル試驗資料ニ供セリ。六月後潮ニハ養蠔瓦ノ設置、及ビ房州石ノ掃除並ニ据付ケ直シヲ施行セリ。

養蠔瓦ハ蠔苗附着成長ノ後、剝離ニ際シテ、介體ノ損傷ヲナカラシメ、且ツ剝離ヲ容易ナラシムル爲メ、石灰乳劑ヲ塗抹セルハ前年ニ異ナル所ナキモ、石灰乳劑ハ細砂一斗ニ石灰一斗ヲ良ク混和シタル後海水八升ヲ除々ニ加ヘ攪拌シタルモノニ改メ、塗抹セントスル瓦ヲ先ヅ水ヲ盛リタル桶ニ浸シ、石灰乳劑ノ塗抹ヲ平滑ナラシムル爲メ充分ニ水ヲ吸收セシメタル後、石灰乳劑中ニ投ジ塗抹操作ヲ行ヒ、數日間乾燥硬化セシメタル後、豫メ海中ニ設ケタル、木枠中ニ收容配列スルノ方法ヲトレリ。

收容枠ノ構造ハ甲圖ニ示スガ如ク、松挽材ヲ以テ、作製セシムルモノニシテ、長サ六尺、幅員一尺六寸、高サ二尺ヲ有ス、其ノ組立方法ハ先ヅ長サ二尺、幅一尺八分ノ松板十枚ヲ取り、之レヲ二寸角、長サ二尺ノ松材ノ相反スル面ニ、等シキ間隔ニ、釘付ケタル二個ノ格子狀ノ兩側ヲ作りタル後、二寸角、長サ一尺六寸ノ松材三本ノ上ニ、釘付ケタル松板ヲ下方ニ於テハ外側ニ、上方ニ於テハ内側ニ在ラシムル様ニ對立セシメ、釘ヲ以テ之レヲ固定シ、更ニ二寸角、



二、牡蠣養殖試験



八三

長サ二尺ノ松材ヲ上方ノ端ニ釘付ケ、長サ二尺四寸、幅一寸八分ノ松板、二枚宛ヲ之レニ釘付ケ作製セルモノニシテ出来上リノ後「コールタール」ヲ塗布シ、舟喰蟲ノ蝕害ヲ防グ。斯ノ如クシテ製了シタル枠ハ豫メ海底ニ深く打ち込ミ上方五寸ヲ海底ヨリ、露出セル、末口二寸五分ノ松丸太四本ノ上ニ、釘ヲ以テ固定シ之ノ中ニ瓦ヲ收容配列シ、枠ノ兩側ニ二本ノ松丸太ヲ建テ風浪等ノ衝撃ニ備フルコト、乙圖ノ如シ。今一臺分ノ、材料ヲ示セバ次ノ如シ。

種	松	種	同	同	種	同	同	種	同	種	同
類	挽材	類	板材	類	類	類	類	類	類	類	類
角	二寸	幅員	一寸八分	一寸八分	末口	二寸五分	二寸五分	長	六尺	長	二尺
サ	六尺	厚	三分	三分	サ	四尺	サ	四尺	サ	四尺	サ
數	四本	長	二尺四寸	二尺四寸	數	二本	數	二本	數	二本	數
量	本	サ	四寸	四寸	量	本	量	本	量	本	量
		數	二十枚	二十枚							

瓦ノ配列ハ設置枠ノ棧ニ九枚ヲ横列シ、之ノ上ニ八枚ヲ二列ニ縦列シ、交互ニ之ノ配列法ヲ反復シ、八段、合計六十八枚ヲ收容枠一臺ニ搭載セシメ、上部ニ粗朶ヲ積ミ、抑へ木ヲ以テ強く壓シ、釘付ケトナシタリ。六月後潮三基、七月初潮二基ヲ設置セリ。

海苔古粗朶ヲ養蠟上ニ利用シタルハ、已ニ本養蠟場ヲ設ケタル時ニ始マリ、養蠟場周圍ノ圍ヒトシテ、之レヲ密植シ風浪並ニ牡蠣ノ流出ヲ防ギ、同時ニ採苗ノ目ニ供シツツアリシモ、附着セシ稚介ノ漸次成長スルニ及ビ、樹皮ハ次第ニ剝離シ爲メニ稚介ハ附着ノ儘、十分ナル成長ヲ爲スニ至ラズシテ流失セラルルニ至リ、採苗材料トシテ殆ド效果ヲナサザルノ有様ナルヲ以テ、本年度新ニ採苗ノ目ヲ以テ使用セリ、其ノ方法ハ末口二寸、長サ六尺ノ松丸太ヲ三尺ノ間隔ヲトラシメテ、之レヲ海底地盤下二尺五寸迄打ち込ミ、支柱トナシ地盤上五寸ノ位置ニ杉丸太ノ先端ノ不用材ヲ横木トシテ釘付ケトナシタル、一對ノ架ヲ、一尺五寸ノ間隔ニ對立セシメ、一基ト作シ、之レニ古浜九東ヲ積ミテ約三尺ノ高サトナシ、抑へ木ヲ以テ粗朶ヲ壓シ釘付ケタル、採苗裝置ニシテ、六月後潮一基及ビ七月初潮二基ヲ設置セリ。

本年度、蠟苗ノ附着成績ヲ見ルニ、竹浜ニアリテハ、前年度樹テ込ミ浜、及ビ本年度樹テ込ミ浜共ニ前年度ノ附着成績ニ比シ著シク良好ニシテ、殊ニ前年度立テ込ミタル古竹浜ニ至リテハ近年稀ナル稚介ノ着生ヲ認メタリ。養蠟瓦ノ附着成績ハ、前年ニ比シテ甚ダシク劣リ、一枚ノ稚介附着數量、僅ニ百五十個内外ニ過ギズ、加フルニ石灰乳劑ノ乾燥充分ナラザリシ爲メ、牡蠣ノ成長スルニ從ヒテ剝離スルモノアリ、且ツ他ノ附着材料ニ比シ成長亦良好ナラズ、前年度設置セル養蠟瓦ニ附着セル牡蠣ハ黒鯛ノ食害、他ノ附着材料ニ比シテ甚シク、れいしハ瓦ノ内側ニ潜ミテ亦稚介ヲ食食シ、或ハ産卵夥シク卵囊ヲ附着セシムル等、ソノ被害尠小ナラザルモ、三十六枚ニ附着セル牡蠣ヲ剝離シテ、四斗樽ニ一杯ノ數量ヲ得タリ。

海苔古漢ヲ利用セル附着器ハ、其ノ附着數量多ク、採苗法トシテ良好ナル結果ヲ得タルモ、爾後ノ養成法ヲ考究實施セザルニ先ダチテ、流失セシメラルルノ厄ニ遭ヒタルモ、殘存セル二三本ノ材料ヨリ考察スルトキハ、成長良好ニシ

テ、今後十分ニ研究ヲナス價値アルヲ認メ得タリ、房州石ハ牡蠣ノ着生多カリシモ稚小ナ時期ニあをべとノ附着アリ、或ハ砂泥ノ堆積スルモノアリテ著シク其ノ數量ヲ減少セリ。

### 三、かぢめ成長試験

#### 要旨

本試験ハ農商務省水産講習所ト連絡シ、前年度ニ繼續シテ、安房郡富崎村布良漁業組合ニ委託シ、同地先ニ於テ施行セルノ外、本年度新ニ安房郡七浦村千田漁業組合並ニ夷隅郡清海村鶴原漁業組合ニ本試験ヲ委託シ、各地先ニ於テ實施セリ、而シテ各試験地ニ於ケル試験成績ヲ比較考究スルト同時ニかぢめノ老幼莖ノ長短ニヨル成長度ノ相異、或ハ潮流光線等ノ成長ニ及ボス影響ヲ究明スルニカメ、夷隅郡清海村鶴原地先ニ於テハ、五月中旬潜水機ヲ以テ距岸約一哩水深十五尋ニシテ潮流常ニ急ナル明神根、鶴原灣口水深十五尋ヲ有スル南カトワラ根、及ビ同灣内水深九尋ヲ有スル前根ノ三試験地ヲ選定シ、稚小ナル所謂こばたかぢめ、體ノ長大ナルかぢめ數十本ニ標識ヲ結付シ、試験ニ着手セルモ十月下旬ノ調査時ニハ標識札ハ波浪ノ爲メ流失セラルルニ至リ、偶々標識札ノ殘存セルモノアルモかぢめノ流失セル爲メ三試験地共、成績ヲ收ムルニ至ラズシテ止ミタリ、布良地先ノ試験地ニ於テハ從來ノ試験ヲ行ヘル外、十一月初旬鯨骨ヲ以テ作レル約六寸方ノ平板ヲ海底ノ岩盤ニ打チ込ミタル釘ニ結付シ、之ニかぢめヲ着生セシメ胞子ノ發芽ヨリこばたかぢめニ至ル迄ニ要スル年月、或ハ此ノ期間ニ於ケル成長度ヲ試験セント欲シ試験地ノ海底ニ裝置セルモ、大正八年三月下旬ノ調査時之ヲ取り揚ゲタルニ脂油ヲ脱セザル生鯨骨ニテ作レル爲メ、石灰藻類ノ僅ニ附着セルヲ見タルノミニシテ所期ノ成績ヲ得ズシテ終レリ、因ツテ富崎村布良及ビ七浦村千田地先ニ於テ收メ得タルトコロノ

ミニ付キテ、次ニ論述スベシ。

### 試験經過及成績

安房郡富崎村布良ニ於ケル第一回試験。大正七年六月二十八日、試験地カロ根ニ於テ眞鍮製標識札ヲ附シタル標識かぢめヲ同年十一月二日潜水機ヲ以テ調査セルニ、標識札九枚ヲ發見シ得タルモ流失セルかぢめアリタルヲ以テ、六本ニ付キテ其ノ成長ヲ測定シ得タルニ過ギズ、今其ノ成績ヲ見ルニ經過月數七ヶ月餘ニシテ、最大成長ヲナセルモノ、莖長ニ於テ一尺九寸五分(増長率七、八〇)、莖直徑ニ於テ四分ノ成長ヲ示シ、最小ノ成長ヲナセルモノ、莖長ニ於テ一寸二分(増長率〇、一六)、増徑五厘ニ當リ、平均成長ヲ求ムル時ハ四寸六分六厘強ノ増長(増長率五、一二強)、一分七厘強ノ増徑ニ當レリ。

第一表

標識 番號	標識		試験		經過		成長		備考
	年月日	莖長	年月日	莖長	月數	長	増長率		
6	七、三、二六	一、二〇	一、一、一七	三、五〇	七月餘	一、八五	一、五四強	〇、一五	
14	同	〇、八〇	同	二、五〇	同	一、二五	一、五六強	〇、一六	
17	同	一、五〇	同	四、〇〇	同	二、五〇	一、六六強	〇、三〇	
31	同	二、五〇	同	六、〇〇	同	三、五〇	二、八〇	二、六六	
34	同	一、八〇	同	三、五〇	同	一、九〇	一、七八〇	二、六六	
39	同	一、三〇	同	〇、〇〇	同	〇、七〇	〇、九四強	三、〇〇	標識札殘存カヤメ流失

三、かぢめ成長試験

三、おぢめ成長試験

2	35	46
同	同	同
五、三、三	一、五、〇	〇、一、五
〇、〇、〇	一、〇、〇	一、〇、〇
同	同	同
二、五、〇	〇、一、五	同
同	同	同
一、一、〇	〇、〇、〇	〇、〇、〇
〇、〇、〇	〇、〇、〇	〇、〇、〇
五、三、三	〇、一、五	〇、一、五
同	同	同
五、三、三	〇、一、五	〇、一、五
同	同	同

八八

五年三月標識セルモノ  
發芽ヨリ四年ニシテ流失セル  
モノナリ

安房郡富崎村布良ニ於ケル第二回試験。大正八年三月二十八日、潜水機ヲ以テ標識おぢめノ搜索ヲ行ハシメタルモ潮色不良ニシテ濁濁シ、爲メニ海底暗ク、第二表ニ示スガ如ク僅ニ四本ヲ發見シタルニ過ギズ、第一回試験時大正七年十一月ヨリ第二回試験時同八年三月ニ至ル期間、約五ヶ月ニシテ、平均成長ハ莖長ニ於テ二寸二分六厘(増長率〇、六九強)、莖徑ニ於テ一分一厘強ニ當レリ。

第二表

標識	番號	標識		第一回試験時		第二回試験時		至自	第	同	同	同	同
		年月日	莖長	莖徑	年月日	莖長	莖徑						
6	七、三、二	同	一、〇、〇	〇、一、〇	同	三、五、〇	〇、二、五	五ヶ月	〇、五、〇	〇、一、五	〇、三、三強	〇、一、九	〇、一、一
17	同	同	一、五、〇	〇、一、五	同	四、〇、〇	〇、二、五	同	一、〇、〇	〇、〇、五	〇、一、五	〇、一、〇	〇、一、〇
34	同	同	一、八、〇	〇、一、五	同	五、〇、〇	〇、〇、五	同	一、五、〇	〇、〇、五	〇、一、五	〇、一、〇	〇、一、〇
35	同	同	一、三、〇	〇、一、〇	同	八、〇、〇	〇、〇、五	同	五、五、〇	〇、〇、五	〇、一、五	〇、一、〇	〇、一、〇

第三表ハ第二表ト同一ナルおぢめノ一ヶ年經過後ノ成長ヲ示セルモノニシテ、平均成長ニ於テ四寸〇分五厘(増長率二、七九強)、莖徑ニ於テ二分五厘ノ成長ニ當レリ

第三表

標識	番號	標識		第一回試験時		第二回試験時		至自	第	同	同	同	同
		年月日	莖長	莖徑	年月日	莖長	莖徑						
6	七、三、二	同	一、〇、〇	〇、一、〇	同	三、五、〇	〇、二、五	十一月	二、八、〇	〇、一、〇	二、三、三強	〇、一、三強	〇、一、三強
17	同	同	一、五、〇	〇、一、五	同	四、〇、〇	〇、二、五	同	三、五、〇	〇、一、五	二、三、三強	〇、一、三強	〇、一、三強
34	同	同	一、八、〇	〇、一、五	同	五、〇、〇	〇、〇、五	同	三、〇、〇	〇、一、〇	二、三、三強	〇、一、三強	〇、一、三強
35	同	同	一、三、〇	〇、一、〇	同	八、〇、〇	〇、〇、五	同	六、七、〇	〇、〇、五	五、一、五強	〇、一、五強	〇、一、五強

本年度、本試験地ノ成績ヲ見ルニ、前年度第二回試験ニ於ケルガ如ク成長ノ遅々タル結果ヲ得(前年度報告書参照)、第一回試験ニ於テハ月當リ成長六分三厘強ニ相當シ、異常成長ヲナセル標品ヲ除クトキハ月當リ成長二分三厘弱ノ成長ニ過ギズ、第二回試験ニ於テハ、月當リ成長四分五厘弱ニシテ、成長良好ナル冬季ニ於ケル成長モ亦緩慢ナルノ結果ヲ表ハセリ、更ニ第三表ニヨリテ、一ヶ年ヲ通ゼル、月當リ成長ヲ求ムルトキハ三分三厘強ニ當レリ、斯ノ如ク大正五年度及ビ前年度第一回試験成績ト甚ダシキ逕庭ヲ示セル原因ニ至リテハ全ク不明ナルモ、或ハ海況ノ變調ニ非ザルカト思考シ得ラザル點ナキニアラザルモ、猶他日ノ研究ニ待タザルベカラズ。

安房郡七浦村千田ニ於ケル試験。

大正七年十月二十八日、同地先水深七尋ノ地ヲ選ミ、潜水機ヲ以テ眞鍮製標識札ヲ附スルコト前記試験地ト異ナルトコトナシ、大正八年三月二十三日潜水夫ヲ雇備シ、標識おぢめノ搜索ヲ行ヒ十二本ニ就キテ成長ノ測定ヲナシ得タリ、其ノ成績ハ第四表ニ示スガ如ク經過日數五ヶ月ニシテ、最大成長ヲナセルモノニアリテハ一尺一寸七分(増長率六、五〇)ノ莖ノ増長ヲ示シ、最小成長ヲナセルモノニ於テハ一寸七分(増長率〇、七四)ノ莖ノ増長ヲ示セルニ過ギズ、斯ノ如ク成長遲速ノ相異極メテ多ク其ノ成長ヲ考察スルニ難ケレドモ、今之等ノ平均成長ヲ求ムレバ五寸八分(増長率

三、おぢめ成長試験

二、四〇弱ニ當リ、一ヶ月當リ成長一寸一分六厘ニシテ、布良試験地ニ於ケル本年度ノ成長ヨリモ良好ナル成績ヲ得  
同地前二ヶ年ニ於テ求メ得タル成長度ニ稍近似セリ。

第四表

標識 番號	標識		試驗		成長		增長率	一ヶ月當リ 成長
	年月日	壺長	年月日	壺長	壺長	壺徑		
八一〇	七、一〇、二六	二、〇	八、三、三	二、〇	一〇、〇	五、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
八六一	同	五、五	同	一一、五	六、〇	一、〇九強	一、一〇	一、一〇
廿九	同	二、三	同	四、五	〇、三〇	〇、七四弱	〇、三四	〇、三四
廿六	同	三、〇	同	六、五	〇、三〇	一、一七弱	〇、七〇	〇、七〇
卅卅	同	一、五	同	四、二	二、七	一、八〇	〇、五〇	〇、五〇
卅卅	同	三、五	同	六、一	二、六	〇、七四強	〇、五二	〇、五二
卅卅	同	一、〇	同	八、一	七、〇	七、〇〇	一、四〇	一、四〇
卅卅	同	二、〇	同	一、三、〇	一、〇	五、五〇	二、一〇	二、一〇
六八	同	二、五	同	七、七	五、二	二、〇八	一、〇四	一、〇四
六八	同	一、八	同	三、五	二、七	六、五〇	二、三四	二、三四
卅卅	同	二、〇	同	四、七	二、七	一、三五	〇、五〇	〇、五〇
卅卅	同	二、〇	同	七、五	五、五	二、七五	一、一〇	一、一〇
平均	同	二、四三	同	八、二三	五、八〇	二、四〇弱	一、一六	一、一六

三、おちめ成長試験

九〇

#### 四、鮑蕃殖委託試験

##### 要旨

本試験ノ趣旨ニ付テハ、巳ニ大正五年度報告書ニ詳述シタルガ如ク、採鮑業ノ進歩發達ニ伴ヒ、益々之レガ蕃殖ヲ謀リ、一般當業者ニ保護ノ觀念ヲ與ヘ、永遠ノ漁利ヲ收メサルベカラザルヲ以テ、安房郡富崎村布良漁業組合ニ委託シ、大正三年ヨリ繼續試験ヲ施行シ來タリタルモ、標識放養後ノ採捕個數ハ僅小ニシテ、之等ヨリ一般ノ成長度ヲ推知スルハ正鵠ヲ失スルノ嫌ナキニアラザルノミナラズ、各地ニ於ケル成長ノ差異ノ有無其ノ他繁殖狀況等ヲ知ラント欲シ、本年度ニ於テハ、更ニ安房郡七浦村千田漁業組合及ビ夷隅郡清海村鶴原漁組合ニ委託シ、試験ヲ施行セリ。

##### 試験經過及ビ成績

試験方法ハ前年度ニ同ジク、「アスハルト」標識法ニヨリ、稚鮑ノ介殼上第一呼吸孔附近ノ端ニ近ク、硝子片ニ文字ヲ貼付シタル標識ヲ各個ニ施シ、重量寸法ヲ衡リ各試験地ニ放養セリ。

試験地、安房郡富崎村布良ニ於テハ大正七年一月十八日、同郡白濱村産稚鮑、殼長一寸八分乃至三寸五分五厘、幅一寸二分五厘乃至二寸七分、重量六匁乃至四十五匁ノモノ百七十三個ニ標識ヲ附シ、前年度來放養シツツアル岩礁「ハラキリ根」ニ放養シ、越エテ大正七年九月五日白濱村産稚鮑、殼長一寸七分五厘乃至三寸九分、殼幅一寸二分五厘乃至二寸九分五厘、重量六匁乃至四十九匁ノ鮑百七十九個ニ同様標識ヲ施シ、前年放養セル岩礁「トゲタシ根」ニ放養セリ。

四、鮑蕃殖委託試験

試驗地。安房郡七浦村千田ニ於テハ大正七年八月六日、試驗地附近ニテ採捕セル稚鮑、殻長二寸三分乃至三寸九分五厘、殻幅一寸五分五厘乃至二寸七分、重量十一匁乃至四十四匁ノモノ八十四個、大正七年九月二日、同地産稚鮑、殻長二寸四分乃至三寸七分、殻幅一寸六分五厘乃至二寸八分、重量十二匁乃至四十四匁ノモノ百二十二個、合計二百六十六個ニ標識ヲ施シ、陸岸ニ接セル通稱「ギウタノ堀」ニ養女ヲシテ、之レヲ放養セシメタリ、放養場所「ギウタノ堀」ハ滿潮時水深平均三尋ヲ有シ、周圍ハ岩礁ヲ以テ障壁ヲ築キタルガ如ク、海底ノ模様恰モ堀ヲナシ標識鮑ノ移動ヲ防ギ、搜索採捕ニ至便ナル地ニシテ同組合ノ禁漁區域ナリ。

試驗地、夷隅郡清海村鶴原ニ於テハ鶴原灣内ニ水深七尋ヲ有スル中根、水深七尋ヲ有シ灣口ニ近キ前根及ビ水深五尋ヲ有スル籠場根ト稱スル築礎ノ三放養場所ヲ選ミ、大正七年五月十三日、中根附近ニ於テ採捕シタル殻長一寸六分乃至四寸五分、殻幅一寸二分乃至三寸六分、重量四匁乃至百一匁ノ鮑二百八十二個ニ標識ヲ附シ、前記三ヶ所ニ分チ之レヲ放養セリ。降ツテ十月一日殻長二寸六分五厘乃至四寸八分、殻幅二寸乃至三寸九分、重量十八匁乃至百一匁ニ達シ從來放養セル稚鮑ニ比シテ稍大形ナル鮑四十八個ニ標識ヲナシ之レヲ中根ニ放養シ、同月二十六日殻長三寸二分五厘乃至四寸六分五厘、殻幅一寸六分五厘乃至三寸六分五厘、重量十三匁乃至九十三匁ノ鮑百十八個ヲ同ジク中根ニ標識放養セリ、今各試驗地ニ於テ採捕シタル鮑ノ成長ヲ表記スレバ左ノ如シ。

第一表

標識	放養場所	放		採		成		別			
		年月日	重量	年月日	重量	日數	重量				
撤	布良ハラキリ根	六、一〇、一〇	二〇、二〇	八、一七、二二	四八、三七、七五	三三	二八、一四	一、一五	〇、四四	〇、八五	くろがひ

播	便	偶	健	併	值	偏	僕	促	稀	儀	係
同	千田ギウタノ堀	天、セ、七	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、三、〇〇	三、二、〇〇	三、一、〇〇	三、〇、〇〇	二、九、〇〇	二、八、〇〇	二、七、〇〇	二、六、〇〇	二、五、〇〇	二、四、〇〇	二、三、〇〇	二、二、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四、四、〇五	三、三、〇〇	三、二、〇〇	三、一、〇〇	三、〇、〇〇	二、九、〇〇	二、八、〇〇	二、七、〇〇	二、六、〇〇	二、五、〇〇	二、四、〇〇	二、三、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、一、〇〇	二、一、〇〇	一、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、一、〇〇	二、一、〇〇	一、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、一、〇〇	二、一、〇〇	一、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、一、〇〇	二、一、〇〇	一、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇	〇、一、〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第一表中、富崎村布良ニ於テ採捕セルモノヲ見ルニ經過約一ヶ年ニシテ重量三十匁、殻長一寸、殻幅九分ノ成長ヲ示シ前年ノ成績ニ近似セリ、而シテ本標品ノまたがひノ増重量三十二匁ナルニくろがひノ増重量二十八匁ニシテ増重量ノ小ナルハ放養場所ノ水深稍深キニ失シ（放養場所ハラキリ根ニ於テハくろがひ稀ニ採捕セラルルノミナルコト、或ハ千田ノ試験鮑ニ比シテ成長率ノ小ナル事實ヨリ考察シテ）自然ニ分布棲息セル生活場所ト相違アルガ爲メナル可ク、またがひノ殻幅ノ増加大ニシテくろがひノ殻長ノ増加大ナルガ如キハ形態ノ相違ヲ示スモノナリ。七浦村千田ニ於テ採捕セラレタル最大成長（經過一ヶ年）ヲナセルモノハ重量ニ於テ六十匁ノ増重ヲ示シ、放養當時ノ重量ノ二、二倍餘ノ成長ニ當リ、殻長ニ於テハ一寸四分ノ増長ヲ示シ、放養當時ノ殻長ノ〇、五倍ニ相當セリ。今、平



均一ケ年ノ成長ヲ求ムルトキハ重量四十一匁八分穀長九分七厘穀幅七分四厘ノ成長ナリ。

第二表

標識	放養場所	放		採		成		種別		
		年月日	重量	年月日	重量	年月日	重量			
淨	千田ギウタノ堀	七、八、六	三、三、五	二、七、十、二	三、三、八	二、八、八	八、五	〇、一、五	〇、一、〇	くろがひ
溲	同	同	三、三、〇	二、二、五	三、三、〇	二、二、五	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同
濱	同	同	三、七	二、二、五	三、三、〇	二、二、五	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同
淇	同	七、九、二	三、三、五	二、二、四	三、三、五	二、二、五	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同
沓	同	同	三、三、〇	二、二、五	三、三、〇	二、二、五	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同
沙	同	同	三、三、〇	二、二、四	三、三、〇	二、二、四	同	〇、〇、五	〇、〇、五	くろがひ
洲	同	同	三、三、〇	二、二、四	三、三、〇	二、二、四	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同
狀	同	同	三、三、〇	二、二、四	三、三、〇	二、二、四	同	〇、〇、五	〇、〇、五	同

第二表ハ標識放養後ノ經過日數少ナキヲ以テ成長ノ著シキモノアルヲ認メズ、最モ佳良ナル成長ヲナセルモノ約二ケ月ニシテ、穀長二分、重量四匁ノ増加ニ過ギサルノミナラズ、重量ニ於テハ却ツテ減少ヲ來タセルモノアルハ、偶々生殖素成熟期ニ當レル爲メ、斯ノ如キ結果ヲ示セルモノナルベシ、試験地夷隅郡清海村鶴原ニ於テハ十日中、二回採獲ヲ以テ搜索セルモ、三試験地共遂ニ一個ノ標識鮑ヲモ採捕スルニ至ラズシテ已ミタリ。

### 五、烏介(淡介)移殖試験

#### 趣旨

本縣ハ大小廣狭ノ湖沼、各地ニ散在シ、就中印旛沼、手賀沼、與田浦、長沼ハ其ノ最タルモノニシテ漁利尠カラズ、何レノ水面モ相當ノ生産ヲナシツツアルモ、未ダ充分ナル利用開發ヲ見ルニ至ラズ、殊ニ印旛沼ニ至リテハ面積四千町歩、周圍十八里餘、沿岸漁村十三ヶ町村ヲ數ヘ、之レガ開發ノ如何ハ沿岸住民ニ至大ノ關係ヲ有スルモノタルヲ以テ、本年度ニ於テ印旛沼開發ノ第一着手トシテ、烏介ノ移殖試験ヲ施行セリ。

從來烏介ハ僅ニ一部住民ノ食料ニ供セラルルノミニシテ介殼ニ至リテハ全ク無用ノ長物トシテ顧ミラザリシガ、大戰亂ノ勃發以來諸物價ノ騰貴ニ從ヒ介殼ノ價格モ亦騰貴シ、鈷工業ノ隆盛ヲ來タシ製造能力ハ遽ニ増進シ、爲メニ原料介殼ノ不足ヲ告グ、凡ソ利用厚生ノ途アルモノハ一物モ剩サザルノ狀況ニシテ、遂ニ烏介ヲ介鈷原料トナスニ至リ、其利用セラルヤ、各湖沼ヨリ盛ニ採收セラレ或ハ各湖畔ニ堆キ介殼ハ影ヲ潜ムルノ狀況ニ及ベリ、然レドモ印旛沼産烏介ハ介殼脆弱ニシテ、ソノ質粗惡、到底良品ヲ製造シ得ラザルノミナラズ、縣下唯一ノ水産工藝品タル、烏介利用工藝品ハ主トシテソノ原料ヲ茨城縣ニ仰クガ如キ有様ナルヲ以テ、印旛沼ニ該地方ヨリ優良種ノ移殖ヲ行ヒ品種ノ改良ヲ企テ益々其ノ利用ヲ計ラント欲シ、印旛利根水産組合ニ委託、本試験ヲ施行モリ。

#### 印旛沼産からすがい

本部ニ産スルからすがいハ屬中ニハ琵琶湖ニ産スルめんからすがい(Cristaria helouiae)ト霞ヶ浦、北浦ニ産スルからすがい(Cristaria phicata)ノ二種類アリ、印旛沼産からすがいハ後者ニ近似セルモ、ソノ形状ハ甚ダシク相違シ、一見識別

シ得ラルルノ點アリ、貝類分類學上ノ位置ノ異同ニ付テハ、遽カニ決定スルハ甚ダ難キ所ナリト雖モ或ハ異種類ニ非ザルカ、若シ異種類ニアラズトスルモ形狀其ノ他ノ相違ヨリスルトキハ尠クモ北浦産(C. plicata)トハ變種ニアルベシ今介殼ノ外見上其ノ他ノ差異ヲ示セバ次ノ如シ。

印 旆 沼 産

- 一、殼頂ハ稍後方ニ偏在ス、
- 二、殼頂ノ前後ニ存スル翼狀突起ハ小形ニシテ、後方ノ突起ハ特ニ小ナリ、
- 三、介殼ハ稍扁平ナリ、
- 四、殼頂後方ニ偏在スル爲メ介殼ハ殼頂ノ前方ニ長ク後方ニ短シ、
- 五、殼高比較的小ナリ、
- 六、側齒ハ比較的小ナリ、
- 七、外套膜ハ淡黄褐色ヲ帯ビ殼頂付近ニハ無數ノ白色ノ斑點ヲ認ム、

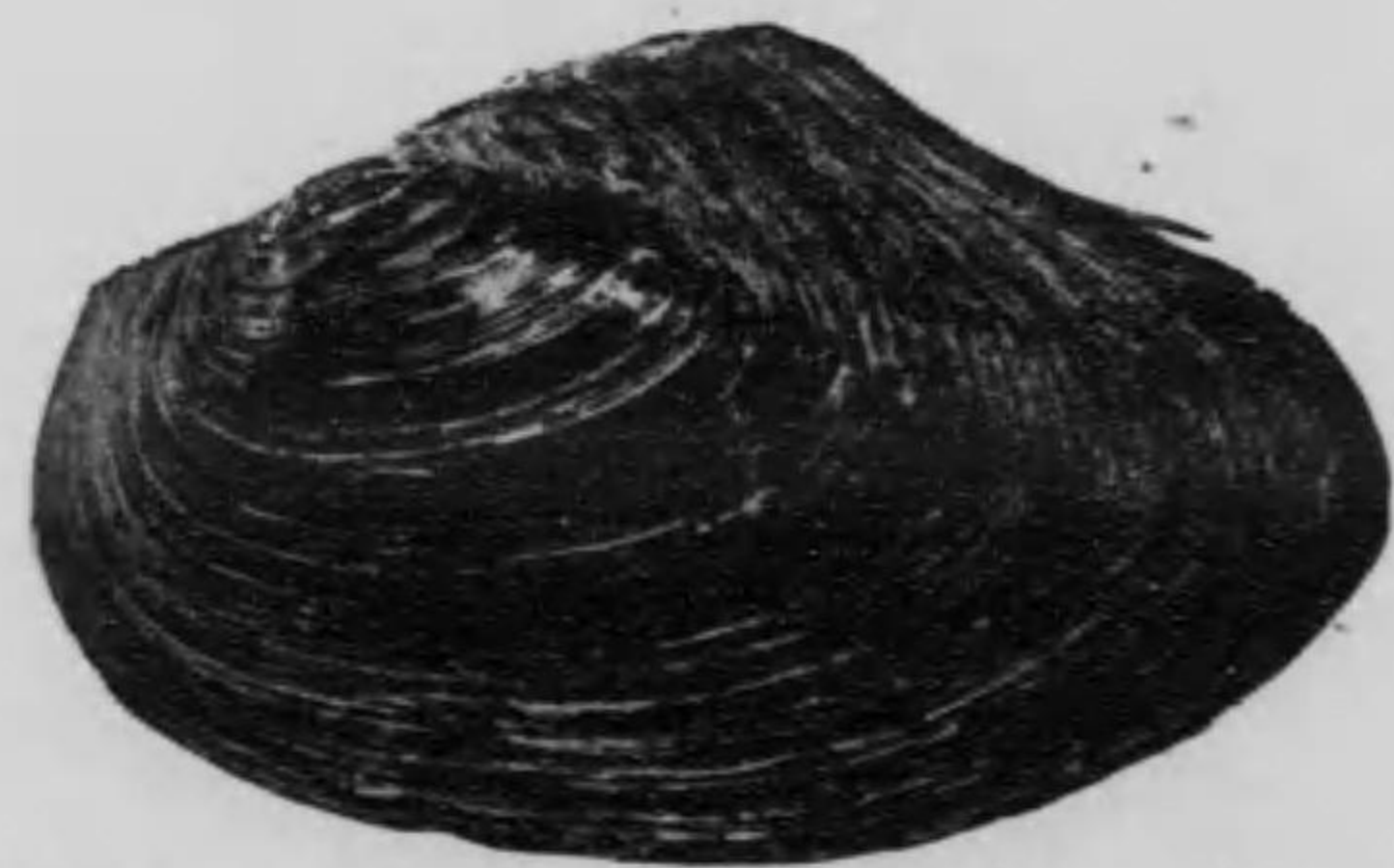
北 浦 産

- 一、殼頂ハ印旆沼産ヨリ稍前方ニ位ス、
- 二、翼狀突起ハ稍大ニシテ殊ニ老大セルモノニアリテモ後方ノ突起ヲ明カニ認ムルコトヲ得、
- 三、介殼ハ稍深ク從ツテ殼幅大ナリ、
- 四、殼頂ヨリ前方ハ印旆沼産ヨリ長カラズ、殼縁前方ノ曲線ハ灣曲大ナル爲メノ前端ハ稍上方ニ向フ、
- 五、殼高比較的大ナリ、
- 六、側齒ハ隆起大ニシテ印旆沼産ヨリ長大ナリ、
- 七、外套膜ハ無色半透明ナリ、

尙ホ介殼利用上ヨリ區別シ得ベク、主トシテ生棲場所水深、底質其他ノ條件ニヨリテ生ズル所ナルベキモ、介殼ハ脆ク介殼製造ニ當リ、北浦産ニ比シテ著シク困難ヲ感ズルガ如キ或ハ介殼ノ表皮、稜柱層ノ浸蝕セララルル部分大ニシテ甚ダシク外見ヲ損スルノミナラズ、眞珠層ニ汚點ヲ生ジ、他ノ工藝品原料ニ利用シ得サルガ如キ之レナリ。



印旆沼原産かすらがひ (殼の外側面)



北浦産かすらがひ (移植モルノ) (殼の外側面)



ひがすらか産原沼旛印  
(面内の殻)



ひがすらか産浦北  
(面内の殻)



茲ニ於テ優色種ナリト認ムル北浦産からすがひヲ印旆沼ニ移殖ノ計畫ヲ爲セリ、而シテ本試験ニ於ケル移殖ノ目的ハ品種ノ改良ヲ企ツルニアルヲ以テ、印旆沼原産からすがひト北浦産からすがひトハ全ク種類ヲ異ニスルカ、又ハ變種ナリトスルモノノ形質ハ固定シ生棲場ノ如何ニヨリテ形態ヲ變化セザルヲ必要トスルハ論ヲ俟タザル所ナルヲ以テ、ソノ形質ハ固定セルモノナリト推定シ、移殖ヲ行フト同時ニ蕃殖保護ノ資料ヲ得ルニカメ、或ハ成長度ヲ闡明セント欲セリ。

### 移殖方法

本試験ハ大正六年度、印旆利根水産組合ノ申請ニヨリ印旆原産介ノ調査ト同時ニ茨城縣北浦中、最モ良質ノ介ヲ産スル地方トセラレタル行方郡津澄村地方ヨリ、大正六年十一月廿二日、一俵百個入十八俵合計千八百個ヲ購入シ、降テ大正八年三月廿八日ニハ稍小形ナルモノ一俵平均三百個入十四俵合計四千個餘ヲ購入シ、何レモ一部ニ標識ヲ施シ放養セリ。

#### 一、輸送方法

輸送ニハ何レモ米俵ヲ使用シ殼長四寸以上七寸内外ノモノニアリテハ一俵ニ平均百個(大正六年度)殼長三寸以上五寸内外ノモノニアリテハ平均六百個(大正七年度)ヲ詰メ、一俵ノ重量八貫乃至十貫トナシ、藁繩ニテ俵裝上三ヶ所ヲ堅ク結び、利根川ノ汽船ニヨリテ輸送セリ、運搬ニ耐ヘ得ベキ日數ハ長ク、輸送極メテ容易ナレドモ、長距離ノ運搬ニハ介殼ノ開口シ得ザル様、一俵ノ個數ヲ多カラシメ、堅ク結繩スルガ如キ荷造方法ヲトラザルベカラズ、輸送中ノ歩減リ即チ積ミ込ミ、積ミ卸シニ際シテ介殼ノ破損セル割合ハ取扱ヒノ注意如何ニヨリテ異ナレドモ、小形ナルモノハ

介殼薄キ爲メ一割乃至一割四分ニ當リ、大形ナルモノハ五分乃至一割ニ當レリ。

一、試験地

大正六年度ノ試験地ハ公津村北須賀地先ノ湖幅ノ最モ大ナル中央部、水深五尺、底質ハ軟泥ニシテ暗綠色ヲ帯ビ、泥土ノ深サ約五尺ヲ有スル地ヲ選定シ、坪當リ平均五個ノ割合ヲ以テ放養セリ、大正七年度ハ湖ノ中央ニ位スル内郷村萩山地先、水深二尺五寸、水草ノ繁茂スル泥土ノ地ヲ選ミ、坪當リ一個平均ニ放養セリ。

一、標識方法

大正六年度ニ於テハ、白ペンキヲ以テ右殻上ニ算用數字ヲ認メ、乾燥セシメタルモノ及ビ封蠟ヲ融解シ右殻ニ附着セシメ手早ク刻印ヲ押シ當テ數字ヲ表ハシタルモノ、合計四百個ヲ夫々重量、殻長、殻高ヲ測定ノ上、試験地ニ放養セリ。大正七年度ニ於テハ白ペンキヲ以テ百八十個ノ右殻上ニ算用數字ヲ表ハシ前年度同様、重量、寸法ヲ衡リ之レヲ試験地ニ放養セリ。

試験成績

大正八年三月下旬公津村北須賀地先試験地ニ大正六年十一月下旬放養セルモノヲ調査セルニ標識放養セシ介ノ大形ニシテ稍老成セル爲メカ、ソノ成長甚ダシク遅鈍ニシテ、經過月數十六ヶ月ニシテ最大成長ヲナセルモノ殻長ニ於テ四分、殻高ニ於テ一分五厘ニシテ、平均成長ニ於テ二分六厘弱殻高ニ於テ三厘弱ノ成長ニ當リ一般ニ成長良好ナラズ、介殼ハ底質ノ爲メ黒味ヲ増加セリ、而シテ移殖後生活ノ適否等ハ未ダ判明セザルモ、必ズシモ不可ニハアラザルベク、移殖介四十九個ヲ採捕シ、内六個ノ斃死セルヲ認メタリ、之レヨリ計算スルトキハ歩減リ一割二分強ニ當リ斃死率稍

大ニ失スルガ如キモ、試験地ニ原産スル介類ヲ除去スルコトナク、坪當リ五個ヲ放養セシガ如キ、ソノ數量多キハ之レガ一因ヲナスモノナルベシ。

六、雜試驗

蝶螺ノ産卵時期調査

蝶螺ハ鮑、龍蝦ニ次グ重要ナル磯付生物ナルモ、本縣ニ於テハ未ダ蕃殖保護ニ關スル施設アルヲ聞カザルノミナラズ、貝卸工業ノ勃興隆盛ニ赴クヤ、介殼價格ノ暴騰トナリ、各地盛ニ之レガ採捕ニ從ヒ濫獲シテ顧ミズ、爲メニ産額ノ頓ニ減少セルノ地勢カラズ、偶、蕃殖保護ノ方法ニ意ヲ用ヒントスルモノアルモ、ソノ倚ル所ヲ知ラザルノ有様ナルヲ以テ、蕃殖保護ノ一資料トシテ、大正六年ヨリ大正七年ニ亘リ、蝶螺ノ生殖腺ノ成熟時期(産卵期)ニ付キテ調査ヲ行ヘリ。

次表ニ付キテ其ノ成績ヲ見ルニ、老幼ニヨリテ生殖腺ノ發達時期ニ遲速アリ、體ノ老成セルモノハ體ノ幼小ナルモノヨリモ成熟期早シト雖モ、一般ニ論ズルトキハ五月ニ至リテ漸次生殖腺ノ發達ヲ始メ、九月ヲ以テソノ終期トナスガ如ク、五月中ノ平均生殖素重量ハ一匁五分弱、肉量ノ六分一厘、六月中ノ平均生殖素重量ハ一匁一分、肉量ノ八分一厘弱、七月中ノ平均生殖素重量ハ七匁六分、肉量ノ一割七分三厘、九月中ノ生殖素重量ハ三匁三分、肉量ノ九分一厘弱ニ當レリ。

以上ノ成績ヨリスルトキハ産卵ノ盛期ハ七、八、九月ノ三ヶ月ニシテ、各地ニヨリ、或ハ各年ノ氣象、海象等ニヨリテ多少ノ差異ハ是レアルベキモ、最盛期ハ八月ナルベシ。

今、繁殖保護方法ノ一手段トシテ禁漁期ヲ決定センニハ七、八、九月ヲ以テ最適トスベク、從來ノ採捕時期其ノ他ノ關係上違ニ斷行シ難キ場合ハ七、八月ノ二ヶ月、又ハ八月ノ一ヶ月ヲ以テスルモノノ効果蓋シ尠シニアラザルベシ。

安房郡白濱村産大正六年九月二十日調査

殻長	殻幅	總重量	重量ノ重	肉量	全重量ニ對スル肉量	性	生殖量	肉量ニ對スル生殖量	備考
三、四〇	三、七〇	一八、〇〇	九、〇〇	七、三〇	三、八	雄	三、九	五、三	生殖腺乳白色ニシテ成熟ス。
三、七〇	三、四〇	二二、〇〇	八、四〇	三、三〇	二、五	雄	三、三	一〇、一	同前
三、三〇	三、〇〇	八、三〇	五、〇〇	二、〇〇	二、四	雌	一、九	九、五	生殖腺綠色チナスモ卵ハ球狀チナスモノ少シ
三、六〇	三、九〇	一七、〇〇	一、六〇	四、〇〇	三、三	雌	九、一	三、七	卵ハ濃綠色チナシ粒々個々チナシ成熟ス
三、二〇	二、九〇	六、三〇	三、七〇	三、〇〇	三、一	雌	一、一	五、〇	卵ハ綠色ナレドモ球狀チナスモノ少シ
三、四〇	二、八〇	八、〇〇	四、〇〇	二、四〇	三、〇	雄	〇、六	二、四	生殖腺ハ薄層ノ綠色チナス
三、〇〇	二、六〇	五、〇〇	三、〇〇	二、二〇	三、〇	雌	二、〇	一、〇	生殖腺ハ乳白色ニシテ成熟ス
三、一〇	二、九〇	七、七〇	四、〇〇	二、〇〇	二、八	雄	〇、二	〇、九	生殖腺ハ肝臟チ全部蔽ハズ
二、八〇	二、六〇	五、二〇	二、九〇	一、三〇	二、五	雄	微量	〇、九	僅ニ薄層ノ生殖腺チ認ムルノミ
三、〇〇	二、七〇	六、七〇	四、七〇	二、〇〇	三、〇	雌	〇、三	一、四	生殖腺ハ肝臟ノ全部チ蔽ハズ
二、七〇	二、六〇	五、八〇	三、四〇	一、四〇	二、二	雌	二、〇	一、四	色彩橙赤チナシ、鏡下ニテハ長楕圓形ニ集合ナリ
二、二七	二、〇〇	二、五〇	一、四〇	六、九	二、七	雌	微量	一、四	生殖腺チ認ムルノミ

安房郡太海村産大正六年十月二十三日調査

二、五五	二、三〇	三、〇〇	一、五、九	三、三	四〇、三	雄	微量		生殖腺ノ一部ハ淡黄色チナシ放卵後チ一部チ蔽フ
二、二五	二、一〇	二、九、六	一、四、四	一〇、一	三七、五	雌	微量		生殖腺ノ一部チ蔽フ
二、一〇	一、九五	二、五、六	一、五、七	六、八	二、六	雌	微量		生殖腺ノ存在チ僅ニ認メ雌雄全ク不明ナリ
二、〇〇	一、九〇	一、九、八	八、九	六、九	三、四、八	雌	微量		網狀ノ生殖腺ハ綠色チナシ肝臟ノ一部チ包ムルノミナリ
二、〇〇	一、九〇	二、二、三	一〇、六	六、三	二、九、五	雌	微量		同前

夷隅郡保田産大正六年十一月廿八日調査

四、〇〇	三、五〇	一七、五、五	一、五、〇	四、〇	三三、九	雄	〇、八	一、九	生殖腺ノ存在チ僅ニ認ムルノミナリ
三、八〇	三、二〇	一八、〇	七、〇	三、〇	二五、〇	雌	〇、四	一、二	灰黄色ニシテ肝臟ノ一部チ包ムルノミナリ
三、六〇	二、九五	二、八、五	七、〇	二、八	三、六	雌	〇、三	一、〇	灰黄色ニシテ精綠色チ帯ビ、肝臟ノ一部チ包ム
三、三〇	二、八〇	七、五、〇	四、〇	二、〇	二、六	雌	微量	一、〇	前者ヨリ綠色チ加ヘ、極メテ薄層ナリ
三、〇〇	二、五〇	三、〇	一、九、〇	九、〇	二、八、一	雌	微量	一、〇	生殖腺極メテ薄シ
二、二〇	一、八〇	一、九、五	一、一、〇	六、〇	三〇、七	雌	微量	一、〇	極メテ薄キ網狀生殖腺チ認ムルノミ雌雄不明ナリ

夷隅郡勝浦産大正七年二月四日調査

三、七〇	三、四〇	一五、〇	六、二、〇	三、〇	二九、五	雄	〇、六	一、九	薄層ノ生殖腺チ認ムルノミ
三、七〇	三、一〇	一〇、〇	六、八、〇	三、〇	二八、一	雄	〇、五	一、六	薄層ノ生殖腺ハ邊緣ニ點々白色ノ部チ認ム
三、五〇	三、〇〇	九、〇	六、二、〇	七、〇	二五、八	雌	〇、一	〇、四	生殖腺ハ美麗ナル色チ呈ス
二、七〇	二、六〇	六、〇	三、〇	一、九、五	三〇、九	雌	〇、三	一、五	同前、前者ヨリ稍厚シ
三、〇〇	二、六〇	五、〇	三、〇	一、七、〇	三〇、九	雌	微量	一、五	生殖腺ハ薄層ニシテ綠色ニ黄灰色チ帯ビナリ



# 調査部

## 一、海洋調査

海洋調査ハ主トシテ、洲ノ崎、八丈島間ノ横斷観測ヲ實施シ來リシモ、本年度水産講習所ニ海洋調査部ノ新設セラレルニ至リ、各府縣之レト連絡シテ調査方法ノ畫一ヲ圖リ、調査海區ノ協定ヲナシ、其ノ成績ヲシテ一層有効ナラシメント欲シ、大正七年六月ヨリ協定ノ結果ニ基キ調査海區ヲ變更スルニ決シタリ、加フルニ從來調査ヲ施行セシ海區ハ伊豆七島ノ點々トシテ存在シ、一ノ海脊ヲ形成シ潮流ハ極メテ複雑トナリ、寒暖兩潮ノ消長、陸地ニ對スル流角或ハ陸地ヲ距ル遠近、位置等ヲ知ルニ難ク、從ツテ回游魚族ノ漁場ヲ求メントスルニ困難ナルモノアルヲ以テ觀測位置、方向ヲ變更シ、野島崎正東百哩ノ海區ヲ別記項目ニ付キ精査シ、重要魚族ノ豊凶ヲ豫察スルノ資ニ供セント欲シ、十一月ヲ除ク外、毎月一回本調査ヲ施行セリ。

### 大正七年四月十三日自洲崎至八丈島海洋横斷観測表

時刻	位置	天候	向風	力風	氣温	透明度	潮色	潮流	海面	十尋	二十五尋	五十尋	百尋	備考
AM 9-10	洲崎	C	N	2	二三・七	—	不良	急	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	
AM 6-00	七丈島	CR	N	3	二二・八	—	不良	急	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	海上寂寞漁群ヲ認メズ
AM 2-00	八丈島	R	NNE	3	二三・三	—	不良	急	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	1,018.0	小島ノ飛鶴多ク見ルモ魚群ヲ認メズ

調査部

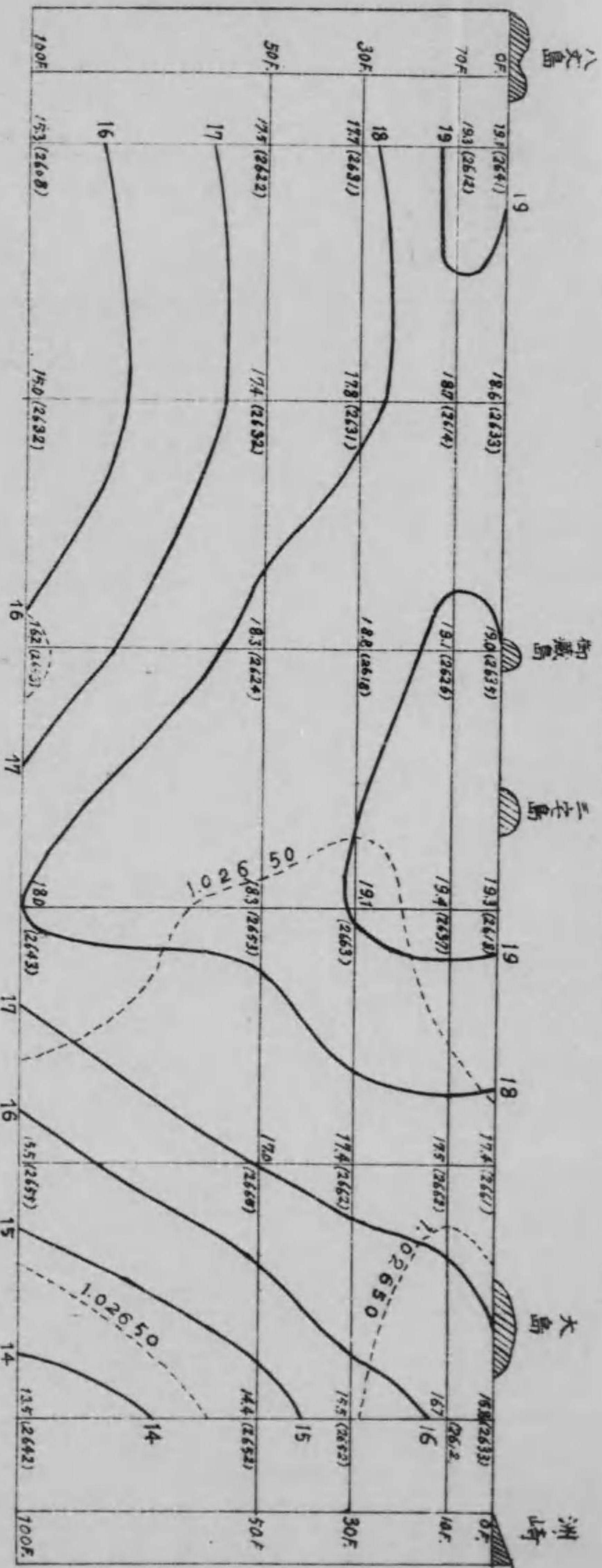




時刻	AM 2-00
位置	大島崎ヨリ八丈島三向
候天	B
向風	NNE
力風	1
温氣	シロ
度透明	—
色潮	—
潮流	SE
海面	比水面
十尋	1'0.15
三十尋	1'0.15
五十尋	1'0.15
一百尋	1'0.15
備考	

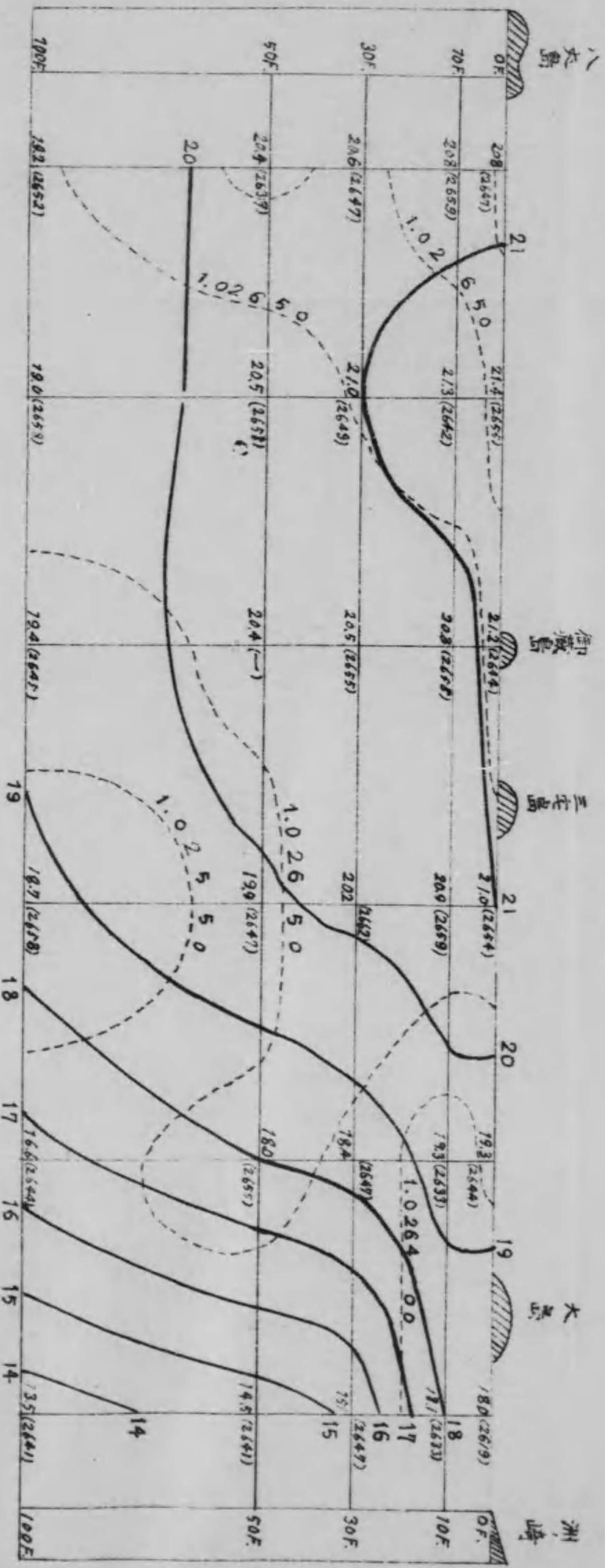
圖測觀断横洋海島丈八至崎洲自

查詢日三十月四年七正大



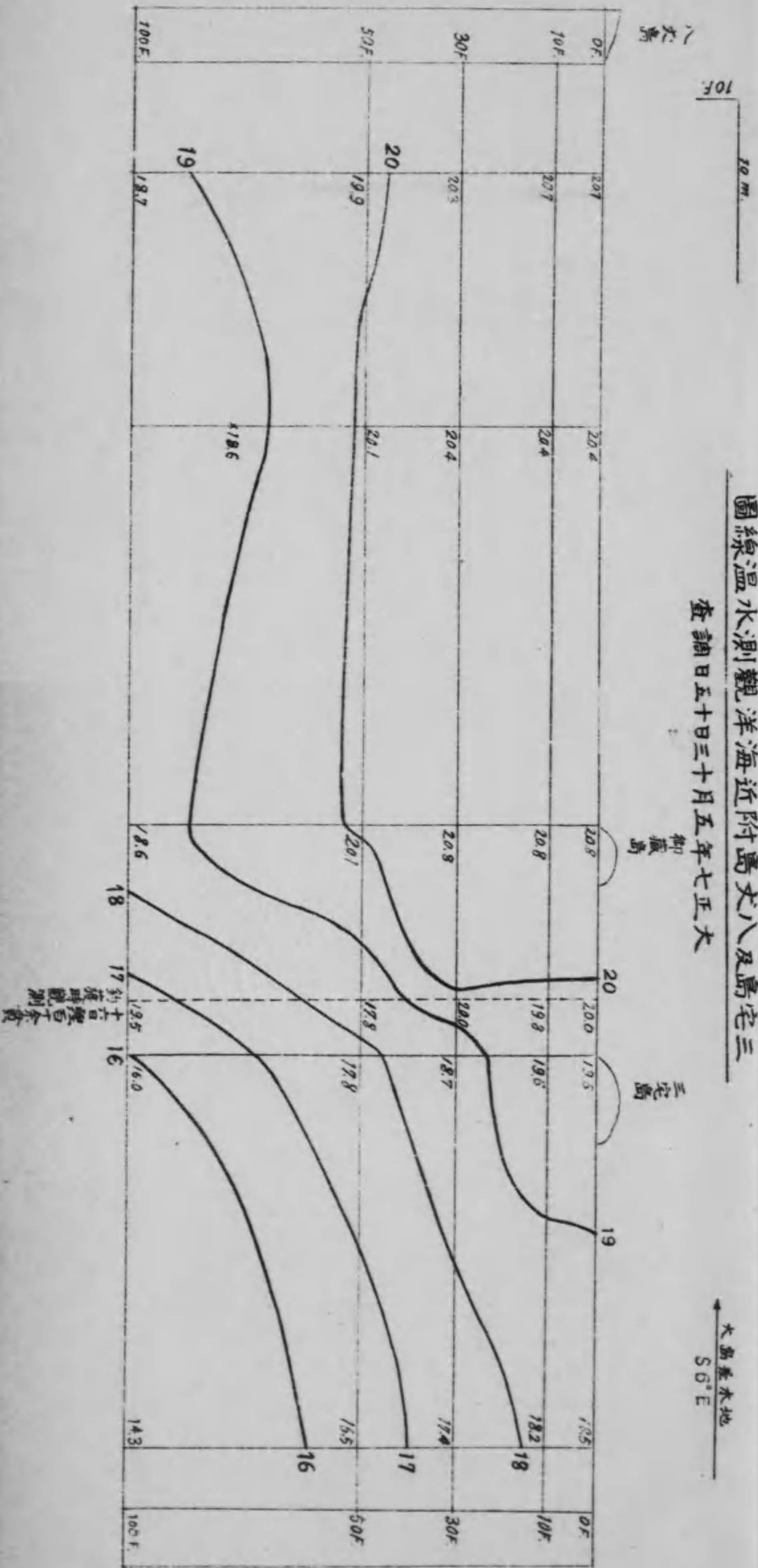
圖測觀断横洋海島丈八至崎洲自

查詢日三十月五年七正大



圖線温水測觀洋海近附島丈八及島宅三

查詢日三十月五年七正大

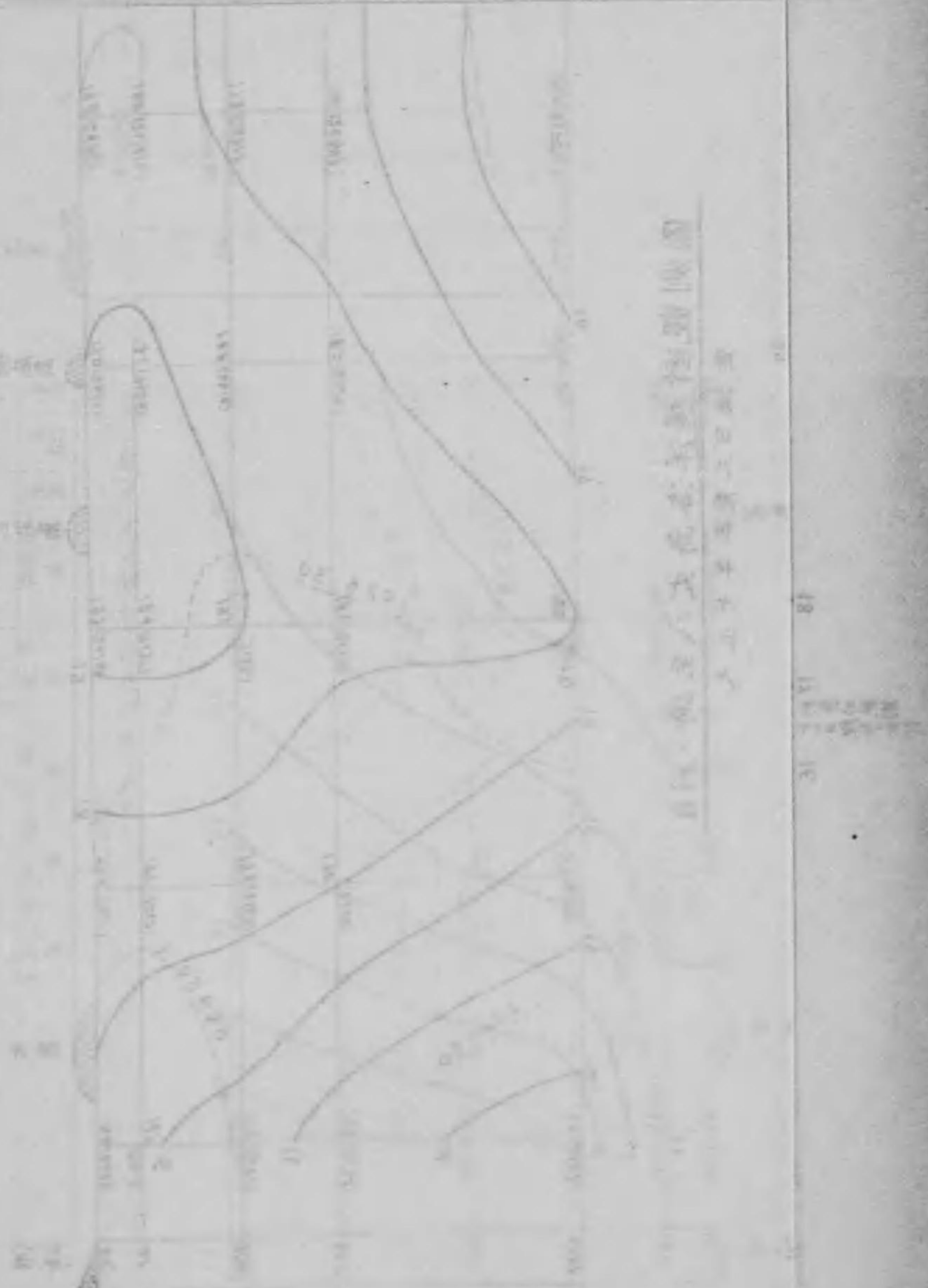


時刻	PM 2-30	AM 6-00	PM 4-00	AM 10-00	AM 6-00	AM 3-00
位置	南三宅島坪田ノ	北八丈五島	二黒瀬八丈島	南御四倉二島	田東宅五島	島ノ島中三宅
候天	B	BC	C	C	C	C
向風	SE	NW	NW	N	N/E	NE
力風	2	2	1	3	3	3
温氣	一七.七	二〇.五	二〇.〇	一九.六	一九.二	二〇.〇
度透明	〇.二	二.五	三.〇	三.〇	九.五	七.〇
色潮	真好	真好	真好	真好	不真	不真
方向	NE	NE	NE	NE	NE	S
流速	急	普	急	急	急	普
水温	同	同	同	同	同	同
表面	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.六	一〇.五
十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.六	一〇.五
三十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.六	一〇.五
五十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.六	一〇.五
百尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.六	一〇.五
備考	鯨群何付真好	海寂寛	七十八尋きばだ鮪及鯨ノ小群ヲ見ルモ何付カズ	海上寂寛	海上寂寛	海上寂寛

大正七年五月十三日三宅島及八丈島附近海洋観測表

本表中海水比重〇.〇〇八五ヲ増示ス

時刻	PM 6-20	PM 3-20	PM 0-10	AM 9-00	AM 5-30
位置	百同	八同	六同	四同	二同
候天	B	B	B	B	B
向風	S/E	E	SSE	E	NE
力風	2	2	2	2	1
温氣	一九.〇	二〇.〇	一九.三	二〇.九	一九.八
度透明	九.〇	二.〇	三.〇	三.五	三.〇
色潮	最良	最良	良	同	稍良
方向	NE	ESE	NE	NE	NE
流速	急	急	急	急	普
水温	同	同	同	同	同
表面	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.五
十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.五
三十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.五
五十尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.五
百尋	一〇.八	一〇.七	一〇.四	一〇.八	一〇.五
備考	島ノ飛躰ヲ見ル	潮色真好ナルモ海上寂寛ナリ	島ノ飛躰ヲ見ルモ魚群ヲ認メズ	前七時頃ヨリ島群ノ飛躰及鮪ノ飛躰ヲ見ル	前七時頃ヨリ島群ノ飛躰及鮪ノ飛躰ヲ見ル

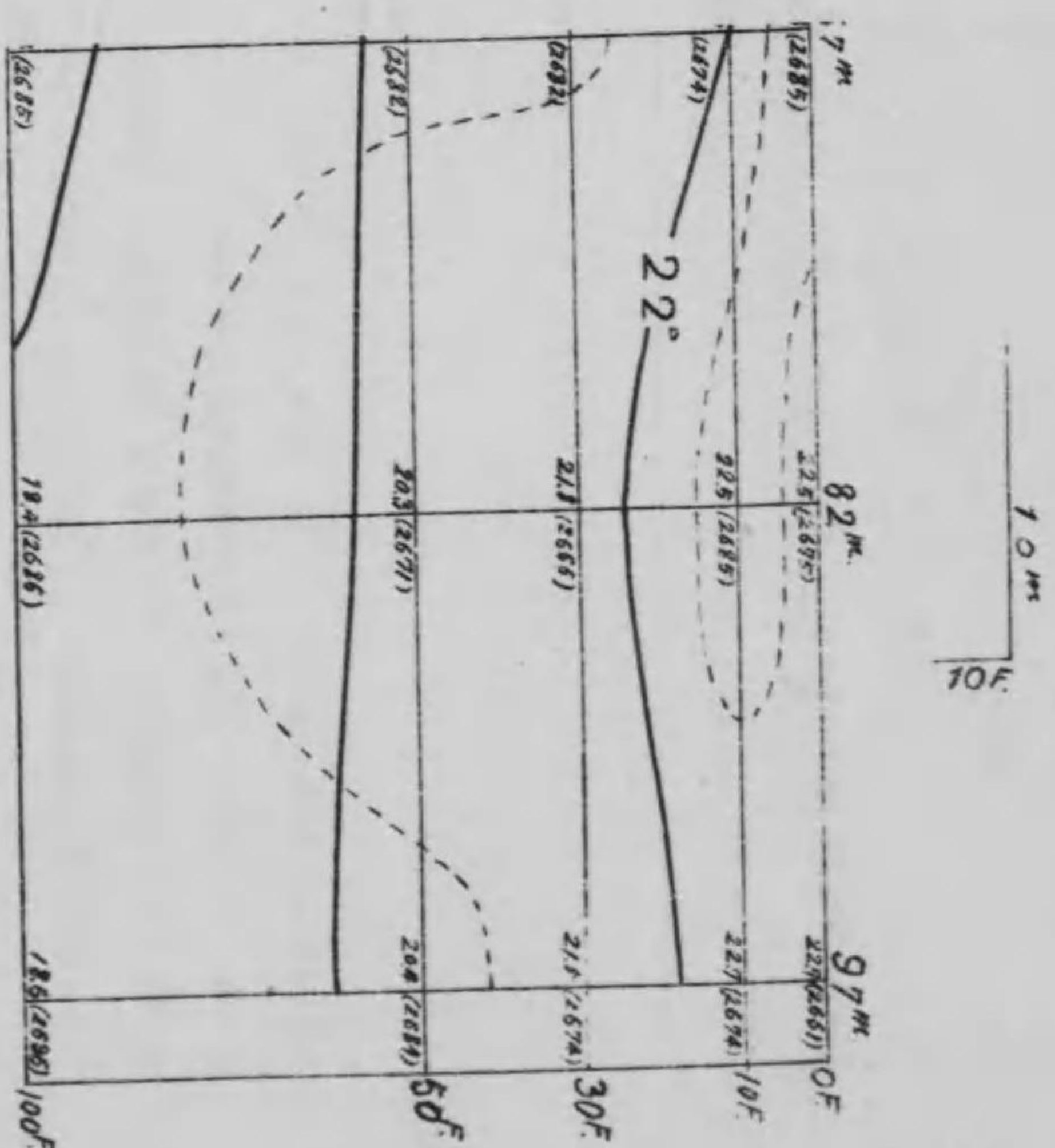


摘要

五月十三日ニ於ケル、洲ノ崎ヨリ大島波浮沖合及三宅島附近ニ亘ル海況ハ潮色概シテ不良ニシテ、表水温十八度五分乃至十九度六分ヲ示シ、潮流ハ南ニ普通ナリ、海上頗ル寂寞ニシテ魚影ヲ認メズ、十四日三宅島附近ニ、三漚内外ハ潮色良好、北東流速ニシテ、同島東ヨリ北方ハ表水温十八度五分ヲ示セルモ、西方ヨリ南及南東岸沖合ハ十九度六、七分ヲ示セリ、而シテ之ノ高温附近即チ坪田沖ニ、三漚ヨリ阿古沖ニ、三漚沖合ニ亘リ、鯨群頗ル多ク、十五日坪田沖合ハ潮色稍不良トナリ鯨群ヲ認メ、御倉島附近ハ潮色頗ル良好、流速急ナルモ魚群ヲ認メズ、十六日黒潮八丈島近海ハ寂寞ナリシモ、三宅島近海ハ前月ノ観測時ニ比シ著シク潮色良好ナルノミナラズ、水温ハ表層ヨリ百尋下ニ至ルマデ甚ダシキ高低ヲ認メズ、二十度乃至十九度五分ヲ示シ、潮流北東ニ頗ル急トナリ一時約五漚位ノ流速ヲ呈シ、鯨群大ニシテ本船ふき丸ハ百十余貫ヲ釣獲セリ。

大正七年六月七日野島崎正東横斷海洋観測表

時刻	位置	候天	向風	力風	温氣	透明度	潮色	潮流	海面	十尋	三十尋	五十尋	百尋	備考
AM 4-40	二同	○	NNE	2	一七・五	九・〇	不良	NE	同	同	同	同	同	
AM 2-00	東同	五	NE	1	一八・〇	—	—	NE	同	同	同	同	同	
AM 1-00	南濱燈臺ノ	○	NNW	1	一八・〇	—	—	WSW	比水温	一〇・三	一〇・三	一〇・三	一〇・三	海鳥駭ハシ



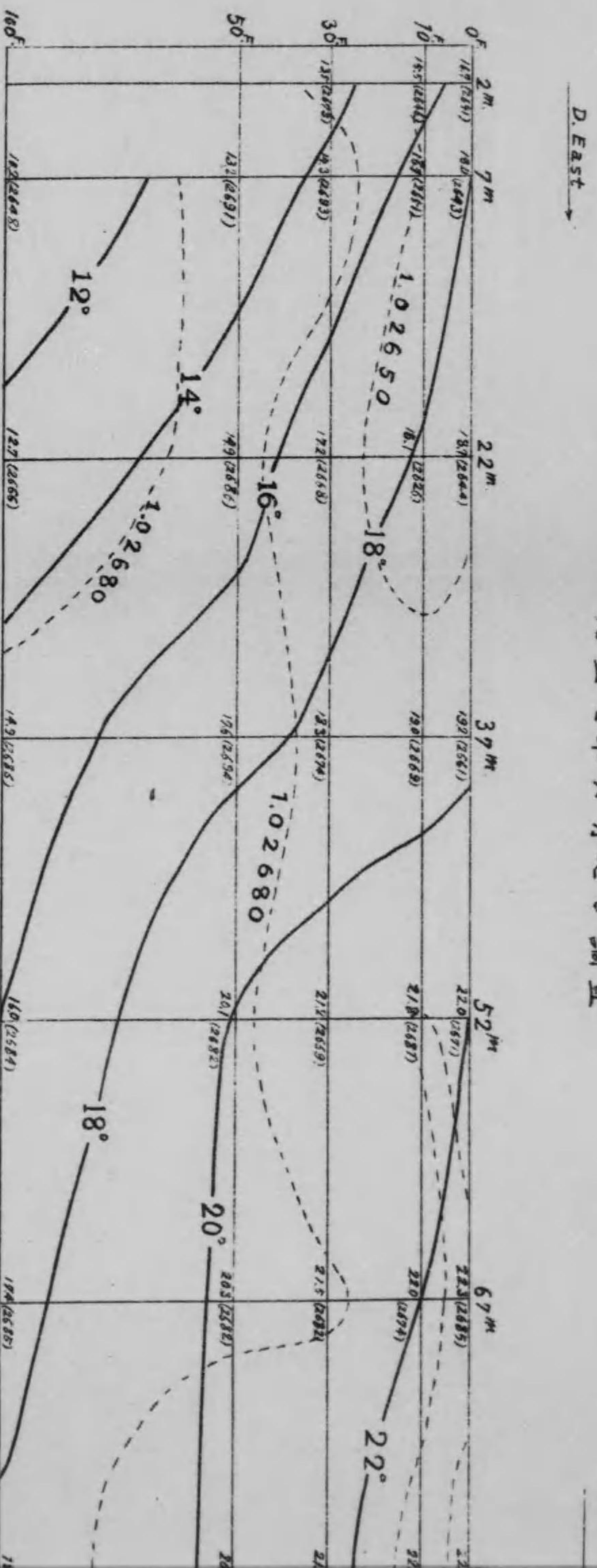
摘要

五月十三日ニ於ケル、洲ノ崎ヨリ大島波浮沖合及三宅島附近ニ亘ル海況ハ潮色概  
 乃至十九度六分ヲ示シ、潮流ハ南ニ普通ナリ、海上頗ル寂寞ニシテ魚影ヲ認めズ  
 潮色ハ好、北東流速ニシテ、同島東ヨリ北方ハ表水温十八度五分ヲ示セルモ、西  
 分ヲ示セリ、而シテ之ノ高温附近即チ坪田沖二、三哩ヨリ阿古沖二、三哩沖合ニ亘  
 ハ潮色稍不良トナリ鯉群ヲ認め、御倉島附近ハ潮色頗ル良好、流速急ナルモ魚群  
 寂寞ナリシモ、三宅島近海ハ前月ノ観測時ニ比シ著シク潮色良好ナルノミナラズ、  
 甚ダシキ高低ヲ認めズ、二十度乃至十九度五分ヲ示シ、潮流北東ニ頗ル急トナリ  
 ニシテ本船ふき丸ハ百十餘貫ヲ釣獲セリ。

大正七年六月七日野島崎正東横断海洋観測表

時刻	位置	候天	向風	力風	温氣	度明透	色潮	潮流	海面	水深	観測
AM 4-40	AM 2-00	AM 1-00	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱	南白濱
二回	東回	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
測	測	測	測	測	測	測	測	測	測	測	測
B	BC	C	NNE	NE	NNW	2	1	1	1	1	1
1.7	1.8	1.9	1.7	1.8	1.9	1.7	1.8	1.9	1.7	1.8	1.9
不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真	不真
NE	NE	WSW	NE	NE	WSW	NE	NE	WSW	NE	NE	WSW
善	級	級	善	級	級	善	級	級	善	級	級
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K
1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K
1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K	1°0'K

野島崎正東海洋横断観測圖  
 大正七年六月七日調査



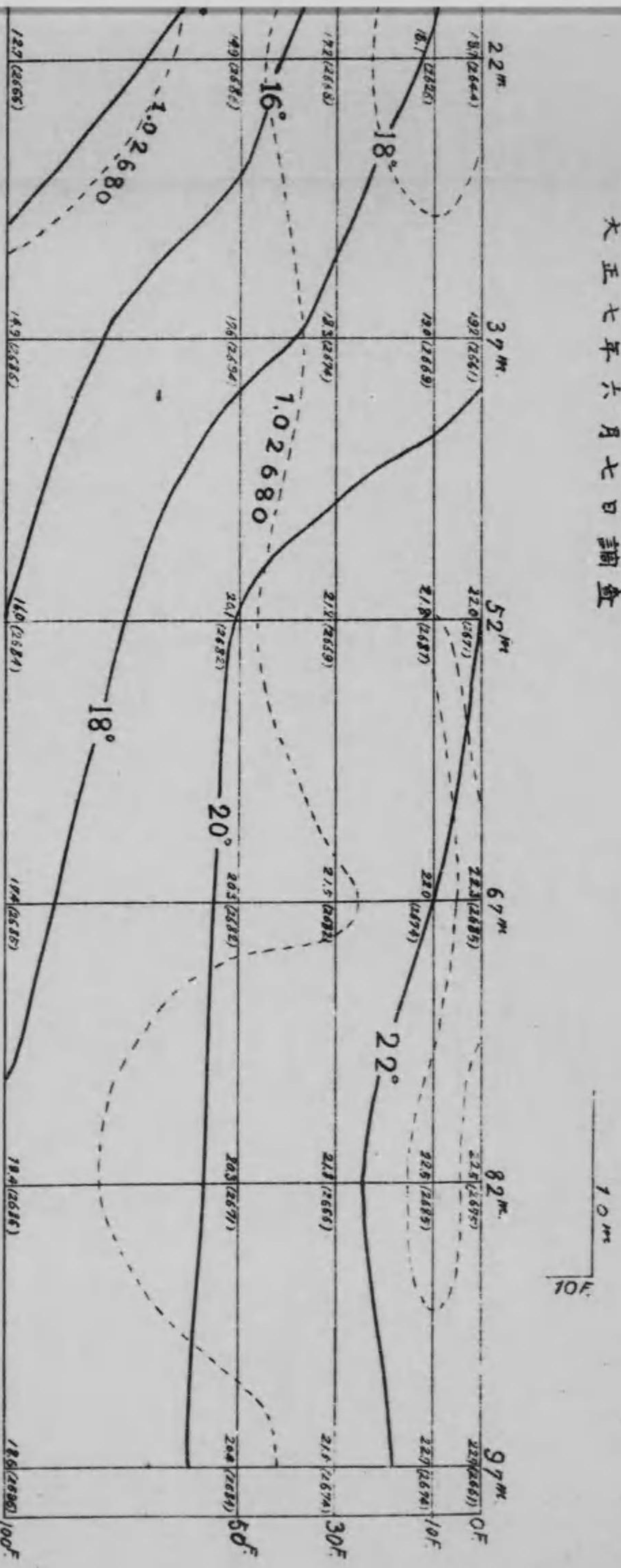
摘要

五月十三日に於ケル、洲ノ崎ヨリ大島波浮沖合及三宅島附近ニ亘ル海況ハ潮色概シテ不良ニシテ、表水温十八度五分乃至十九度六分ヲ示シ、潮流ハ南ニ普通ナリ、海上頗ル寂寞ニシテ魚影ヲ認メズ、十四日三宅島附近ニ、三漚内外ハ潮色良好、北東流速ニシテ、同島東ヨリ北方ハ表水温十八度五分ヲ示セルモ、西方ヨリ南及南東岸沖合ハ十九度六、七分ヲ示セリ、而シテ之ノ高温附近即チ坪田沖ニ、三漚ヨリ阿古沖ニ、三漚沖合ニ亘リ、鯉群頗ル多ク、十五日坪田沖合ハ潮色稍不良トナリ鯉群ヲ認メ、御倉島附近ハ潮色頗ル良好、流速急ナルモ魚群ヲ認メズ、十六日黒潮八丈島近海ハ寂寞ナリシモ、三宅島近海ハ前月ノ観測時ニ比シ著シク潮色良好ナルノミナラズ、水温ハ表層ヨリ百尋下ニ至ルマデ甚ダシキ高低ヲ認メズ、二十度乃至十九度五分ヲ示シ、潮流北東ニ頗ル急トナリ一時約五漚位ノ流速ヲ呈シ、鯉群大ニシテ本船ふさ丸ハ百十余貫ヲ釣獲セリ。

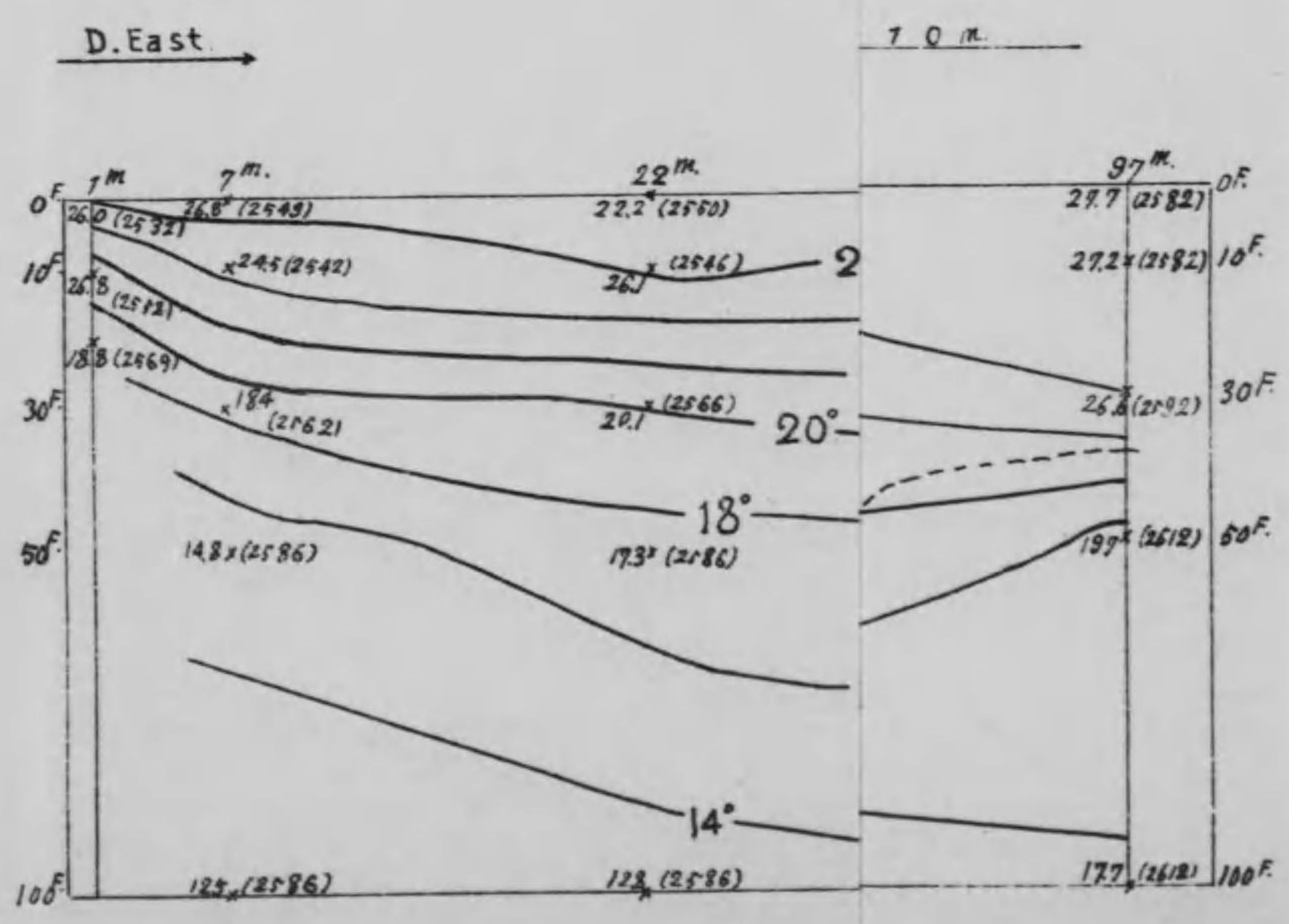
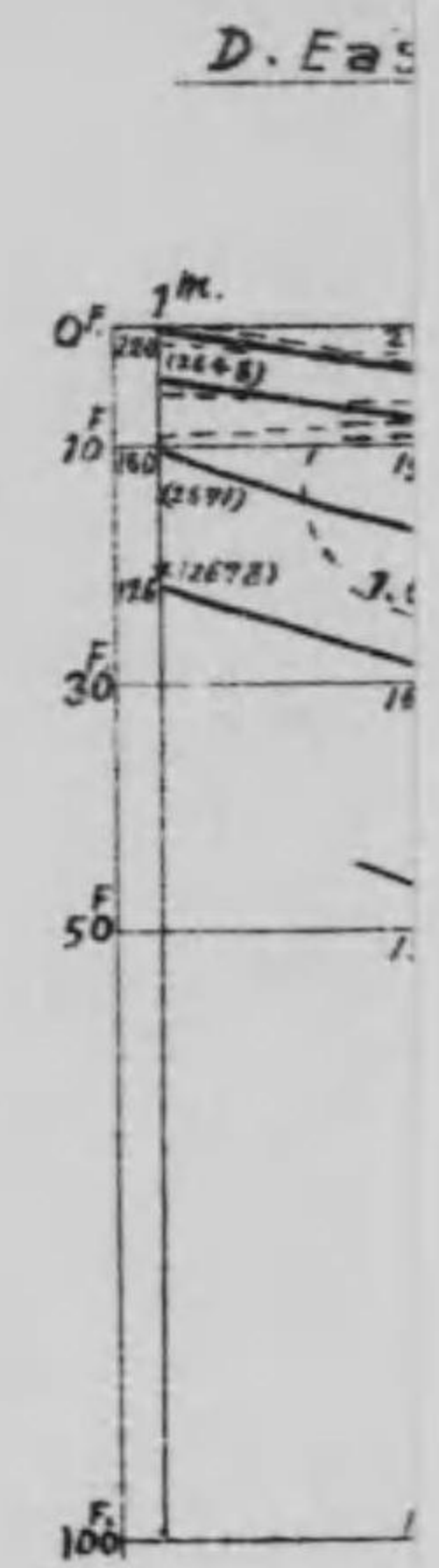
大正七年六月七日野島崎正東横断海洋観測表

時刻	位置	候天	向風	力風	温氣	度明透	色潮	潮流	海面	十尋	三十尋	五十尋	百尋	備考
AM 4-40	二同	○	NNE	2	一七・五	六〇	不真	NE	同	同	同	同	同	
AM 2-00	東同	○	NE	1	一八・〇	—	—	NE	同	同	同	同	同	
AM 1-00	南白濱 二燈臺 沖ノ	○	NNW	1	一八・〇	—	—	WSW	比水 重温	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	海鳥 観ハマ

野島崎正東海洋横断観測圖  
大正七年六月七日 調査







大正七年八月三日野島崎正東海洋觀測表

本觀測ニヨレバ、最高水溫ハ前月ノソレニ二度ヲ加ヘタル二十四度水滯ニシテ、距岸十二、三哩以上ノ表層ニヨリ各層共一般ニ水溫ノ上昇ヲ示シタルモ陸岸ニ近キ深層ニ於テハ寒流ノ餘勢衰ヘザルガ如キ狀況ヲ示セリ、前月中旬ヨリ活況ヲ呈セル、銚子沖漁場ハ本月ニ入り魚群漸次沖合ニ移動シ、百哩乃至百六十哩ニ於テ、釣獲セラルルニ至リ、外房夷隅沖合ニテハ依然魚群ノ來游ヲ認メズ、伊豆七島方面ノ漁場モ亦不漁ニ終レリ。

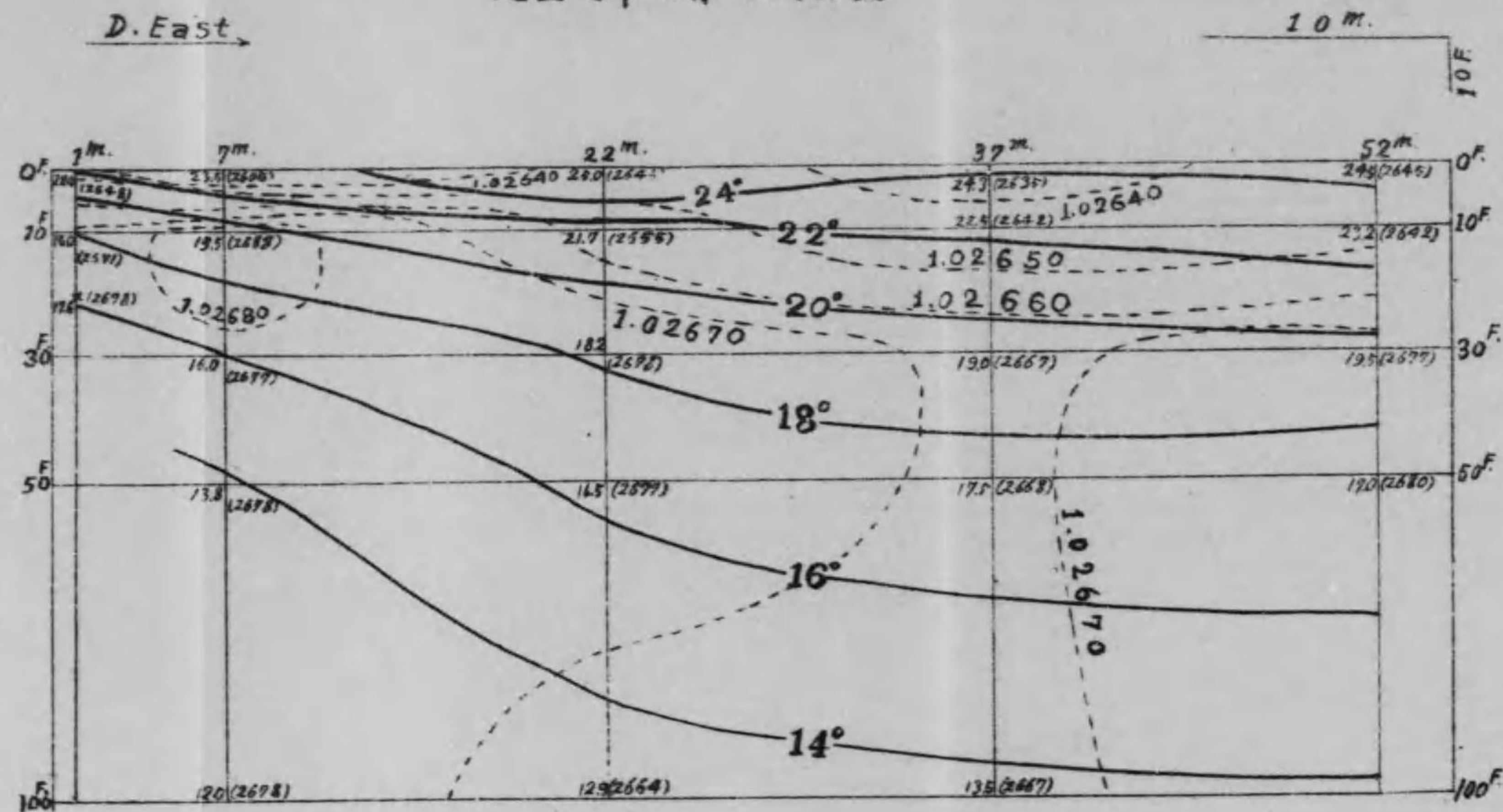
摘要

本表中海水比重ハ〇.〇〇〇〇八五ヲ増示ス

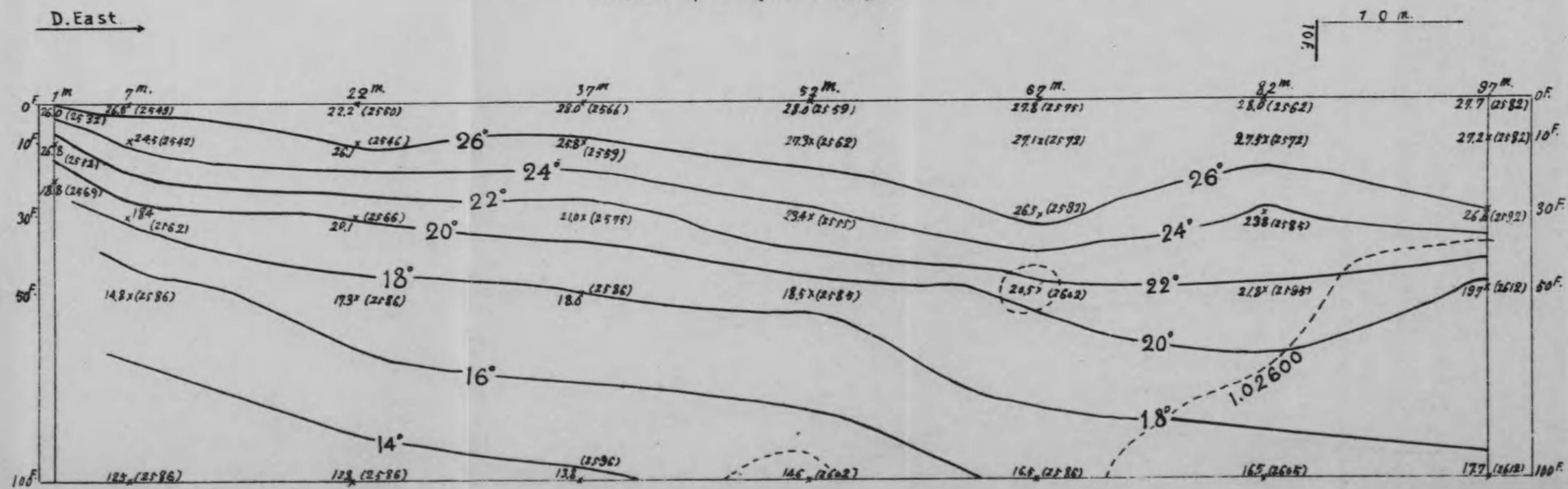
時刻	位置	候天	向風	力風	溫氣	度明透	色潮	方向	速度	海面	十尋	三十尋	五十尋	百尋	備考
PM 8-00	六十七 七 上	CB	SW	3	二五.五		良好	NE	急	同	1.0130	1.0130	1.0130	1.0130	
PM 5-30	五十二 上	C	SW	1	二五.〇	〇.〇	頗良好	NE	急	同	1.0130	1.0130	1.0130	1.0130	
PM 3-20	三十七 上	BC	S/W	1	二六.〇	二.〇	良好	NE	急	同	1.0130	1.0130	1.0130	1.0130	
PM 1-00	東白濱 燈臺	B	SW	2	二六.〇	〇.〇	不長	NE	緩	同	1.0130	1.0130	1.0130	1.0130	
PM 0-00	南白濱 燈臺	B	SSW	2	二五.〇	〇.〇	不長	WSW	急	比水溫	1.0130	1.0130	1.0130	1.0130	海上寂寞



野島崎正東海洋横断観測圖  
大正七年七月八日調査



野島崎正東海洋横断観測圖  
大正七年八月三日調査



摘要

本観測ニヨレバ、最高水温ハ前月ノソレニ二度ヲ加ヘタル二十四度水滞ニシテ、距岸十二、三哩以上ノ表層ニヨリ各層共一般ニ水温ノ上昇ヲ示シタルモ陸岸ニ近キ深層ニ於テハ寒流ノ餘勢衰ヘザルガ如キ狀況ヲ示セリ、前月中旬ヨリ活況ヲ呈セル、銚子沖漁場ハ本月ニ入り魚群漸次沖合ニ移動シ、百哩乃至百六十哩ニ於テ、釣獲セラルルニ至リ、外房夷隅沖合ニテハ依然魚群ノ來游ヲ認メズ、伊豆七島方面ノ漁場モ亦不漁ニ終レリ。

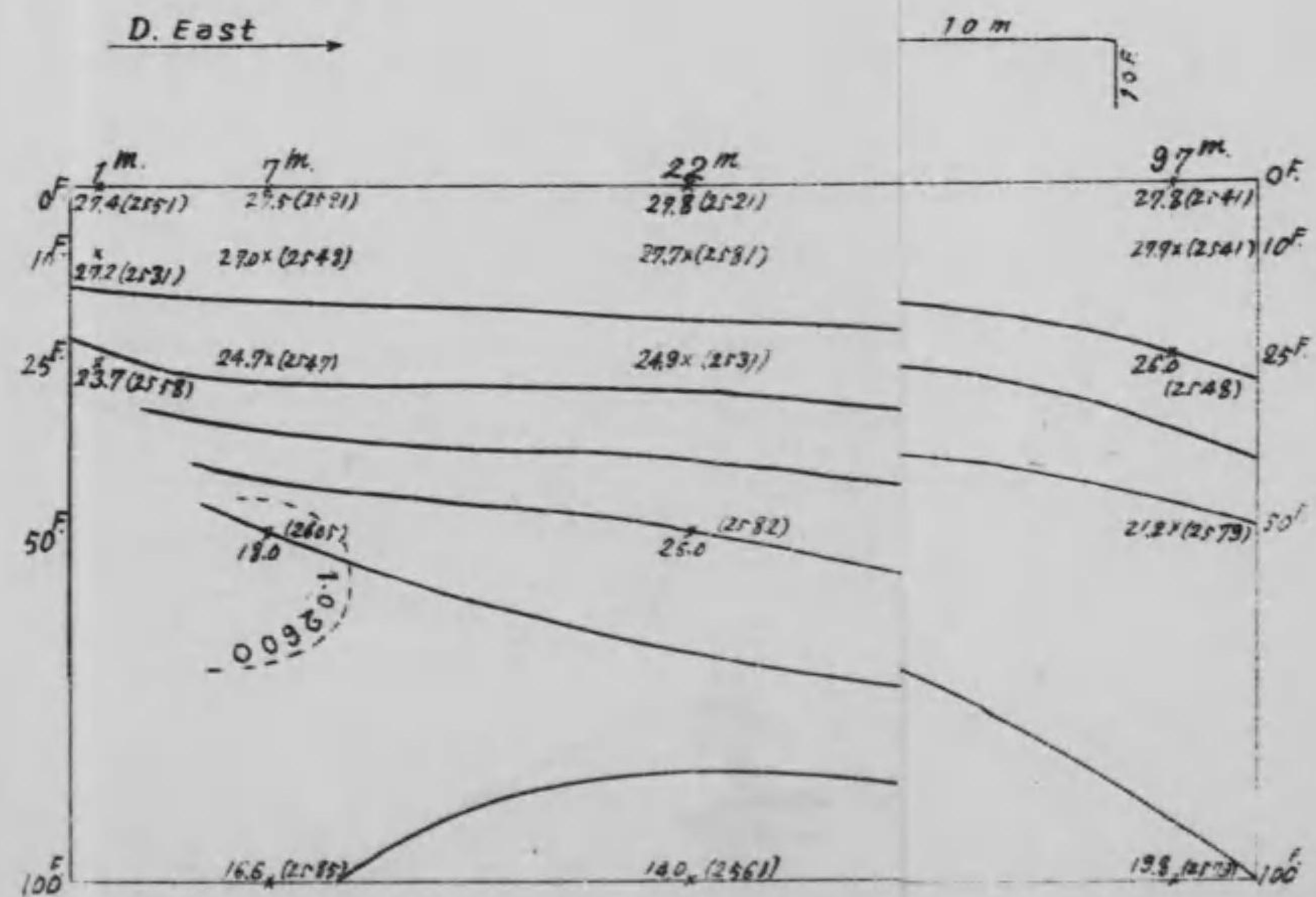
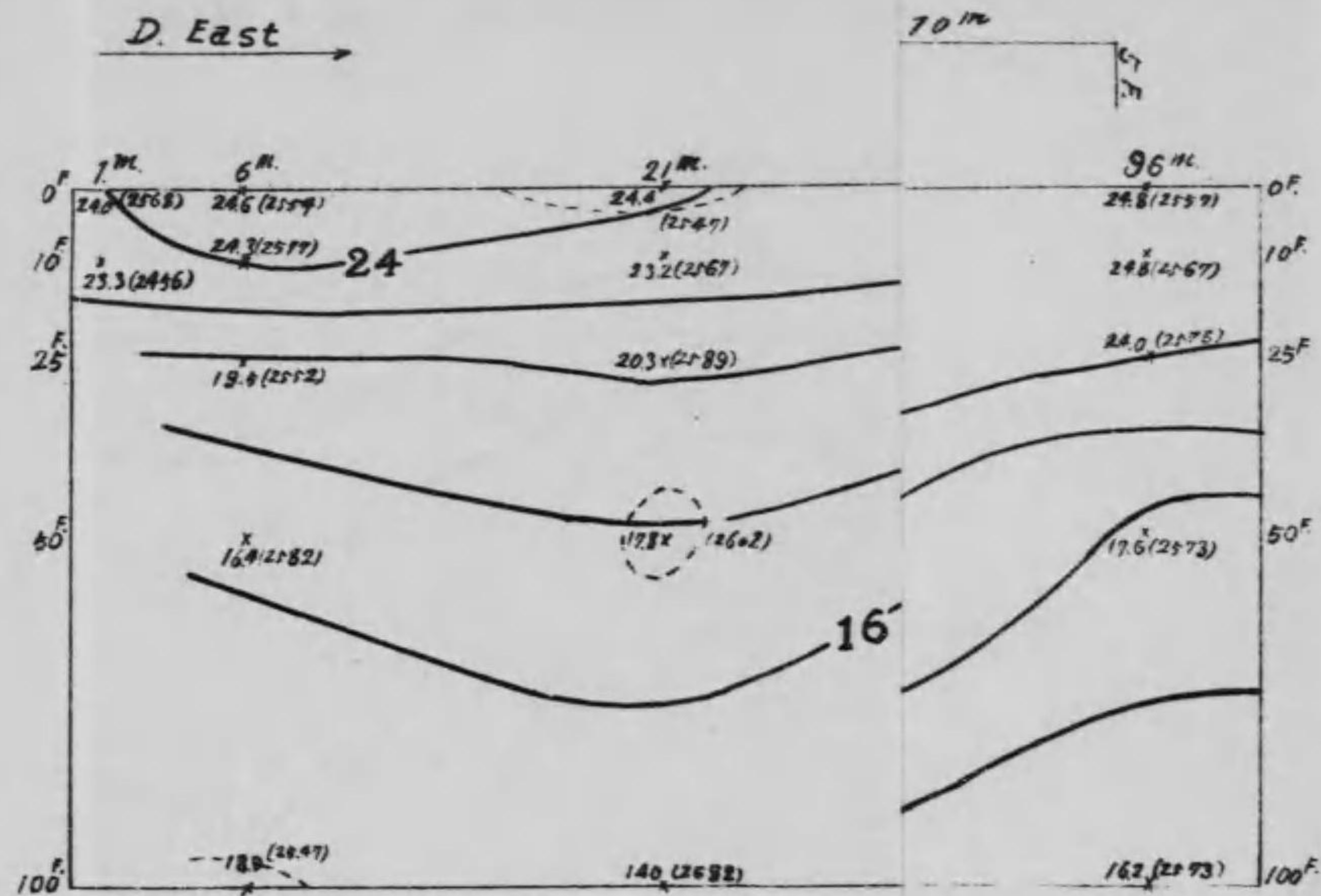
大正七年八月三日野島崎正東海洋観測表

時刻	AM 1-30	PM 11-25	PM 9-35	PM 7-00	PM 4-50	PM 2-30	PM 0-30	AM 11-15
位置	南濱燈臺ノ	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
候天	B	B	B	B	B	B	B	B
向風	ESE	SE	E	E	E	E	ESE	ESE
力風	2	2	2	2	2	2	2	2
温氣	二九、〇	二五、〇	二五、二	二六、〇	二五、七	二七、〇	二六、七	二九、〇
度明透	六、〇	〇	〇	一四、五	一四、五	〇	〇	〇
色潮	不真			真好	真好	真好	真好	不真
潮流	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE	NE
方向	緩	急	急	急	急	急	急	急
速度	比水重	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
海面	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇
十尋	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇
三十尋	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇
五十尋	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇
百尋	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇	一、〇三三、〇
備考				植藻群ノ飛躍多シ	鳥賊アルモ魚影ヲ認メズ	植藻群ノ飛躍ヲ見ル		

摘要

本観測ノ結果ニヨレバ、距岸一哩ノ表水温ハ二十六度ニシテ、前月ニ比シ四度ノ上昇ヲ示シ、前月ノ最高水温ハ二十五度ニシテ距岸二十二哩ノ表面ニアリシモ、本月ニ在リテハ距岸一哩ノ表面下二、三尋ヨリ百哩ノ三十五尋下ニ於テ現ハレ、本月ノ最高水温ハ二十八度線ハ距岸三十七哩以上ノ表層ニ現ハレ、前月ニ比シ平均水温ハ表面ニ於テ三度三分十尋深ニテ三度九分、三十尋深ニシテ二度五分、五十尋ニテ零度九分、百尋深ニテ零度二分ノ高温ヲ示シ、概シテ暖

調査部



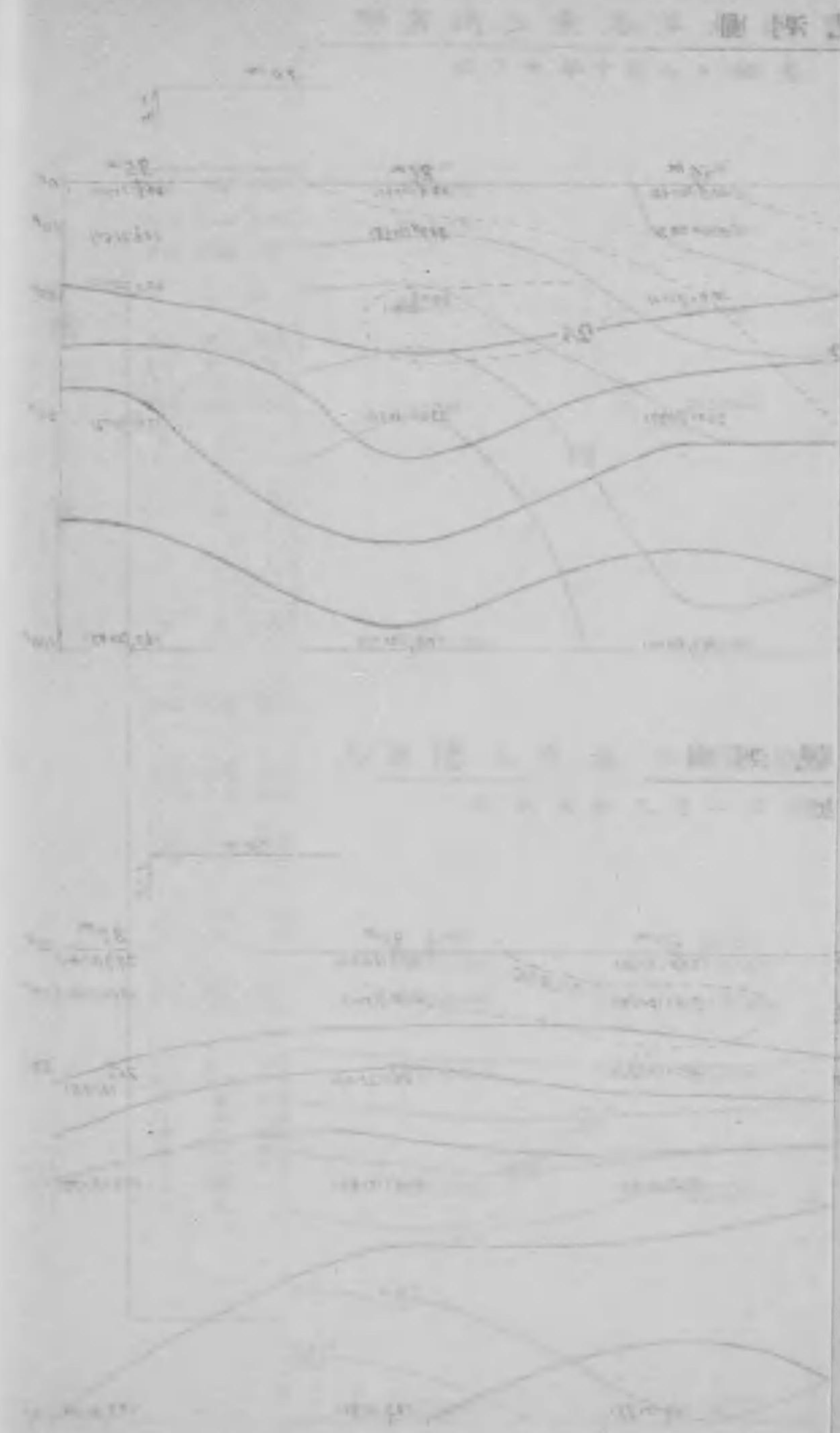
摘要

時刻	位置	候天	向風	力風	温氣	度明透	色潮	方向	流速	海面	十尋	三十尋	五十尋	百尋	備考
AM 9-15	野島崎東一	CR	ESE	1	二七・〇			E	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	時々驟雨アリ
PM 11-50	野島崎東一	C	ESE	2	二六・五			E	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	風浪少シク高シ
PM 9-35	野島崎東一	CR	ENE	2	二六・〇			ENE	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	時々驟雨アリ
PM 7-10	野島崎東一	C	ENE	2	二六・〇			ENE	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	鳥ノ飛躍アリ
PM 4-55	野島崎東一	BC	NE	3	二六・〇			NE	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	天候曇ル
PM 2-40	野島崎東一	B	NE	2	二六・〇			NE	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	魚群認メズ
PM 0-30	野島崎東一	B	NE	2	二六・〇			NNE	同	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	海上不穏
AM 11-15	野島崎東一	BC	NE	2	二七・五		3	NE	比水重	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	一・一七	魚群見エス

大正七年九月二日野島崎正東海洋横断観測表

流ノ沿岸ニ接近セルヲ知ル、然レドモ本月ニ於ケル鯉漁況ハ概シテ不況ニシテ外房夷隅沖合ハ全ク魚群ノ來游ナク、殆ド休漁ノ狀況ヲ呈シ、七島方面モ亦不振ニシテ銚子方面ニ廻航船多シ。





本観測ノ結果ニヨレバ、海況ハ前月ニ比シ著シキ變化ナキモ前月ニ於テハ十四度水帯ハ距岸七哩ノ六尋深ヨリ三十七哩ノ九十五尋深ニ存在セシモ、本月ニアリテハ沿岸ノ水温ハ一般ニ上昇シ、同水帯ハ距岸二十二哩ノ百尋深ニ、僅ニ其ノ一部ヲ現ハスニ過ギズ、概シテ前月ニ比シ、暖流ノ沿岸ニ接近セルヲ知ル、而シテ本月ハ例年「下リ鯉」ノ漁期ナルモ本年ハ漁況頗ル不振ニシテ、外房方面ニアリテハ漁事全ク休止ノ有様ニシテ漁場ハ主トシテ犬吠崎東方四、五十哩以内ノ潮色比較的良好ナル海區ナリ。

大正七年十月五日野島崎正東海洋横断観測表

時刻	位置	候天	向風	力風	温氣	度明透	色潮	方向	流速	表面	十尋	廿五尋	五十尋	百尋	備考
AM 2-0	野島崎燈臺ヨリ南一哩	R	SW	1	二四・五					一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	午前二時ヨリ風力減ズ降雨ナルニ時廿分終ル本船北航ス
PM 11-45	同上	C	SW	3	二四・二					一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
PM 9-30	同上	C	SSW	3	二四・〇					一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
PM 7-15	同上	BC	SSW	3	二四・五					一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
PM 5-5	同上	B	SSW	3	二四・〇	ハ	真不	SW	緩	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
PM 2-50	同上	CR	SW/W	3	二四・〇	〇	真好	NE	緩	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
PM 0-35	同上	BC	S/W	1	二四・五	〇	真好	NE	緩	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
AM 11-40	同上	B	S	1	二四・五	〇	真好	SE	緩	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	
										比水温					

調査部













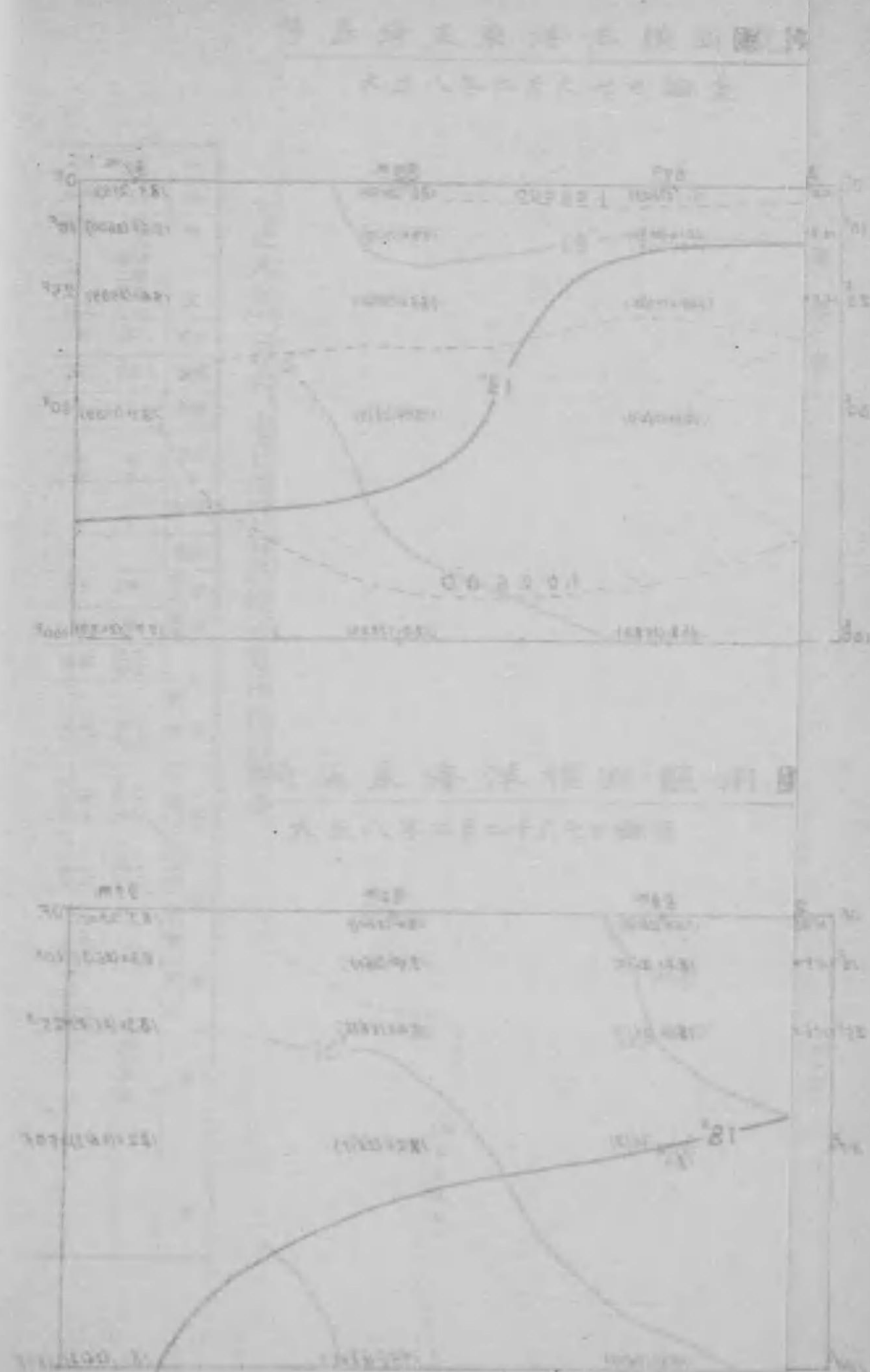
PM	時刻	位置	候天	風向	風力	温氣	透明度	色潮	潮流	海面	水深	観測	備考
0-15		南野島崎燈臺	B	SE	1	六五	三〇	瓦不	緩	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	五十等	海上平穩

大正八年二月廿六、七日野島崎正東海洋横斷観測表

観測結果ニヨレバ、寒流ノ前月ニ比シ更ニ勢力ヲ加へ、暖流ノ流域ハ極メテ縮小セラレシガ如ク、八十湮以上ノ上層、七十五湮附近ノ五十尋深附近ニソノ一支流ト認メ得ベキ水帯ノ存在ヲ知レリ、斯ノ如キ海況ナルヲ以テ鮪漁況ハ一般ニ好況ヲ呈セリ。

摘要

AM	AM	AM	AM	7日 AM	PM
9-55	7-40	5-25	3-10	0-55	10-40
東同	東同	東同	東同	東同	東同
九	八	六	五	三	二
七	七	七	二	七	二
湮上	湮上	湮上	湮上	湮上	湮上
B	B	R	R	BC	B
SW	SSW	S/W	ENE	NE	E
3	1	1	1	1	1
八五	九〇	七〇	六五	六〇	六〇
一五、五	一五、〇				
真好	真好				
ENE	ENE	E	E	ENE	NE
急	急	急	急	急	緩
同同	同同	同同	同同	同同	同同
一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇
一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇
一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇
一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇
一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇	一〇、一五、二〇、二五、三〇
海上平穩	海上平穩	同	天候不真降雨アリ	海上平穩ナレドモ雨雲多ク雨模様トナル	同



AM	27 AM	PM	PM	PM	PM	PM
3-10	0-50	10-35	8-20	6-5	3-45	1-20
東同	東同	東同	東同	東同	東同	東同
九十七	八十二	六十七	五十二	三十七	二十二	七
漕上	漕上	漕上	漕上	漕上	漕上	漕上
B	B	B	B	B	B	B
NNW	NW	SW	SSW	S	SE	SSE
2	1	2	3	2	2	1
九、〇	九、三	八、三	八、五	八、〇	一〇、〇	一〇、五
					真好	真不
NE	NE	ENE	ENE	NE	ENE	WSW
緩	緩	緩	緩	緩	緩	比水
同同	同同	同同	同同	同同	同同	重温
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
一〇、八、三	一〇、八、一	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇	一〇、八、一〇
同	海上平穩					同

調査部

一一八

摘要

観測結果ニヨレバ、前回ノ観測時ニ比シ、暖流ハ漸次勢力ヲ加へ、六十哩以東ノ十尋乃至二十五尋深ハンソノ中心勢力ニアルベク、寒流ハ陸岸ニ近ク壓セラレ、稍減退セルヲ知レリ、外房方面ニ於テハ鮪漁好況ヲ告グルニ至ラズ、びんなが延縄ニ轉漁スルモノ尠カラズ。

一、沿岸漁場観測竝ニ漁況

本観測ハ海洋横断観測ト相俟ツテ、海洋トノ關係ヲ明カニセンタメ、沿岸重要ナル地、海上郡本銚子町、山武郡片貝村

夷隅郡勝浦町、安房郡鴨川町及ビ同郡富崎村ノ五ヶ所ニ囑託員ヲ置キ、毎月三回ノ定時観測ヲ施行セシムルト同時ニ一般漁況ヲ調査シ、漁獲豊凶ノ原因並ニ重要魚族ノ回游状態等ヲ究明スルノ資料ヲ蒐集ニ力メタルモ、観測ニ至リテハ時化等ノ不可抗力ノ爲メ所定ノ観測ヲ實施シ得ザリシハ甚ダ遺憾トスルトコロナリ。

観測位置 海上郡本銚子町女夫崎ヲ距ル東方二哩

年月日	時刻	天候	風向	風力	氣温	海水	潮	透明度	潮色	潮干満
七、五、一六	前 二、〇〇	曇	南	和	一七、九	一〇、八、七	北	弱	清	上九合
五、三、一	前 一〇、〇〇	曇	南	和	一九、九	一〇、九、〇	北	弱	中清	上九合
六、五、	前 二、〇〇	曇	南東	和	一九、九	一〇、九、四	北	弱	清	上九合
六、一八	前 九、〇〇	微曇	北東	和	一九、九	一〇、八、一	北	弱	中清	上八合
六、三〇	後 六、〇〇	晴	南	強	二二、九	一〇、七、五	南	強	清	上九合
七、一七	前 九、〇〇	曇	北	和	二四、九	一〇、七、四	北	弱	中清	上九合
七、二九	前 八、三〇	晴	北	和	二七、九	一〇、七、四	北	極弱	清	上九合
八、九	前 八、〇〇	晴	南	和	二七、四	一〇、七、七	北	強	清	滿潮
八、三一	後 六、〇〇	晴	北東	和	二七、七	一〇、七、一	南西	極弱	中清	上九合

調査部

一一九





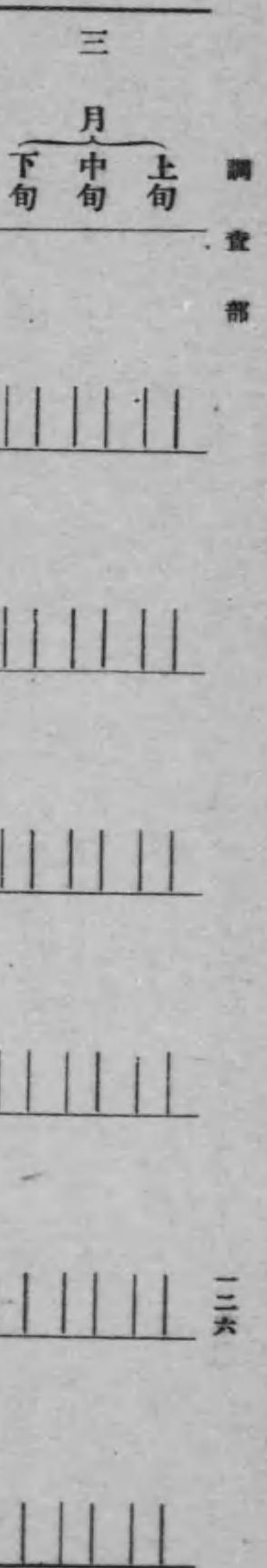


調 査 部	七、五後	七、二五后	七、二八前	八、一〇後	八、一九前	八、二五前	九、六後	九、二七後	一〇、八後	一〇、一七前	一〇、二六後	一一、八後	一一、二〇後	一一、三〇後	一二、六後	
	一、〇〇曇	一、〇〇曇	八、〇〇晴	一、〇〇曇	八、〇〇曇	一〇、〇〇晴	二、〇〇晴	二、〇〇雨	二、〇〇曇	一〇、〇〇曇	一、〇〇曇	一、〇〇曇	一、〇〇曇	一、〇〇曇	一、〇〇曇	
	北弱	北弱	南強	南強	南強	南強	南強	南強	北強	北強	北強	北強	北強	北強	北強	
	二、五	三、四	二、一	二、八	二、五	二、五	二、九	二、〇	二、〇	二、〇	二、〇	一、七	一、六	一、八	一、三	
	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	一、〇、二〇、七	一、〇、二、一、八	一、〇、二、二、八	一、〇、二、三、七	一、〇、二、四、七	一、〇、二、五、七	一、〇、二、六、七	一、〇、二、七、七	一、〇、二、八、七	一、〇、二、九、七	一、〇、三、〇、七	一、〇、三、一、七	一、〇、三、二、七	一、〇、三、三、七	一、〇、三、四、七	一、〇、三、五、七
	一、〇、一、九、七	一、〇、二、〇、七	一、〇、二、一、七	一、〇、二、二、七	一、〇、二、三、七	一、〇、二、四、七	一、〇、二、五、七	一、〇、二、六、七	一、〇、二、七、七	一、〇、二、八、七	一、〇、二、九、七	一、〇、三、〇、七	一、〇、三、一、七	一、〇、三、二、七	一、〇、三、三、七	一、〇、三、四、七
	南稍急	南稍急	北稍急	北稍急	北稍急	北稍急	北稍急	北稍急	北稍急	南稍急	南稍急	南稍急	南稍急	南稍急	南稍急	南稍急
	七、〇濁	八、〇濁	一〇、〇清	八、〇濁	〇、九濁	〇、九濁	九、〇稍濁	九、〇清	九、〇清	九、〇濁	九、〇濁	九、〇濁	九、〇濁	九、〇濁	九、〇濁	九、〇濁
	下三合	下七合	下二合	上四合	下四合	下三合	下四合	上四合	上二合	上三合	下七合	上四合	下五合	上四合	上六合	上四合

一一七

觀測位置 夷隅郡勝浦八幡崎ヲ距ル南東二哩

調 査 部	七、四、五前	四、一八前	四、二九後	五、八前	五、二五後	五、二六後	六、六前	六、一三前	六、二八前
	一〇、〇〇晴	一〇、〇〇晴	一〇、〇〇晴	一〇、〇〇曇	一〇、〇〇晴	一〇、〇〇曇	一〇、〇〇曇	一〇、〇〇曇	一〇、〇〇曇
	北強	東弱	南西弱	北弱	北東弱	北東強	南無	北弱	南弱
	一、三、七	一、八、一	一、九、〇	一、九、五	一、九、六	一、六、五	一、九、六	二〇、九	三、九
	比水重	同	同	同	同	同	同	同	同
	一、〇、一、三、八	一、〇、一、七、二	一、〇、一、七、三	一、〇、一、七、五	一、〇、一、七、六	一、〇、一、六、二	一、〇、一、七、八	一、〇、一、七、八	一、〇、一、五、九
	一、〇、一、三、八	一、〇、一、七、二	一、〇、一、七、三	一、〇、一、七、五	一、〇、一、七、六	一、〇、一、六、二	一、〇、一、七、八	一、〇、一、七、八	一、〇、一、五、九
	南稍急	西稍急	北稍急	南稍急	南稍急	西稍急	北稍急	北東稍急	北東稍急
	濁	清	清	濁	濁	濁	濁	濁	濁
	三千合	二千合	上二合	下	下九合	上七合	上四合	下二合	下八合



一一六



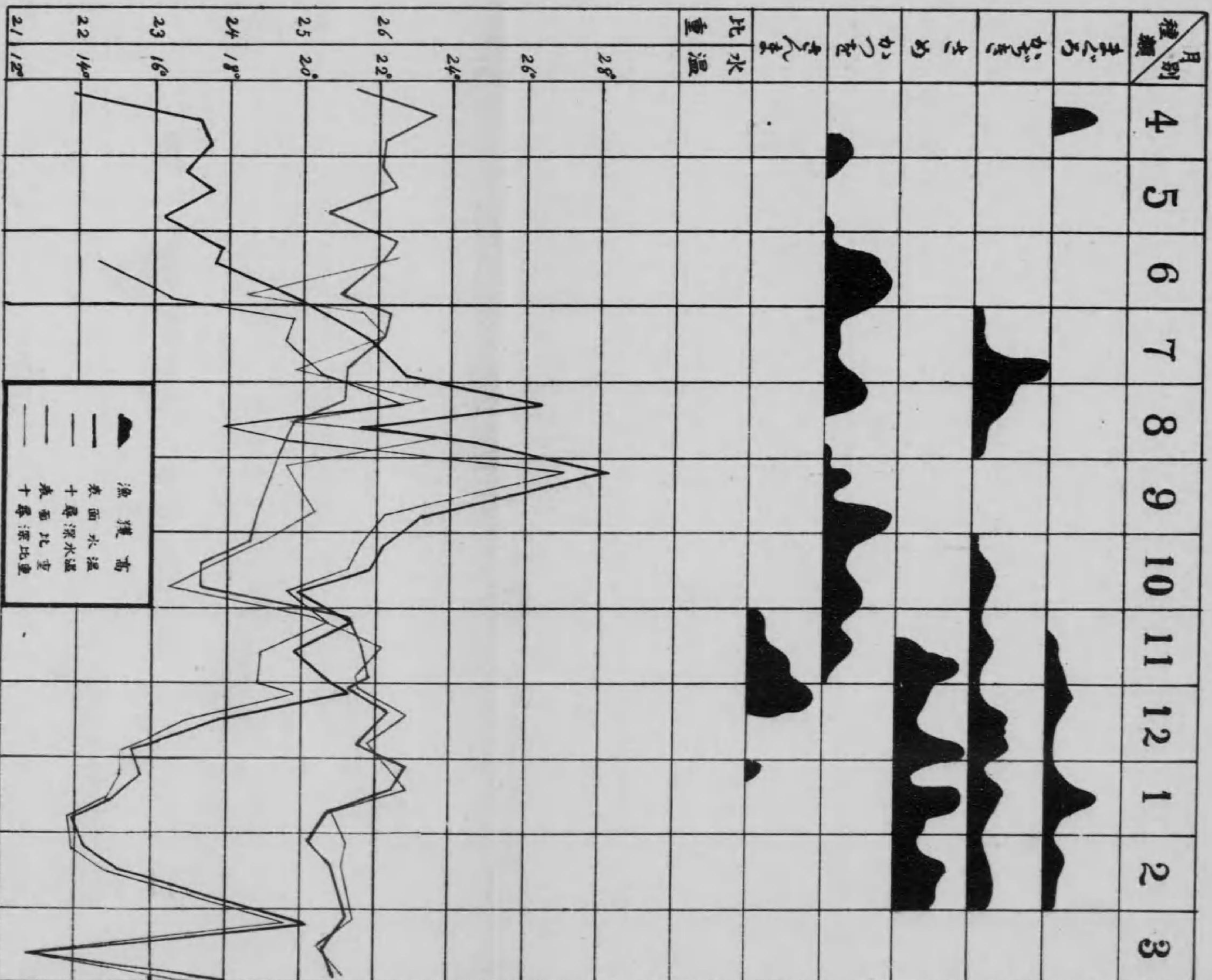


一、一七	後	二、〇〇	晴	西	弱	三、九	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	北	稍緩	一、〇〇	清	上二合
一、二六	前	二、〇〇	曇	北	弱	二、八	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	南	稍急	一、〇〇	清	下四合
二、七	前	一〇、〇〇	晴	西	強	三、四	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	北	急	一〇、〇	清	下三合
二、二七	後	一、〇〇	曇	北	弱	一、二	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	北	急	一〇、〇	清	下四合
三、六	後	一、〇〇	曇	北	弱	一、七	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	東	稍急	一〇、〇	清	下八合
三、二〇	後	二、〇〇	晴	西	強	三、五	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	北	稍急	一〇、〇	清	下七合
三、三〇	後	二、〇〇	晴	北	弱	二、四	同	一、〇八	一、〇八	一、〇八	南	急	九、〇	稍濁	上三合

勝浦漁況

四	上旬	中旬	下旬	鮪	かちき	鮫	鯉	秋刀魚	鱈
				五三九 三一四			一、七八 一、三三		

美濃郡勝浦町



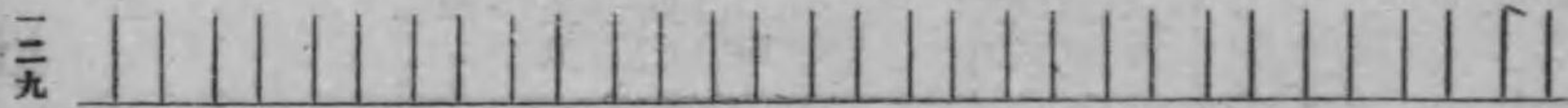
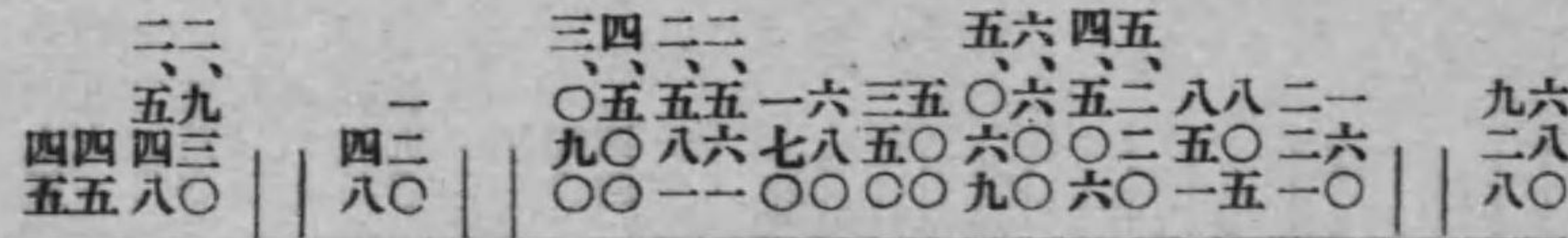
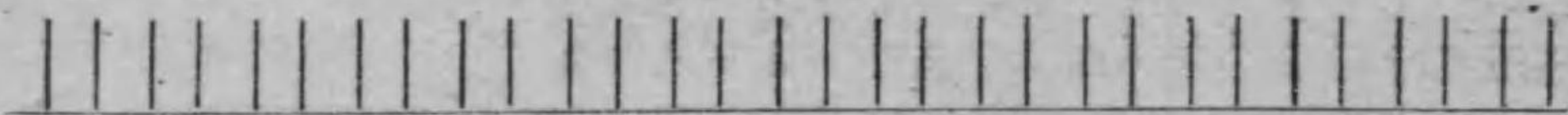
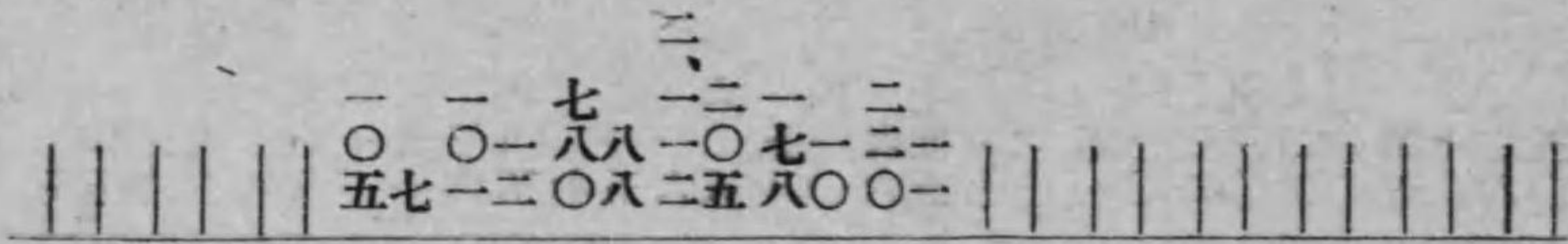
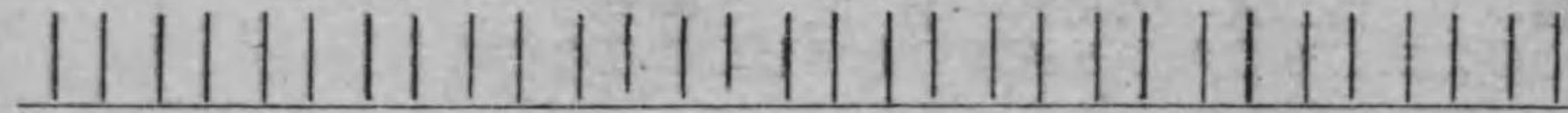
調查部

九 八 七 六 五

月 月 月 月 月

下中上 下中上 下中上 下中上 下中上

旬旬旬 旬旬旬 旬旬旬 旬旬旬 旬旬旬



表一 調查部 調查部

